

令和5・6年度 福岡県体育研究所 調査研究報告書

「体育の授業における
学習評価の考え方・進め方」

令和7年3月



はじめに

令和の時代、教育は大きな変革の中にあります。将来の予測が困難な時代において、子供たちが未来の社会の創り手として活躍し、課題解決を通じて持続可能な社会を維持・発展させていくことが求められています。あわせて、Society 5.0 の時代を見据え、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどの資質・能力を備えた人材の育成が重要となっています。

体育・保健体育の授業においても、単に運動やスポーツの楽しさを味わうだけでなく、新しい時代に求められる資質・能力を育成する視点が不可欠です。そのためには、学習評価を通じて、「どのような力が身に付いたのか」を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、子供たち自身が学びを振り返り、次の学習へとつなげることが求められます。こうした視点から、評価を教育課程の改善に役立てる「指導と評価の一体化」の考え方がますます重要となっています。

このような背景を鑑み、令和5年度から令和6年度にかけて、「体育の授業における学習評価の考え方・進め方」をテーマに調査研究を行いました。本報告書では、学習評価の考え方や進め方について「理論編」、「実践編」、「アンケート結果」、「Q&A」の4つの内容で構成しました。「理論編」では学習評価の基本的な考え方を示し、「実践編」ではその考え方に基づいた小学校・中学校・高等学校での具体的な実践例を紹介しています。また、「アンケート結果」では現場の先生方が感じている課題や困り感の実態を調査し、「Q&A」ではそれらの課題に対する具体的な解決策を提示しました。これらの内容は、先生方の体育・保健体育における授業改善に向けたヒントとなっています。本報告書が、体育・保健体育の授業における学習評価の充実につながるのと同時に、子供たちの学びを充実させ、運動やスポーツの楽しさを心から味わえる授業づくりに寄与することを願っています。

最後に、本調査研究の実施にあたり、多大なるご指導、ご協力をいただきました調査研究委員の方々ならびに研究協力校の方々に、心より深く感謝申し上げます。

令和7年3月
福岡県体育研究所
所長 末富 寿典

はじめに

理論編	1
1 学習評価について	3
2 学習評価の考え方	5
3 学習評価の進め方	8
実践編	15
本調査研究における「単元の評価規準」と「実践編」について	17
小学校	
実践1 第1学年 A 体づくりの運動遊び イ 多様な動きをつくる運動遊び	20
実践2 第3学年 A 体づくり運動 イ 多様な動きをつくる運動	24
実践3 第6学年 A 体づくり運動 イ 体の動きを高める運動	28
実践4 第2学年 D 水遊び ア 水の中を移動する運動遊び イ もぐる・浮く運動遊び	32
実践5 第3学年 D 水泳運動 ア 浮いて進む運動 イ もぐる・浮く運動	36
実践6 第6学年 D 水泳運動 ア クロール イ 平泳ぎ ウ 安全確保につながる運動	40
実践7 第2学年 E ゲーム ア ボールゲーム「ボール蹴りゲーム」	44
実践8 第3学年 E ゲーム ウ ベースボール型ゲーム「ティーボール」	48
実践9 第6学年 E ボール運動 イ ネット型「ソフトバレーボール」	52
中学校	
実践10 第1学年 A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 体の動きを高める運動	56
実践11 第3学年 A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に生かす運動の計画	60
実践12 第2学年 E 球技 イ ネット型「バドミントン」	64
実践13 第3学年 E 球技 ア ゴール型「バスケットボール」	68
実践14 第1学年 F 武道 イ 剣道	72
実践15 第3学年 F 武道 イ 剣道	76

高等学校

実践 16	第 1 学年	A	体づくり運動	ア	体ほぐしの運動	イ	実生活に生かす運動の計画	80
実践 17	第 2 学年	A	体づくり運動	ア	体ほぐしの運動	イ	実生活に生かす運動の計画	84
実践 18	第 1 学年	E	球技	ア	ゴール型「ハンドボール」			88
実践 19	第 2 学年	E	球技	ア	ゴール型「ハンドボール」			92
実践 20	第 1 学年	G	ダンス	ア	創作ダンス			96
実践 21	第 3 学年	G	ダンス	ウ	現代的なリズムのダンス			100
資料編 (アンケート結果)								105
Q & A								111
研究組織								122

理 論 編

Ⅰ 学習評価について

(1) 学習指導要領から

学習指導要領総則（小学校、中学校、特別支援学校〔小学部・中学部〕は平成 29 年改訂。高等学校は平成 30 年改訂。特別支援学校〔高等部〕は平成 31 年改訂。）においては、学習評価の充実について、新たに以下のように示されました。

- ・児童（生徒）のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科（・科目）等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。
- ・創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて児童（生徒）の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること。

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うと同時に、評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価することを示し、授業の改善と評価の改善を両輪として、組織的かつ計画的に行っていくことの必要性を明示しています。

(2) 小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）から

平成 31 年 3 月の文部科学省初等中等教育局長通知において、以下のように示されています。

○カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価

「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っていること。

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

指導と評価の一体化の観点から、新学習指導要領で重視している「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っていること。

○学習評価について指摘されている課題

- ・学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く、評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない。
- ・現行（平成 20 年、21 年告示の学習指導要領）の「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭しきれていない。
- ・教師によって評価の方針が異なり、学習改善につなげにくい。
- ・教師が評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できない。
- ・相当な労力をかけて記述した指導要録が、次の学年や学校段階において十分に活用されていない。

これらのことを踏まえ、体育科・保健体育科学習において、学習指導要領の改訂の趣旨を実現するためには、学習評価の在り方が極めて重要であり、学習評価を真に意味のあるものとすることが重要であると考えます。

（3）第4期教育振興基本計画から

令和 5 年 6 月に閣議決定された第 4 期教育振興基本計画では、「2040 年以降の社会を見据えた持続可能な社会の作り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を掲げ、5 つの基本方針と 16 の教育政策の目標、基本施策、指標を示しています。

基本方針の一つとして、「グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成」があげられています。その中で、『令和の日本型学校教育』答申において指摘されている『正解（知識）の暗記』や『正解主義』への偏りから脱却し、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けて、『主体的・対話的で深い学び』の視点から授業改善を行うことは、社会の持続的な発展を生み出す人材育成において不可欠である」と記されています。

また、教育政策の目標 1 「確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成」に向けた基本施策として、「新しい時代に求められる資質・能力を育む学習指導要領の実施」が示されています。さらに、教育政策の目標 3 「健やかな体の育成、スポーツを通じた豊かな心身の育成」を目指すための基本施策として、「学校体育の充実・高度化」が示されています。

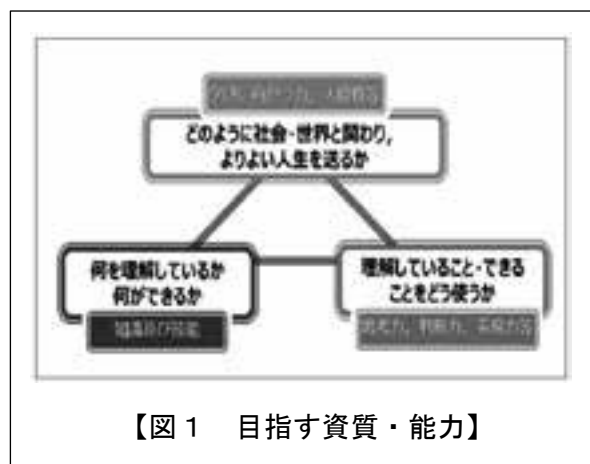
これらの施策を推進するためには、「指導と評価の一体化」を充実させることが重要です。教師が日々の体育科・保健体育科の学習指導において、指導内容を適切に評価し、その成果や課題を踏まえて次の学習指導につなげていくことで、確かな学力やたくましく生きるための健康・体力、そして、新しい時代に求められる資質・能力の育成を一層促進することができると考えます。

2 学習評価の考え方

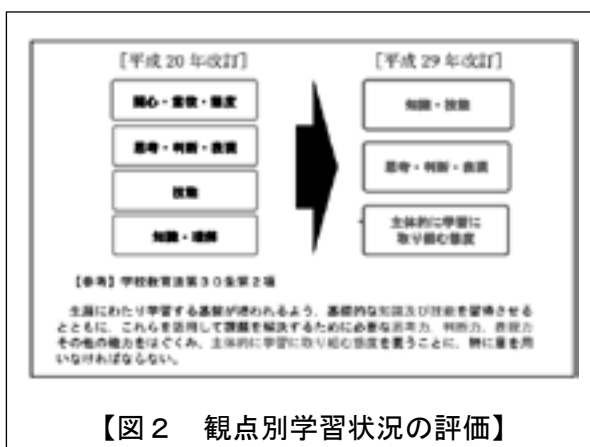
(1) 評価の観点の整理

学習指導要領においては、【図1】のように、知・徳・体にわたる「生きる力」を児童生徒に育むために、全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す資質・能力の3つの柱で再整理されました。

また、【図2】のように、観点別学習状況の評価については、こうした教育目標や内容の再整理を踏まえて、小・中・高等学校の各教科を通じて、4観点から3観点到整理されました。



【図1 目指す資質・能力】



【図2 観点別学習状況の評価】

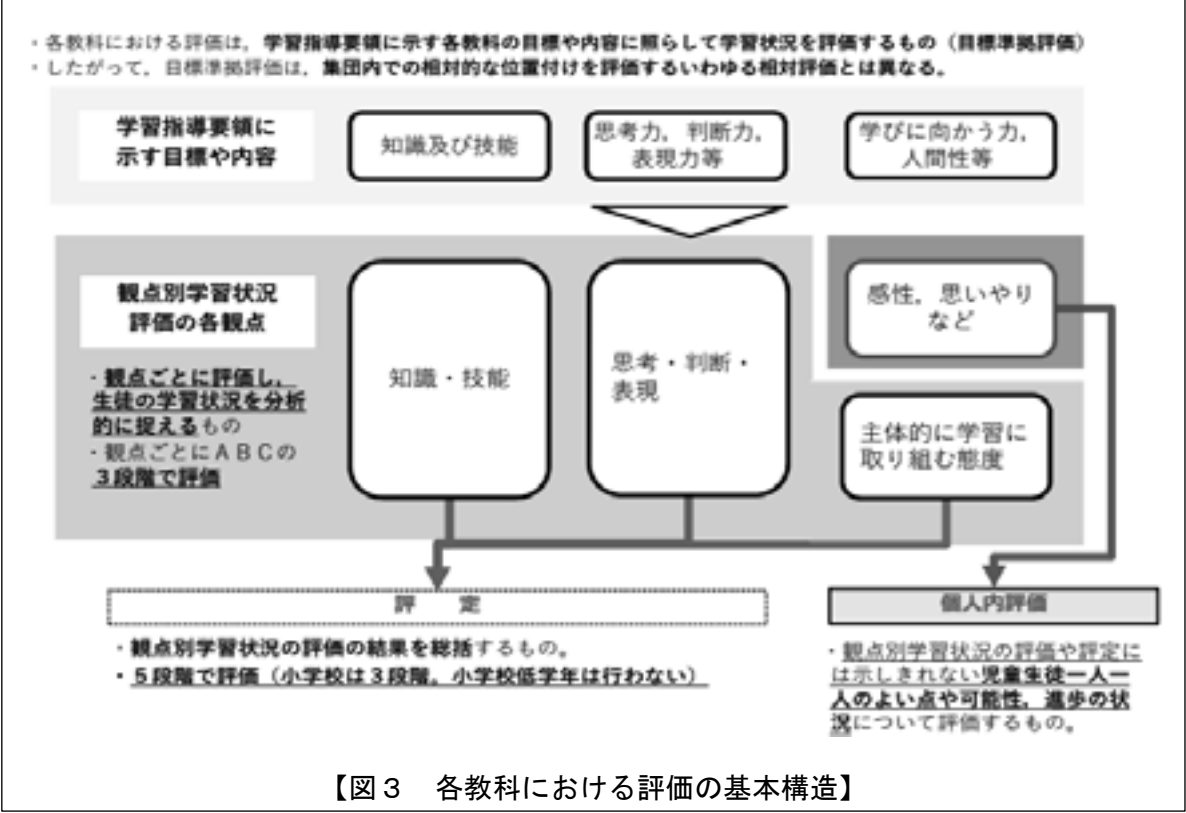
(2) 評価の基本構造

学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものです。児童生徒に「どのような力が身についたか」という学習の成果を的確に捉え、児童生徒が自らの学びを振り返って次の学習に向かうことができるようにするとともに、教師が指導の改善を図ることができるようにするためにも、学習評価の在り方が重要です。

各教科の学習評価においては、学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」と、これらを総括的に捉える「評定」の両方について、学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施するものとされています。また、観点別学習状況の評価や評定には示しきれない児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況については、「個人内評価」として実施するものとされています。小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）では、「観点別学習状況の評価になじまず個人内評価の対象となるものについては、児童生徒が学習したことの意義や価値を実感できるよう、日々の教育活動等の中で

児童生徒に伝えることが重要であること。特に『学びに向かう力、人間性等』のうち『感性や思いやり』など児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し児童生徒に伝えることが重要であること。」と示されています。

(1) も踏まえ、評価の基本構造が図示化されたものが【図3】です。



また、3観点の評価方法についての考え方は、以下のようになります。

①知識・技能

〔評価〕

学習の過程を通した「知識及び技能」の習得状況について評価を行うとともに、それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価します。

〔方法〕

- ・児童生徒の動きの習得の様子を観察によって見取る方法
- ・学習カードに記入された内容から見取る方法
- ・ICT機器を用いて動きを見取る方法 等

②思考・判断・表現

〔評価〕

「知識及び技能」を活用して課題を解決する等のために必要な「思考力、判断力、表現力等」を身に付けているかを評価します。

〔方法〕

- ・ 思考し判断したことを学習カードに書くことによって見取る方法
- ・ 友達と話し合ったり、発表したり、身振りで表現したりしている様子を見取る方法 等

③主体的に学習に取り組む態度

〔評価〕

「知識及び技能」を習得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。

〔方法〕

- ・ 児童生徒の行動や言動の様子を観察することによって見取る方法
- ・ 学習カードの記述内容から見取る方法・児童生徒の自己評価や相互評価から見取る方法 等

体育の運動領域（体育に関する科目）に関しては、「学びに向かう力、人間性等」の指導内容の例示（愛好的態度、公正、協力、責任、参画、共生（小学校中学年以上）、健康・安全等）が示されているので、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」と同様に、例示を手がかりにしながら、各単元の目標や指導内容に対応した評価を行うことが重要です。

3 学習評価の進め方

運動領域の授業における学習評価を意味のあるものにしていくために、「学習指導要領解説」や「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」等を参考にしながら、①から⑥のよ
うな手順を行っていくことが大切です。

①内容のまとまりごとの評価規準を作成する。


②単元の目標を作成する。

③単元の評価規準を作成する。

④指導と評価の計画を作成する。

⑤指導と評価の計画を基に授業を行う。

⑥観点ごとに総括する。



以下に、小学校「B 器械・器具を使った運動遊び」（マットを使った運動遊び〔第 2 学年〕）
を例に各項目の具体を示します。

①内容のまとまりごとの評価規準を作成する。

内容のまとまりごとの評価規準は、学習指導要領に示す「2 内容」の項目等をそのまとまり
ごとに細分化したり整理したりしたものです。運動領域に関しては、小・中・高等学校（特別支
援学校に関しては、段階ごと）の 2 学年にわたっての指導によって、各領域の内容が身に付いた
姿を「内容のまとまりごとの評価規準」として設定することで明らかにします。

以下は、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の観点ごとのポイントです。

○「知識・技能」のポイント

- ・「知識」については、学習指導要領の内容の「(1) 次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方
を知るとともに、その動きを身に付けること。」の「その行い方を知る」と示している部分が
該当し、評価規準は、「～の行い方を知っている。」として作成することができる。
- ・「技能」については、「その動きを身に付ける」と示している部分が該当し、評価規準は、
「～の動きを身に付けている。」として作成することができる。

○「思考・判断・表現」のポイント

- ・「思考・判断」については、学習指導要領の内容の「(2) 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。」の「器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫する」と示している部分が該当し、評価規準は、「器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫している。」として作成することができる。
- ・「表現」については、「考えたことを友達に伝えること。」と示している部分が該当し、評価規準は、「考えたことを友達に伝えている。」として作成することができる。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、学習指導要領の内容の「(3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。」のすべてが該当し、評価規準は、「運動遊びに進んで取り組もうとし、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしている。」として作成することができる。

※「健康・安全」の観点については意欲をもつことにとどまらず、実践することが求められていることから文末の表記を「～している」とする。「③単元の評価規準を作成する。」についても、同様にその表記を用いている。

〔例〕「B 器械・器具を使つての運動遊び」（マットを使った運動遊び〔第2学年〕）

学習指導要領「2 内容」

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1) 次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身に付けること。 イ マットを使った運動遊びでは、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転すること。	(2) 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。	(3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。



内容のまとめりごとの評価規準例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
次の運動遊びの行い方を知っていると ともに、その動きを身に付けている。 ・マットを使った運動遊びでは、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をしている。	器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫しているとともに、考えたことを友達に伝えている。	運動遊びに進んで取り組もうとし、 順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしている。

※「固定施設、鉄棒、跳び箱を使った運動遊び」については省略

②単元の目標を作成する。

学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等や児童生徒の実態、これまでの学習状況等を踏まえて資質・能力ごとに文末を「～することができるようにする」と整え表記します。

〔例〕「B 器械・器具を使つての運動遊び」(マットを使った運動遊び〔第 2 学年〕)

知識及び技能	マットを使った運動遊びの行い方を知り、マットを使つていろいろな方向に転がったり、手や背中で支持しての逆立ちをしたり、体を反らせたりすることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	マットを使った運動遊びの遊び方を選んだり、自分の考えを友達に伝えたりすることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	友達と一緒に準備や片付けをしたり安全に気を付けたりすることができるようにする。

③単元の評価規準を作成する。

単元の目標から評価の視点を整理する際には、児童生徒の実態等を考慮しつつ、本文及び改善等通知の「観点の趣旨」を基に作成します。語尾は、「～できる」(技能)、「～している」(知識、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」)、「～しようとしている」(主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」以外)と表記します。

「知識・技能」については、知識の評価規準と技能の評価規準に分けて設定します。「思考・判断・表現」については、「思考・判断」の評価規準と「表現」の評価規準に分けて設定します。「主体的に学習に取り組む態度」については、愛好的態度、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全の各項目を指導内容に応じて適宜設定します。各観点とも複数個に細分化した評価規準を想定していますが、順序性を示すものではありません。

〔例〕「B 器械・器具を使つての運動遊び」(マットを使った運動遊び〔第 2 学年〕)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①マットを使った運動遊びの行い方について、言ったり書いたりしている。	①複数のコースから遊び方を選んでいる。	①場の準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。
②マットに背中や腹をつけて、いろいろな方向に転がることことができる。	②友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。	②マットのずれを見逃さずに整えたり、危険な回り方をしないようにしたりしている。
③手で体を支えて移動したり、いろいろな姿勢で逆立ちしたり、体を反らしたりして遊ぶことができる。		

評価規準を作成する際には、「十分満足できる」状況（A）、「おおむね満足できる」状況（B）、「努力を要する」状況（C）を明確にしておく必要があります。「おおむね満足できる」状況（B）は、単元の評価規準を踏まえ、学習活動に即した具体的な児童生徒の姿を想定しているので、そのまま活用したり修正したりして用いることができます。「十分満足できる」状況（A）は、「おおむね満足できる」状況（B）を踏まえ、（B）の姿から、より高まった姿として示されています。（A）の姿を（B）の姿とは異なる新たな姿として設定することは求められていません。

〔例：「十分満足できる」状況（A）〕

「B 器械・器具を使つての運動遊び」（マットを使った運動遊び〔第2学年〕）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① マットを使った運動遊びの行い方を具体的に言ったり書いたりしている。	① 複数のコースから自分の動きをよりよくする遊び方を選んでいる。	① 何度も場の準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。
② マットに背中や腹をつけて、いろいろな方向にスムーズに転がることができる。	② 友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことをよりわかりやすく友達に伝えている。	② 単元を通してマットのずれを見逃さずに整えたり、危険な回り方をしないようにしたりしている。
③ 手で体を支えて移動したり、いろいろな姿勢で逆立ちしたり、体を反らしたりして安定して遊ぶことができる。		

④ 指導と評価の計画を作成する。

以下に示すポイントを基に、作成します。

- ・ 単元計画のうち、いつ、どの場面で、何をどのように評価するかの計画を立てましょう。
- ・ 1時間につき1～2程度の観点で評価するように無理のない計画を立てましょう。
- ・ 毎時間の指導において、「技能」や「主体的に学習に取り組む態度」については、指導後に一定の期間を設けて評価することも考えられます。「知識」や「思考・判断・表現」については、指導したことをその日に評価することが望ましいと考えられます。
- ・ 単元の配当時間に比較的ゆとりのある場合や、予め設定する評価項目数が少ない場合等においては、「指導と評価の計画」で評価機会の設定がない時間が生じることがあります。それは、全ての児童生徒を対象とした評価は計画上行わないとしながらも、必要に応じて個別の評価については実施することが想定されるものと考えます。

〔例〕「B 器械・器具を使つての運動遊び」（マットを使った運動遊び〔第 2 学年〕）

実施数		1	2	3	4	5
学習過程	5	(1)オリエンテーション。 (2)めあてを考える。 態①②	(1)動物サーキットを行う。 (2)めあてを考える。			
	10		(3)班で遊び方を工夫して行う。 知技②③	(3)事前に決めた2つの遊びを行う。 知技②③		(3)4つの遊びの楽しさを交流する。
	15	(4)班で考えた遊び方の工夫を発表し交流し、各班で考えた遊びを選んで行う。 態①②		(4)友達で紹介した遊びを1つ選び行う。 態①②	(4)自分が遊んでみたい遊びを順に取り組み4つの運動遊びを行う。	
	20		(4)自分が遊んでみたい遊びを順に取り組み4つの運動遊びを行う。			(4)自分が遊んでみたい遊びを順に取り組み4つの運動遊びを行う。
	25	(5)本時の振り返りを行う。		(5)本時の振り返りを行う。		
	30		(5)本時の振り返りを行う。		(5)本時の振り返りを行う。	
35	(5)本時の振り返りを行う。	(5)本時の振り返りを行う。				
40			(5)本時の振り返りを行う。	(5)本時の振り返りを行う。		
45	(5)本時の振り返りを行う。	(5)本時の振り返りを行う。				
評価機会			知	①		
	技			②	③	
	思		①	②		
	態		①		②	

- 「技能」「主体的に学習に取り組む態度」については、指導から学習期間を設けてから評価する（■■■■▶）。
- ・ 指導から学習期間を設けて評価する理由として、児童生徒が技能や態度を獲得したり、定着や向上したりするために、一定の学習期間及び評価期間が必要であると考えられるため。
- 「知識」「思考・判断・表現」については、指導から期間を置かず評価する（▶▶▶▶▶）。
- ・ 指導から期間を置かず評価する理由として、児童生徒がどの程度理解しているかをその場で見極め、理解が不十分な児童生徒（Cと評価される児童生徒）を早期に発見し、継続的な指導につなげる必要があると考えられるため。

⑤指導と評価の計画を基に授業を行う。

毎時間の指導においては、単元の目標を踏まえ、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき目標を設定しますが、全ての児童生徒に全てのことを指導し評価することは現実的ではありません。

重点的に指導する内容を絞り、指導していくことが大切です。単元の前半に設定する評価については、その結果をもって単元全体の評価とするのではなく、単元後半につなげる指導のための評価という観点を踏まえ、必要に応じて単元終了まで指導と評価を繰り返すことが大切です。

⑥観点ごとに総括する。

各観点における単元の評価規準を複数設定した場合、学年又は学校として統一しておくことが重要です。例えば、各観点における単元の評価規準を二つ設定した場合、AA→A、AB→A又はB、BB→B、BC→B又はC、CC→Cとなることが想定されます。単元の評価規準を三つ設定した場合、AAA・AAB→A、ABB・BBB・BBC→B、BCC・CCC→Cとなることが想定されます。

以下は、総括する際の留意点です。

〔同一の観点においてAとCが混在する場合〕

- ・「知識・技能」において、知識はCだが技能はAといった評価は、技能の見取りを確かとするならば知識の見取りを再確認しましょう。逆に、知識はAだが、技能はCという児童生徒は想定されます。
- ・「思考・判断・表現」において、思考・判断はAだが表現はC（又はその逆）となった場合には、それぞれの見取りを再確認しましょう。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」において、愛好的態度がAであっても、友達と助け合う姿がC（又はその逆）になった場合は、それぞれの見取りを再確認しましょう。

様々な状況を踏まえ、児童生徒の学習状況を見取ることが大切です。育成を目指す資質・能力の三つの柱は、目指す児童生徒の姿とそのための指導の在り方が相互に関連しているため、総括的評価の際に全観点にAとCが混在することについても、十分に留意することが求められます。

また、評価の際に、「努力を要する(C)」と判断される児童生徒がいた場合には、個別の指導を行うなどの手立てを行い、その状況を総括的評価（最終時）で確認を行います。単元の最終時には、全ての児童生徒が「おおむね満足できる(B)」以上となる支援（手立て）の工夫が必要とされています。

引用・参考文献

- ・小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説 体育編
文部科学省 東山書房 2018
- ・中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 保健体育編
文部科学省 東山書房 2018
- ・高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 保健体育編 体育編
文部科学省 東山書房 2019

- ・小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）
文部科学省 2019
- ・第 4 期教育振興基本計画
文部科学省 2023
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 体育
国立教育政策研究所教育課程研究センター 東洋館出版社 2020
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 保健体育
国立教育政策研究所教育課程研究センター 東洋館出版社 2020
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 保健体育
国立教育政策研究所教育課程研究センター 東洋館出版社 2021
- ・特別支援学校小学部・中学部 学習評価参考資料
文部科学省 2020
- ・確かな学習状況を見取る小学校体育の評価規準づくり
高田彬成・森良一・細越淳二 編著 大修館書店 2022
- ・評価事例&評価規準例が満載！ 新 3 観点の学習評価完全ガイドブック 保健体育
佐藤豊 編著 明治図書 2021

實 踐 編

本調査研究における「単元の評価規準」と「実践編」について

(1) 単元の評価規準について

まず、本調査研究における単元の評価規準の「おおむね満足できる (B)」は、学習指導要領解説の例示を基に設定しました。

次に、「十分満足できる (A)」は、おおむね満足できる (B) を踏まえ、「(B) の姿から、より高まった姿」であることから、次の2点の考え方を基に設定し、キーワードを付加するようにしました。

- ① おおむね満足できる (B) より高い力を身に付けている状態を (A) とする場合のキーワード例
「より分かりやすく 具体的に スムーズに 素早く」 など
 - ② おおむね満足できる (B) が、偶発的ではなく、頻出する状態を (A) とする場合キーワード例
「単元を通して 安定して 何度も 継続して」 など
- ※ キーワード例は、おおむね満足できる (B) の評価規準に付加し、十分満足できる (A) としました。

(例) 「おおむね満足できる」(B)

- ・ 跳び箱運動の行い方について、言ったり書いたりしている。
- ・ 練習場所や補助の仕方などの約束を守り、仲間と助け合おうとしている。

「十分満足できる」(A)

- ・ 跳び箱運動の行い方について、具体的に言ったり書いたりしている。
- ・ 練習場所や補助の仕方などの約束を守り、継続して仲間と助け合おうとしている。

(2) 実践編について

①実践編は、「指導と評価の計画」「評価規準」「指導機会と評価機会の実際」で示しています。

※「単元の指導目標」については、単元で指導し評価する内容を示している。

領域・実習学年	小学校	第1学年																																							
単元名	水泳運動																																								
1. 単元の指導目標	<p>ゴール、スタート、泳姿、泳法などに関する課題の解決を通して、泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて学ぶことができるようにする。</p> <p>泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどに関する課題の解決を通して、泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて学ぶことができるようにする。</p>																																								
2. 単元の指導と評価の計画	<table border="1"> <tr> <th>指導機会</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th> </tr> <tr> <td>指導</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>評価</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table>		指導機会	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	指導													評価												
指導機会	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12																													
指導																																									
評価																																									

「指導と評価の計画」

単元の指導目標	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知① クロールの行い方について、まっすぐに、まっすぐに泳いでいる。	クロールの行い方について、身体的にまっすぐに、まっすぐに泳いでいる。	(評価ルーブリック)
知② 泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて、泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて学ぶことができる。	泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて、身体的にまっすぐに、まっすぐに泳いでいる。	(評価)
知③ 泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて、泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて学ぶことができる。	泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて、身体的にまっすぐに、まっすぐに泳いでいる。	(評価)
知④ 泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて、泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて学ぶことができる。	泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて、身体的にまっすぐに、まっすぐに泳いでいる。	(評価)
知⑤ 泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて、泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて学ぶことができる。	泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて、身体的にまっすぐに、まっすぐに泳いでいる。	(評価)
知⑥ 泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて、泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて学ぶことができる。	泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて、身体的にまっすぐに、まっすぐに泳いでいる。	(評価)

「評価規準」

指導機会と評価機会の実際
<p>指導機会 (知①) クロールの行い方について、まっすぐに、まっすぐに泳いでいる。</p> <p>評価機会 (知①) クロールの行い方について、まっすぐに、まっすぐに泳いでいる。</p> <p>指導機会 (知②) 泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて、泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて学ぶことができる。</p> <p>評価機会 (知②) 泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて、泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて学ぶことができる。</p>

「指導機会と評価機会の実際」

②「指導と評価の計画」は、指導機会（網掛け部分）を記載し、その下に評価機会を示しました。「評価規準」は、評価機会の番号と対応する形で記載し、それぞれの番号に対応する評価規準を示しました。

領域・実習学年	小学校	第1学年																																							
単元名	水泳運動																																								
1. 単元の指導目標	<p>ゴール、スタート、泳姿、泳法などに関する課題の解決を通して、泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて学ぶことができるようにする。</p>																																								
2. 単元の指導と評価の計画	<table border="1"> <tr> <th>指導機会</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th> </tr> <tr> <td>指導</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>評価</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table>		指導機会	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	指導													評価												
指導機会	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12																													
指導																																									
評価																																									

(知①) クロールの行い方 (指導機会)


(評価機会)

単元の指導目標	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知① クロールの行い方について、まっすぐに、まっすぐに泳いでいる。	クロールの行い方について、身体的にまっすぐに、まっすぐに泳いでいる。	(評価ルーブリック)
知② 泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて、泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて学ぶことができる。	泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて、身体的にまっすぐに、まっすぐに泳いでいる。	(評価)
知③ 泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて、泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて学ぶことができる。	泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて、身体的にまっすぐに、まっすぐに泳いでいる。	(評価)
知④ 泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて、泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて学ぶことができる。	泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて、身体的にまっすぐに、まっすぐに泳いでいる。	(評価)
知⑤ 泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて、泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて学ぶことができる。	泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて、身体的にまっすぐに、まっすぐに泳いでいる。	(評価)
知⑥ 泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて、泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて学ぶことができる。	泳ぎの楽しさや仲間との関係の大切さなどについて、身体的にまっすぐに、まっすぐに泳いでいる。	(評価)

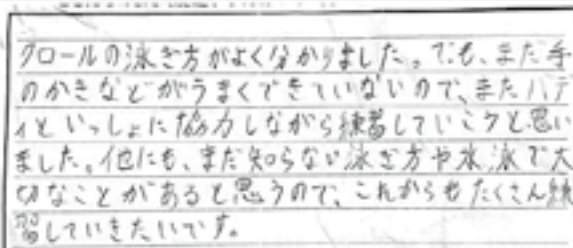
(対応する評価規準)

③「評価規準」の2次元コードは、読み取ることで文書や映像等が示され、評価の材料になった実際の姿や言葉を可視化できるようにしました。

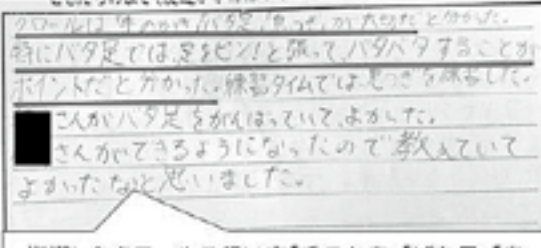
3 単元の評価規準

	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知 ①	クロールの行い方について、書いたり、書いたりしている。	クロールの行い方について、具体的に書いたり、書いたりしている。	 【学習カード】

おおむね満足できる(B)



十分満足できる(A)



・指導したクロールの行い方「手のかき」「ばた足」「息つき」について記述されている。
・ばた足について「足をピン」と伸ばす」というように具体的に記述されている。

④「指導機会と評価機会の実際」は、指導と評価の計画を基に、各観点に関し、それぞれ1つピックアップして、「どのような指導を行ったのか（指導機会）」、「どのような方法で評価を行ったのか（評価機会）」を記載しています。また、「C（努力を要する）の児童・生徒に対する支援」、「成果と課題」、「実践者の感想」を示しました。

・C（努力を要する）の児童・生徒に対する支援

4 指導機会 (○) と評価機会 (●) の実際

(○) 知識①「クロールの行い方について、書いたり、書いたりしている」について

◎指導機会 (第2学期)

実践現場において、クロールの泳ぎ方について、「手のかき」「ばた足」「息つき」の3つの動きのポイントから行うことを確認し【資料3】、練習する時間を設定した。

●評価機会 (第2学期)

実践現場において、「クロールの動きのポイント」は何かについて、手紙の文に書いたり、書いたりしている。

結果評価の振り返りにおいて、学習カードの記述から見取った。

【資料1】 動きの確認の様子

(○) 思考・判断・表現①「自分の課題を見付け、その課題の解決の仕方考えたり、課題に応じた練習のやりかたを自分で考えている」について

◎指導機会 (第3学期)

実践現場において、まず、手のかき、ばた足（はたふる足）、息つき（いきつき）の3つの動きのポイントをもとに「自分の課題は何か」について見直し、自分の課題を自分で考えるようにした。次に、学習カードを活用して、練習方法を自分で実践解決策を考案することができるようになった。また、ペアを組んで互いの動きを見合ったり、補助をしたり、アドバイスをしながら練習する時間を設定した【資料3】。

●評価機会 (第3学期)

実践現場において、手のかき、ばた足（はたふる足）、息つき（いきつき）の3つの動きのポイントをもとに「自分の課題は何か」について見直しの内容から見取った。また、学習カードから実践方法を導き出して、練習している様子から見取った。

結果評価の振り返りにおいて、学習カードの記述から見取った。

(○) 主体的に学習に取り組む態度①「自己や他者の課題を解決するための練習では、練習場所やレーンの使い分け、補助の仕方などの創意を生かし、創意と個性あふれている」について

◎指導機会 (第4学期)

実践現場において、生徒が練習をする際に、補助をしたり、アドバイスをしたりしながら練習しているペアを結成して、「助け合って練習するよさ」を全員で確認した。また、手のかき、ばた足、息つきの3つのポイントをもとに自分の動きを撮影してアドバイスをすることやペアで（記録）を行うことを行ったり、手紙の文に練習の様子を記述することが有効であることを確認した【資料3】。

●評価機会 (第4学期)

実践現場において、課題解決に向けてペアで練習している様子から見取った。また、結果評価の振り返りにおいて、学習カードの記述から見取った。

● 成果と課題

第3学期の実践において、多くの課題を適切に見付けることができず、解決方法を導き出せていないペアに差し支えを伴った。手のかき、ばた足（はたふる足）、息つきの動きのポイントにもとに、「息つきが早い」という点について、「どのようになるか」という点を確認し【資料4】、30分程度の動きを撮影して見合ったりするようになった。また、息つきでは、ペアを組んで、アドバイスを受ける機会が増えるようになった。

【資料4】 撮影による運動の指導

◎ 成果と課題

判断の目安を明確にすることで、児童の状況（バタ足）を確認できる。また、判断の目安を明確にして単元構成を考えた。指導したことで、1時間の授業のねらいがより明確になった。

◎ 評価

評価の観点が増えたことにより具体的な記述内容をイメージして練習を行うことができた。練習のねらいが明確になり、学習カードを効果的に活用することができた。練習を定めた学習カードの作成や練習のねらいを明確にして、手紙の文に練習の様子を記述することが有効であることを確認した【資料3】。

● 実践後の感想

判断の目安を明らかにすることで、その特徴に合わせた練習内容が考えやすくなり、授業のねらいを明確にして実施することができた。また、指導機会と評価機会を考えたことで、評価することができるようになった。ねらいをもって実践することができた。

・ どのような指導を行ったのか（指導機会）

・ どのような方法で評価を行ったのか（評価機会）

校種・実施学年	小学校	第1学年
単元等	A 体づくりの運動遊び イ 多様な動きをつくる運動遊び	

1 単元の指導目標





知運	多様な動きをつくる運動遊びの楽しさに触れ、行い方を知るとともに、体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動きをしたりして遊ぶことができるようにする。
思判表	多様な動きをつくる運動遊びの行い方を工夫することができるようにする。
学び	多様な動きをつくる運動遊びを行う際、きまりを守り誰とも仲よく運動をすることができるようにする。

2 単元の指導と評価の計画

授業実施数	1	2	3	4	5	6	
学 習 過 程	5	オリエンテーション 場の準備・めあての確認を行う ※動きを増やすための工夫の視点を再確認できるようにする (態①) 公正					
	10	場の準備・めあての確認を行う					
	15	めあてをもとに多様な動きをつくる運動遊びに取り組む (知①)	4つの運動に取り組み、動きのポイントを確認する (技①) バランス	4つの動きのポイントを確認し、工夫を加えて動く (思①) 行い方の工夫	3つの動きに取り組み、動きのポイントを確認する (技③) 用具	3つの動きのポイントを確認し、工夫を加えて動く (思①) 行い方の工夫	4つの運動の工夫したところを友達に紹介する
	20	運動の行い方 【体のバランスをとる】 ・クルッとランド ・ゴロリンランド ・ぐらぐらもうランド ・アップダウンランド	4つの運動に取り組み、動きのポイントを確認する (技②) 移動	4つの動きのポイントを確認し、工夫を加えて動く (思①) 行い方の工夫	グループでもう一度やってみよう い場に行き、みんなでやってみよう	グループで工夫した動きを考えよう (思①) 行い方の工夫	
	25	【体を移動する】 ・くるくるサーキット ・ジャンプジャンプ ・ケンケンパ	動きのポイントから動きを増やすための工夫の視点を見つける	動きのポイントを使って工夫したことを発表する	動きのポイントから動きを増やすための工夫の視点を見つける	動きのポイントを使って工夫したことを発表する	本単元のまとめと振り返りを行う 整理運動・用具の片付けを行う
	30	【かけあし】 【用具を操作する】 ・ボール運びランド ・ローブランド ・フープブランド	動きのポイントから動きを増やすための工夫の視点を見つける	動きのポイントを使って工夫したことを発表する	動きのポイントから動きを増やすための工夫の視点を見つける	動きのポイントを使って工夫したことを発表する	
	35	【かけあし】 【用具を操作する】 ・ボール運びランド ・ローブランド ・フープブランド	動きのポイントから動きを増やすための工夫の視点を見つける	動きのポイントを使って工夫したことを発表する	動きのポイントから動きを増やすための工夫の視点を見つける	動きのポイントを使って工夫したことを発表する	本単元のまとめと振り返りを行う 整理運動・用具の片付けを行う
40	【かけあし】 【用具を操作する】 ・ボール運びランド ・ローブランド ・フープブランド	動きのポイントから動きを増やすための工夫の視点を見つける	動きのポイントを使って工夫したことを発表する	動きのポイントから動きを増やすための工夫の視点を見つける	動きのポイントを使って工夫したことを発表する		
45	本時の振り返り・片付けを行う	本時の振り返り・片付けを行う 整理運動・用具の片付けを行う					
評 価 機 会	知	①				総 括 的 評 価	
	技		①	②	③		
	思			①			①
	態				①		

※主に低学年での指導や、比較的短い単元構成での指導においては、「技能」や「主体的に学習に取り組む態度」について、指導の過程で即時評価を行う場合も想定される。(これ以降の実践についても、同様とする。)

3 単元の評価規準

	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知 ①	多様な動きをつくる運動の 行い方について、言ったり実際に 動いたりしている。	多様な動きをつくる運動の行 い方について、 具体的に 言ったり 実際に動いたりしている。	 (様相観察・学習カード)
技 ①	片足を軸にして回転したり、 転がって起きたり、友達と肩を 組んだり背中を合わせたりして 立つ・座るなど、体の基本的な 動きができる。	片足を軸にして回転したり、 転がって起きたり、友達と肩を 組んだり背中を合わせたりして 立つ・座るなど、体の基本的な 動きが 安定して できる。	 (様相観察・学習カード)
技 ②	大きな円や形態の異なる 走路を、体勢を変えながら動 いたり、両足や片足で跳んで、 方向や高さを変えたりして、 跳ねる動きができる。	大きな円や形態の異なる走 路を、体勢を変えながら動い たり、両足や片足で跳んで、方 向や高さを変えたりして、跳 ねる動きが 安定して できる。	 (様相観察・学習カード)
技 ③	ボールやフープをつかんで 回り回したり転がしたり、な わをくぐり抜けたりすること ができる。	ボールやフープをつかんで 回り回したり転がしたり、な わをくぐり抜けたりすること が 安定して できる。	 (様相観察・学習カード)
思 ①	楽しくできる多様な動き をつくる運動遊びを選んで いる。	楽しくできる多様な動きを つくる運動遊びの 行い方を工 夫 している。	 (様相観察・学習カード)
態 ①	運動遊びをする際に、順番 やきまりを守り、誰とでも仲 よくしようとしている。	運動遊びをする際に、 単元 を通して 順番やきまりを守 り、誰とでも仲よくしようと している。	 (様相観察・学習カード)

4 指導機会(○)と評価機会(●)の実際

(1) 知識①「多様な動きをつくる運動の行い方について、言ったり実際に動いたりしている。」について

○指導機会（第1時）

第1時では、単元の中で経験する11種類の動きを経験できるようにした。導入段階において、「体を思い切り動かしてみよう」とだけ声をかけ、どのように動けば体を動かしやすいかを、自然と感じられるように促した。また、児童同士の交流が活発になるように児童の発言を取り上げながらよい動きを広め、様々な動き方を試すことができる場面を設定した【資料1】。

●評価機会（第1時）

第1時の展開段階における発言や、授業後、学習カードの動きに対する気づきや感想の記述から見取った。



【資料1 児童同士が交流する場面】

(2) 思考・判断・表現①「楽しくできる多様な動きをつくる運動遊びを選んでいる。」について

○指導機会（第3・5時）

第3・5時では、さらに工夫してレベルアップしたい動きを事前に選び、グループ分けを行った。また、前時までに児童から出た動きのポイントをコーナーごとに掲示した場を設定した【資料2】。そこで、ポイントを参考にしながら活動することや新たに気付いた動き方を友達に広めるよさについて確認した。また、友達と動きを揃えるなどの工夫をしているグループの様子を紹介したことで、児童同士の交流が活発になり、動きをさらに工夫することにつながった【資料3】。

●評価機会（第3時）

展開段階において、腕の動きや体の傾き、リズムの取り方など動きのポイントをつかみ、発言している様子から見取った。また、授業の終末段階の振り返りにおいて、動きのポイントを発表し合い、全員で共有した。その内容については学習カードの記述から見取った。

●評価機会（第5時）

展開段階において、友達と一緒に練習した動きや、協力してできた動きについての記述や授業中の発言から見取った。また、終末段階の振り返りでは、友達と交流しながら、自分が気付いた動きのポイントを言葉で表現している様子【資料3】や学習カードへの記述内容から見取った。



【資料2 動きのポイントを掲示した場づくり】



【資料3 自分の気づきを友達に広める交流】

(3) 主体的に学習に取り組む態度①「運動遊びをする際に、順番やきまりを守り、誰とでも仲よくしようとしている。」について

○指導機会（第2～5時）

毎時間、導入段階で自分のめあてを立てる際、友達の動きを褒めたり、助言を聞き入れたりするよさについて説明した。また、順番や決まりを守ることの大切さについて友達と共有し、確認する場面を設定した【資料4】。展開段

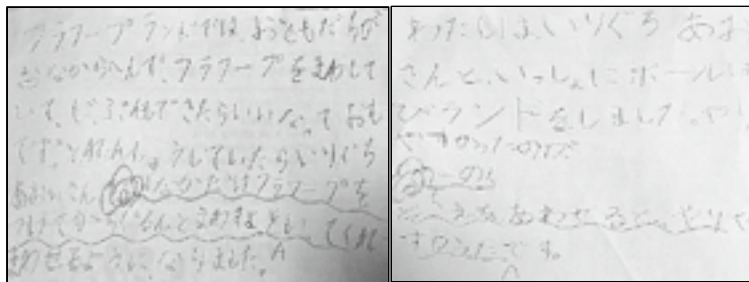


【資料4 導入時の確認】

階においては、友達と声を掛け合いながらグループで活動するよさを確認する場面を設定した。

●評価機会（第4時）

展開段階において、順番を守って用具を操作することで、動きをスムーズに行ったり友達の助言を聞き入れる雰囲気を作ったりする中で、グループの誰とでも仲よく活動できているかを見取った。また、終末段階の振り返りにおいて、学習カードの記述【資料5】から、友達との関わり合うよさを実感しているか見取った。



【資料5 学習プリントでの振り返り】

5 C（努力を要する）の児童・生徒に対する支援について

実践において、動きのコツを言葉で理解しているものの、イメージ通りに身体を動かすことが難しい児童には、身体の向きや姿勢、視線などを図や写真を使って視覚化し、さらに横で動きを見せる支援を行った【資料6】。1年生にとって、自分の身体をコントロールすることは難しいことではあるが、動きのポイントの視点を示すことで、少しずつ理想の動きに近づくことができた。



【資料6 個別の支援】

また、動きのポイントを示した図などを活用しながら、スモールステップで、一つ一つの動きを行い、称賛することで、最後まで諦めずに活動に参加することができた。

6 成果と課題

(1) 成果

評価規準を明確にすることで、様相観察の際に見取るポイントが明確になり、児童の見取りを把握しやすく、声かけなども焦点化して行うことができた。また、評価機会を前もって設定することで、授業時間内の評価のタイミングや重きを置く声かけなど、指導内容を絞って行うことができたため、児童の動きのよさを広めることができた。

評価規準を基に考えた動きのポイントを、場作りの中に取り入れたことで、教員からの指示や助言が最小限に抑えられ、児童が自ら動くことができるようになり、活動時間を長く確保することができた。

(2) 課題

1年生という発達段階から、いろいろな動きを短い時間でまわるサーキット方式を取り入れたが、動きが様々あることで全体を一度に把握することが難しかった。

45分の授業時間内で学習カードを記入するまでの時間が確保できず、授業が終わった後、教室で気付きや感想を書かせた。学習カードを見取りの一つとして位置づけるのであれば、記述の時間をきちんと確保するべきだが、活動時間を確保するために体育の学習時間内では難しいため、記述する時間の確保が課題となる。

実践後の感想



今回、評価の内容を明確にすることで、そこに基づいた指導機会や評価機会が明確に位置づけられ、授業がスムーズに進められた。また、学習カードを普段以上に取り入れ、自由記述に挑戦したことで、授業時間内では見取れなかった個人の気付きや考えが見られたことで、児童の成長に気付くことができた。



校種・実施学年	小学校	第3学年
単元等	A 体づくり運動 イ 多様な動きをつくる運動	

1 単元の指導目標

知運	多様な動きをつくる運動の楽しさや喜びに触れ、行い方を知るとともに、体のバランスをとる動きや巧みに用具を操作する動きを身に付けることができるようにする。※本単元では、「体のバランスをとる運動」、「用具を操作する運動」、「基本的な動きを組み合わせる運動」を取り上げる。
思判表	自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫することができるようにする。
学び	多様な動きをつくる運動を行う際、友達の考えを認めることができるようにする。

2 単元の指導と評価の計画

授業実施数	1	2	3	4	5	6
学 習 過 程	5	オリエンテーション	場の準備・めあての確認を行う	場の準備・めあての確認を行う ※自己の運動の工夫の仕方を再確認する		
	10	場の準備・めあての確認を行う				
	15	4つの基本運動に取り組み ・平均台 ・ボール回転	前時のポイントを確認し、4つの基本の運動に取り組む	運動の工夫に取り組む。 空間（姿勢）、仲間（人数）、時間（回数）、合体（組み合わせ）の視点で運動の工夫を行う		
	20	キャッチ	動き名人になるための4つの工夫を知る	(技①) 体のバランスをとる運動 (技②) 用具を操作する運動 (技③) 基本的な動きを組み合わせる運動		
	25	・なわとび ・お手玉乗せ歩き				
	30	運動をうまく行うためのポイントについて交流する (知①)	グループのメンバーと協力しながら、4つの運動の工夫に取り組む (思①)	4つの運動の中で工夫したことやできたことを交流し、自己の動きにつなげる (態①) 共生		
	35	運動の行い方		交流をもとに自分の行いたい運動に取り組む		
	40	交流をもとに実際に運動に取り組む	課題解決			
45	本時の振り返り・次時の確認・片付けを行う	本時の振り返り・片付けを行う	本時の振り返り・片付けを行う			
評 価 機 会	知	①				総 括 的 評 価
	技		①	②	③	
	思		①		①	
	態			①	①	

3 単元の評価規準

	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知 ①	多様な動きをつくる運動の行い方について、言ったり書いたりしている。	多様な動きをつくる運動の行い方について、 具体的に 言ったり書いたりしている。	 (様相観察・学習カード)
技 ①	平均台の上や頭にお手玉を乗せるなどのバランスを取りながら動くことができる。	平均台の上や頭にお手玉を乗せるなどのバランスを取りながら動くことが 安定して できる。	 (様相観察)
技 ②	短なわでの前や後ろの連続片足跳びや交差跳びなどをする動きができる。	短なわでの前や後ろの連続片足跳びや交差跳びなどをする動きが スムーズに できる。	 (様相観察)
技 ③	ボールを投げ上げ、その場で回ったり移動したりして、投げ上げたボールを落とさないように捕る動きができる。	ボールを投げ上げ、その場で回ったり移動したりして、投げ上げたボールを落とさないように捕る動きが 安定して できる。	 (様相観察)
思 ①	これまでの学習で経験した運動の中から、みんなで行うと楽しくなる運動を選んでいる。	これまでの学習で経験した運動の中から、みんなで行うと楽しくなる運動を 工夫して いる。	 (様相観察・学習カード)
態 ①	友達の考えや動きを認めたり、互いの気持ちを尊重し合ったりしようとしている。	具体的に 友達の考えや動きを認めたり、互いの気持ちを尊重し合ったりしようとしている。	 (様相観察・学習カード)

4 指導機会(○)と評価機会(●)の実際

(1) 知識①「多様な動きをつくる運動の行い方について、言ったり書いたりしている。」について

○指導機会（第1時）

第1時では、「基本の動きとなる4つの運動」に取り組んだ。授業の導入段階において4つの運動の基本的な運動の行い方を説明した。その後、4つの運動がうまくできるポイントを見付けるために試しの活動をする場面を設定した【資料1】。その際、実際に運動を行いながら運動の行い方に関して学習プリントの記述を共有し理解できるようにした。



【資料1 4つの運動を行う様子】

●評価機会（第1時）

第1時の学習プリントの4つの運動がうまくできるポイントの記述や授業中の発言から見取った。

(2) 思考・判断・表現①「これまでの学習で経験した運動の中から、みんなで行うと楽しくなる運動を選んでいく。」について

○指導機会（第2時）

単元を通して、「いろいろな動き名人」になるために、班での活動を中心に授業を行った【資料2】。その際、友達と行うと楽しくなる運動を選ぶためには、友達と協力したり、動きのよさの交流をしたりすることが大切であることを確認した。そこで、「空間、仲間、時間、合体」の視点で交流する場の設定を行った。さらに、工夫できた動きの広まりについて実感できるようにするために、工夫ボードに出席番号のシールを張り、獲得した動きが増えていくことを可視化できる活動を設定した【資料3】。



【資料2 班での活動の時間】

●評価機会（第2時）

終末段階の振り返りににおいて、友達のよい所や動きの工夫ができた理由を学習プリントに記述し、その内容を見取った。



【資料3 工夫ボードの掲示】

●評価機会（第5時）

終末段階の振り返りににおいて、友達と一緒に練習した動きや、協力してできた動きについての記述や授業中の発言から見取った。

(3) 主体的に学習に取り組む態度①「友達の考えを認めたり、互いの気持ちを尊重し合ったりしようとしている」について

○指導機会（第3時）

終末段階において、これまでの活動の中で工夫した動きを紹介して、「友達の考えや動きを取り入れるよさ」について全体で確認した。その後、紹介された動きの中から、自分を取り入れたい動きについて考え、次時の活動の自己のめあてに取り入れる時間を設定した。



【資料4 工夫した動きの紹介】

●評価機会（第4時）

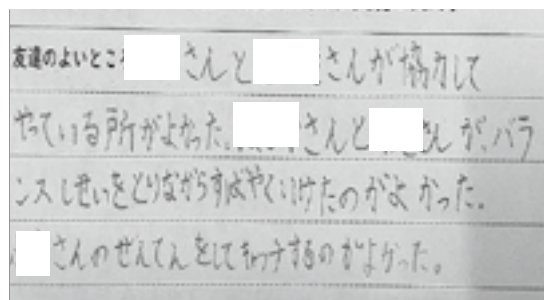
導入段階において、学習プリントに記述した自己のめあての内容から見取った。

○指導機会（第4時）

展開段階において、本時までにはできるようになった4つの運動の工夫した動きを班の中で紹介し、友達を認め合う活動を設定した【資料4】。

●評価機会（第5時）

展開段階の友達のよさの記述の内容や終末段階の学習の振り返りの記述から見取った【資料5】。



【資料5 学習プリントの内容】

5 C（努力を要する）の児童・生徒に対する支援について

実践において、4つの基本的な運動を工夫したり、友達とあまり協力して活動したりすることができない児童に対して支援を行った。基本的な4つの運動が苦手なため、第1時で共有したうまくできるポイントを確認しながら、一緒に練習を行った。また、児童は「できた」という成功体験から意欲が高まるが多いため、少しの成功でも、積極的に個別に称賛するようにした。班の活動においても、教員と一緒に参加することで友達との活動に広がりを見ることができた【資料6】。



【資料6 個別の支援】

6 成果と課題

(1) 成果

指導内容を焦点化することで、評価規準や評価機会を明確にすることができた。そのため、十分な活動時間を確保することができた。

(2) 課題

主体的に学習に取り組む態度において、「十分満足できる姿」を「具体的に友達の考えや動きを認めたり、互いの気持ちを尊重し合ったりしようとしている。」と設定していたが、その内容に関する指導が不十分であった。

第6時の活動が前時までの活動とは異なったため、活動が停滞する場面がみられた。児童の思考や単元の流れに沿った指導機会と評価機会の充実を図る必要がある。

実践後の感想

今回、指導と評価の計画を仕組んでの授業を行うことで指導内容や評価項目が明確になり、スムーズな授業展開を考えることができた。また、単元を貫く課題が明確になり、活動での工夫を増やすという課題意識を児童がもったことで、活発な授業内容にすることができた。

校種・実施学年	小学校	第6学年
単元等	A 体づくり運動 イ 体の動きを高める運動	

1 単元の指導目標

知運	体の動きを高める運動の楽しさや喜びを味わい、体力の必要性や体の動きを高めるための運動の行い方を理解するとともに、体の柔らかさと巧みな動きを高める運動をすることができるようにする。※本単元では、「体の柔らかさを高めるための運動」と「巧みな動きを高めるための運動」を取り上げる。
思判表	自己の体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学び	体の動きを高める運動に取り組む際、仲間の考えや取組を認めることができるようにする。

2 単元の指導と評価の計画

授業実施数	1	2	3	4	5	
学習過程	5	オリエンテーション	場の準備・めあての確認を行う			
	10	場の準備 めあての確認を行う (知①) 体力の必要性	「4つの運動」に取り組む (技①) 体の柔らかさを高めるための運動 (技②) 巧みな動きを高めるための運動			自己の体力の課題や目標に応じた運動や行い方の工夫を取り入れた運動に取り組む ※4人1組で自由に場を回る ※1人が実施、1人が計測、1人が動画撮影
	15		(態①) 運動の行い方 ※4人組で順番に場を回る ※1人が実施、1人が計測、1人が動画撮影			
	20	「4つの運動」を試す ・ボール回し	動画や記録を基に運動と体力を関連付けて自分の課題をつかむ (知②) 運動の必要性	自分の動きの課題をつかんだり、仲間と動きのポイントを伝え合ったりする (思②) 課題解決方法の表現	運動の行い方を工夫する例を提示する	学習カードや動画を基に自分の体力の高まりを実感したり、仲間の体力の高まりや取り組み方のよさを認めたりする場を設定する
	25	※柔軟性 ・スピードダッシュ ※俊敏性・スピード ・ジャンプスロープ ※筋力・バランス ・パスウォーク ※バランス・調整力(協応性)		再度、運動に取り組む (思①) 課題解決	運動の行い方を工夫する例を取り入れながら運動に取り組む (思①②) 柔らかさ・巧み	
	30					
	35					
40						
45	本時の振り返り・次時の確認・片付けを行う				本時の振り返り・片付けを行う	
評価機会	知	①	②		総括的評価	
	技			①②		
	思			①②		
	態			①		

3 単元の評価規準

	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知 ①	体力は、体を動かしたり、体を守るために必要であることについて、言ったり書いたりしている。	体力は、体を動かしたり、体を守るために必要であることについて、 具体的に 言ったり書いたりしている。	 (様相観察・学習カード)
知 ②	体の柔らかさ、巧みな動きを高める運動と高まる体力について、言ったり書いたりしている。	体の柔らかさ、巧みな動きを高める運動と高まる体力について、 具体的に 言ったり書いたりしている。	 (様相観察・学習カード)
技 ①	全身や各部位を大きく広げたり、曲げたりする動きができる。	全身や各部位を大きく広げたり、曲げたりする動きが 安定 してできる。	 (様相観察)
技 ②	タイミングやバランスよく動く、リズムカルに動く、力の入れ方を加減するといった巧みな動きを高めるための運動ができる。	タイミングやバランスよく動く、リズムカルに動く、力の入れ方を加減するといった巧みな動きを高めるための運動が 安定 してできる。	 (様相観察)
思 ①	自分の体力に応じて、体の動きを高める運動やその行い方を選んでいる。	自分の体力の 課題や目標 に応じて、体の動きを高める運動やその行い方を選んでいる。	 (様相観察・学習カード)
思 ②	体の動きを高める運動の行い方や動きのポイントを仲間に伝えている。	体の動きを高める運動の行い方や動きのポイントを 具体的に 仲間に伝えている。	 (様相観察・学習カード)
態 ①	運動の行い方についての仲間の気付きや考えを受け入れたり、仲間の取り組み方のよさを認めたりしようとしている。	運動の行い方についての仲間の気付きや考えを受け入れたり、仲間の取り組み方のよさを認めたりして 自分の活動 に取り入れようとしている。	 (様相観察・学習カード)

4 指導機会（○）と評価機会（●）の実際

(1) 知識①「体力は、体を動かしたり、体を守るために必要であることについて、言ったり書いたりしている。」について

○指導機会（第1時）

導入段階において、「体力とは何か」について「行動体力の機能的要素（柔軟性、敏捷性、筋力、持久性、平衡性・協調性）」をホワイトボードに掲示しながら確認をしたり、「体力はなぜ必要か」について病気や怪我から身体を守る役割もあるというある研究結果を紹介したりして、体力の構成要素や必要性についての理解を深められるようにした【資料1】。



【資料1 ホワイトボードの掲示内容】

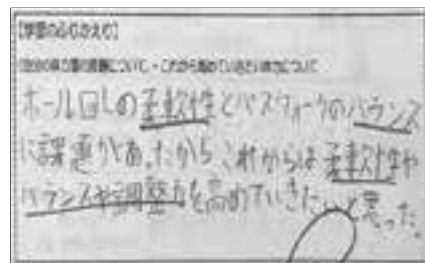
●評価機会（第1時）

終末段階の学習の振り返りにおいて、学習カードの記述から見取った。

(2) 知識②「体の柔らかさ、巧みな動きを高める運動とそれによって高まる体力について、言ったり書いたりしている。」について

○指導機会（第2時）

展開段階において、「4つの運動（ボール回し、ジャンプロープ、スピードダッシュ、パスウォーク）に関係のある体力はそれぞれ何か」と発問をし、運動と体力の関係を確認した。また、終末段階において自分の体力の課題を行動体力の機能的要素と関連付けながら振り返りをする場を設定した。



【資料2 学習カード】

●評価機会（第2時）

終末段階の学習の振り返りにおいて、学習カードの記述から見取った【資料2】。

(3) 思考・判断・表現①「自分の体力に応じて、体の動きを高める運動やその行い方を選んでいく。」について

○指導機会（第3時）

展開段階において、自分の体力の課題や目標に応じて4つの運動の中から自分に合った場を選ぶことができるようにするために、それぞれの場において高まる動きについて確認した。その後、自分で選択した場で運動に取り組む時間を設定した【資料3】。



【資料3 課題に合った場で練習する様子】

●評価機会（第3時）

終末段階の学習の振り返りにおいて、学習カードの記述から見取った。

(4) 思考・判断・表現②「体の動きを高める運動の行い方や動きのポイントを仲間に伝えている。」について

○指導機会（第3時）

展開段階において、4つの運動におけるポイントを全体で確認した。その後、4つの運動に取り組み、撮影した動画を基に動きのポイントをペアで話し合う場面を設定した【資料4】。



【資料4 話し合う児童の様子】

●評価機会（第3時）

自分の動きの課題や動きのポイントについて、学習カードに記述した内容やペアでの交流場面の様子から見取った。

(5) 主体的に学習に取り組む態度①「運動の行い方についての仲間の気付きや考えを受け入れたり、仲間の取り組み方の良さを認めたりしようとしている。」について

○指導機会（第2～4時）

展開段階において、運動の行い方についての工夫や新しい動きを取り入れた運動を行う児童を抽出し、全体の場で紹介【資料5】をして、動き方や学び方のよさを全体で共有した。その後、新たな動きに挑戦する時間を設定した。

●評価機会（第4時）

終末段階の学習の振り返りにおいて、学習カードの記述した内容や工夫した動きを取り入れて運動する様子から見取った。



【資料5 抽出児童の紹介】

5 C（努力を要する）の児童・生徒に対する支援について

体の動きを高める運動の行い方や動きのポイントを仲間に伝えることが難しい児童に対して支援を行った。これまでの学習で撮影した動画を活用し、過去と現在の自分の動きを見比べたり、自分と友達の動きを比べたりして、行い方や動きのポイントを整理するように促した【資料6】。さらに、その後の活動の中で、児童ができたところを評価したり、難しいところはアドバイスしたりした。



【資料6 動画を見る児童の様子】

6 成果と課題

(1) 成果

毎回の授業において、導入段階に活動のめあてと終末段階に活動の振り返りを学習カードに記述する場を設定したことは、記録の積み上げによる達成感や体力の高まりを実感する上で有効であった。

単元計画の段階で、タブレットで撮影した動画を見る時間を児童の実態や活動内容に応じて設定した。その結果、自分の動きを客観的に観察したり、終末段階において自分の動きの課題やポイントを振り返ったりする上で有効であった。

(2) 課題

指導と評価の計画を作成する中で、児童の運動の行い方についての気付きや考え、動きのポイントをより多くの児童が相互に共有するような活動を仕組むことはできたが、工夫した場の設定が少なかった。計画段階で、授業の流れと活動の内容に加えて、ホワイトボードやICT等を活用し、運動の行い方についての気付きや考え、動きのポイントについて自己評価・他者評価した内容を自由に書き込める掲示板のような場の設定も考えることが大切であると感じた。

実践後の感想

今回の「体づくり運動」の単元について、時間をかけて単元計画や評価規準等を作ったり、自分自身も「体の動きを高める運動」領域について改めて勉強し直したりして、児童の体力の高まりを偶発的ではなく、意図的に狙うことの楽しさと難しさを感じた。また、指導内容で計画していた場づくりの工夫をしたり、体力の高まりを可視化したり、幾つもの手立てを授業の中に仕組むことで、確実に児童たちの変化や成長を目の当たりにし、次第に手ごたえを感じるようになった。今回の経験から、改めて、単元の計画の大切さや体育科の奥深さや面白さを認識することができた。

校種・実施学年	小学校	第2学年
単元等	D 水遊び ア 水の中を移動する運動遊び イ もぐる・浮く運動遊び	








1 単元の指導目標

知技	水の中を移動する運動遊び、もぐる・浮く運動遊びの楽しさに触れ、行い方を知るとともに、水につかって歩いたり走ったりすること、息を止めたり吐いたりしながらもぐったり浮いたりして遊ぶことができるようにする。
思判表	水の中を移動する簡単な遊び方もぐったり浮いたりする簡単な遊び方について考えたことを友達に伝えることができるようにする。
学び	水遊びを行う際、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、水遊びの心得を守って安全に気を付けたることができるようにする。

2 単元の指導と評価の計画

授業実施教	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
学 習 過 程	5	オリエンテーション	集合、挨拶、健康観察をする 本時のねらいを理解して、目標を立てる 用具の準備をする 準備運動をしてシャワーを浴びる 水慣れをする								
	10										
	15	水の中を移動する運動遊びをする (態②)安全	水の中を移動する運動遊びをする ・ねことねずみ ・ボール運びリレー ・リズム水遊び ・鬼遊び ・ドンじゃんけん (知①)水の中を移動する運動の行い方 (技①)水の中を移動する運動遊び (態①)きまりを守る				もぐる・浮く運動遊びをする ・水中じゃんけん ・宝拾い ・輪くぐり ・これいくつ (知②)もぐる・浮く運動遊びの行い方 (技②)もぐる・浮く運動遊び			学習を振り返り、自分が好きな運動を選んで楽しむ 、自分が好きな運動を選ん	
	20		友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを伝える (思①)表現				友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを伝える (思①)表現				
	25										
	30										
	35										
	40										
45	本時を振り返り、次時への見通しをもつ 整理運動、用具の片付けをしてシャワーを浴びる										
評 価 機 会	知		①			②					
	技				①				②		
	思			①				①			
	態	②		①							

3 単元の評価規準

	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知 ①	水の中を移動する運動遊びの行い方について、言ったり実際に動いたりしている。	水の中を移動する運動遊びの行い方について、 具体的に 言ったり実際に動いたりしている。	 (様相観察)
知 ②	もぐる・浮く運動遊びの行い方について、言ったり実際に動いたりしている。	もぐる・浮く運動遊びの行い方について、 具体的に 言ったり実際に動いたりしている。	 (様相観察)
技 ①	水の中をいろいろな姿勢で歩いたり、自由に方向や速さを変えて走ったりして遊ぶことができる。	安定して 水の中をいろいろな姿勢で歩いたり、自由に方向や速さを変えて走ったりして遊ぶことができる。	 (様相観察)
技 ②	息を止めたり吐いたりしながら、いろいろな姿勢で水にもぐったり浮いたりして遊ぶことができる。	安定して 息を止めたり吐いたりしながら、いろいろな姿勢で水にもぐったり浮いたりして遊ぶことができる。	 (様相観察)
思 ①	友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。	友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを 分かりやすく 友達に伝えている。	 (学習カード)
態 ①	順番やきまりを守り、誰とでも仲よくしようとしている。	単元を通して 順番やきまりを守り、誰とでも仲よくしようとしている。	 (様相観察)
態 ②	水遊びの心得を守っている。	単元を通して 水遊びの心得を守っている。	 (様相観察)

4 指導機会（○）と評価機会（●）の実際

(1) 知識①「水の中を移動する運動遊びの行き方について、言ったり実際に動いたりしている。」について

○指導機会（第2時）

展開段階において、水の中を移動する運動遊びとして「ねことねずみ」、「手つなぎ鬼」などを行った。その際、「鬼にタッチされないように、速く逃げるためにはどうするとよいか」、「逃げる友達をタッチできるように、速く追いかけるためにはどうするとよいか」と問いかけ、水の中で速く移動するように促した【資料1】。また、手で水をかいたり、足でプールの底を力強く蹴ったりジャンプしたりしながら移動している児童を紹介した。



【資料1 問いかけをする様子】

●評価機会（第2時）

展開段階において、「ねことねずみ」、「手つなぎ鬼」などの運動遊びを規則を守りながら行っているかどうかについて、活動の様子から見取った。

終末段階において、「速く移動できていた友達は誰か」、「どのように動くよいか」について、児童たちに発問し、発言の内容から見取った。

終末段階の学習の振り返りにおいて、学習カードの記述から見取った。

(2) 思考・判断・表現①「友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。」について

○指導機会（第4時）

導入段階において、第3時までに行った運動遊びを提示し、「もっと遊んでみたい」と思う運動遊びを選んで活動するように促した。その際、「友達のよい動きを見付けて真似してみよう」と確認した。

展開段階において、手で水をかいたり、足でプールの底を力強く蹴ったりジャンプしたりしながら移動している児童を紹介し、「友達のよい動きを見付けること」、「友達のよい動きを真似してみることを繰り返して声かけた【資料2】。



【資料2 よい動きを紹介する様子】

●評価機会（第4時）

展開段階において、選んだ運動遊びを行う中で、友達のよい動きを見付けて、伝えたりつぶやいたりしている児童を見取った。

終末段階の振り返りにおいて、学習カードの記述から見取った。

(3) 主体的に学習に取り組む態度①「順番やきまりを守り、誰とでも仲よくしようとしている。」について

○指導機会（第2時）

展開段階において、順番を守ったり、提示されたきまりを守ったりして遊んでいる児童を紹介して、順番やきまりを守ると、みんなで仲よく遊べることを確認した【資料3】。

●評価機会（第3時）

展開段階において、提示された運動遊びを「順番やきまりを守って楽しく遊んでいるか」について、児童の活動の様子から見取った。



【資料3 順番を守って活動する様子】

5 C（努力を要する）の児童・生徒に対する支援について

第2～5時の実践において、水の抵抗や浮力の影響で歩いたり、走ったりすることが苦手な児童に対して、水の中を速く移動することができている児童を紹介し、その後ろに続いて移動するように促したり、手で水を力強くかくとよいことを助言したりした。また、よい動きができた児童とペアで活動できるようにしたり、ティーム・ティーチングを生かして、教員と一緒に活動できるようにしたりした。

6 成果と課題

(1) 成果

指導機会と評価機会を明確にしたことで、1単位時間の指導内容が精選され、指導しやすく感じた。さらに、評価規準も明確にしたことで、児童の活動の様子の中で、価値付けたい動きや発言を意識して指導にあたることができた。特に、「知識・技能」については、これまで、学習カードに記述しなければならないと考えていたが、評価規準を作成した際に、「言ったり、実際に動いたりしている」姿で見取るということが分かったため、活動している様子から見取ることができた。

(2) 課題

低学年の指導において、「簡単な遊び方を工夫すること」についての評価が難しかった。本実践では、「鬼遊び」、「宝探し」など集団での運動遊びを取り上げたため、遊び方の工夫を選ぶ際に、一人一人の「思考・判断・表現」の見取り方が困難であった。今後、どのような場面で評価していくのかを検討したい。

実践後の感想

低学年「水遊び」は、他の領域と比べ、安全面での配慮事項が多く、これまで一斉指導による授業が多かった。しかし、評価規準を作成し、指導機会と評価機会が明らかになったことで、1単位時間の指導に余裕が生まれ、児童の活動時間を増やすことができた。

校種・実施学年	小学校	第3学年
単元等	D 水泳運動 ア 浮いて進む運動 イ もぐる・浮く運動	








1 単元の指導目標



知技	浮いて進む運動、もぐる・浮く運動の楽しさや喜びに触れ、行い方を知るとともに、け伸びをすること、息を止めたり吐いたりしながらいろいろなもぐり方や浮き方をすることができるようにする。
思判表	自己の能力に適した課題を見付け、水の中での動きを身に付けるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
学び	水泳運動を行う際、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、水泳運動の心得を守って安全に気を付けたることができるようにする。

2 単元の指導と評価の計画

授業実施数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
学習過程	5	オリエンテーション	集合、挨拶、健康観察をする 本時のねらいを理解して、目標を立てる 用具の準備をする 準備運動をしてシャワーを浴びる 水慣れをする							
	10									
	15	(態②)安全 水の中を移動する運動遊び、もぐる・浮く運動遊びをする	もぐる・浮く運動の行い方を理解する		浮いて・進む運動の行い方を理解する け伸びをする		自己に適したもぐる時間、浮く時間に挑戦する ポビングの回数に挑戦する け伸びで進む距離に挑戦する (思①)活動選択		できるだけようになったもぐり方や浮き方、浮いて進む運動を発表する	
	20		(知②) もぐる・浮く運動の行い方	もぐる・進む運動の行い方を理解する け伸びをする ・手を引かれて ・足を押されて ・底や壁を蹴って ・股くぐり 初歩的な泳ぎをする ・呼吸を伴わない泳ぎ (知①)浮いて進む運動の行い方 (技①)け伸び		(思②)表現				
	25		もぐる・浮く運動をする ・プールの底にタッチ ・背浮き ・だるま浮き ・ポビング (態①) きまりを守る							
	30									
	35									
	40									
	45									
	45		本時を振り返り、次時への見通しをもつ 整理運動、用具の片付けをしてシャワーを浴びる 集合、健康観察、挨拶をする							
評価機会	知		②		①					
	技							②③	①	
	思						①		②	
	態	②			①					
										総括的評価

3 単元の評価規準

	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知 ①	浮いて進む運動の行い方について、言ったり書いたりしている。	浮いて進む運動の行い方について、 具体的に 言ったり書いたりしている。	 (学習カード)
知 ②	もぐる・浮く運動の行い方について、言ったり書いたりしている。	もぐる・浮く運動の行い方について、 具体的に 言ったり書いたりしている。	 (学習カード)
技 ①	体を縮めた状態になってプールの壁に両足を揃えてから、力強く両足で蹴り出した勢いで、顎を引いて腕で頭を挟んで体を一直線に伸ばした姿勢で進むことができる。	体を縮めた状態になってプールの壁に両足を揃えてから、力強く両足で蹴り出した勢いで、顎を引いて腕で頭を挟んで体を一直線に伸ばした姿勢で進むことが 安定して できる。	 (様相観察)
技 ②	手や足を動かした推進力を利用して、上体からもぐったり、友達の股の下やプールの底に固定した輪の中をくぐり抜けたりすることができる。	手や足を動かした推進力を利用して、上体からもぐったり、友達の股の下やプールの底に固定した輪の中をくぐり抜けたりすることが 安定して できる。	 (様相観察)
技 ③	大きく息を吸い込み全身の力を抜いて、背浮きやだるま浮きなどのいろいろな浮き方をすることができる。	大きく息を吸い込み全身の力を抜いて、背浮きやだるま浮きなどのいろいろな浮き方をすることが 安定して できる。	 (様相観察)
思 ①	自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決のための活動を選んでいる。	自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決のための活動を 理由を挙げて 選んでいる。	 (学習カード)
思 ②	課題の解決のために考えたことを友達に伝えている。	課題の解決のために考えたことを 分かりやすく 友達に伝えている。	 (様相観察)

<p>態 ①</p>	<p>水泳運動のきまりを守り、誰とでも仲よく励まし合おうとしている。</p>	<p>単元を通して水泳運動のきまりを守り、誰とでも仲よく励まし合おうとしている。</p>	 <p>(様相観察・学習カード)</p>
<p>態 ②</p>	<p>水泳運動の心得を守って安全を確かめている。</p>	<p>単元を通して水泳運動の心得を守って安全を確かめている。</p>	 <p>(様相観察・学習カード)</p>

4 指導機会（○）と評価機会（●）の実際

(1) 知識①「浮いて進む運動の行い方について、言ったり書いたりしている。」について

○指導機会（第5時）

展開段階において、け伸びの仕方について、「息を大きく吸うこと」、「壁や床を力強く蹴ること」、「体を一直線に伸ばすこと」を確認し、練習する時間を設定した

【資料1】。

●評価機会（第5時）

終末段階において、「け伸びの動きのポイントは何か」について、児童たちに発問し、発言の内容から見取った。

終末段階の学習の振り返りにおいて、学習カードの記述から見取った。



【資料1 動きの確認の様子】

(2) 思考・判断・表現①「自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決のための活動を選んでいる。」について

○指導機会（第7時）

導入段階において、前時に使用した「もぐり方・浮き方」、「浮いて進む泳ぎ方」についてのチェックカードを振り返り、自分の現状を確認する場面を設定した。その際、「行う運動」、「目標（時間や距離など）」、「練習方法」を選択することで、自分に合った課題設定と活動選択を行うことができるように説明した【資料2】。

●評価機会（第7時）

展開段階において、「選択した運動に合った場や教具を選んでいるか」、「目印を決めて泳いだり、友達同士で観察し合いながら練習したりしているか」について、児童たちの活動の様子から見取った。

終末段階の振り返りにおいて、学習カードの記述から見取った。



【資料2 自分の課題に合った練習をする様子】

(3) 主体的に学習に取り組む態度②「水泳運動の心得を守って安全を確かめている。」について

○指導機会（第1時）

導入段階において、水泳学習の約束として、「プールサイドは歩いて移動すること」、「プールには後ろ向きに静かに入ること」、「バディで互いを確認しながら運動すること」などを確認した【資料3】。また、展開段階において、水泳学習の約束を意識して活動できている児童を紹介して、安全に運動する大切さを確認した。



【資料3 後ろ向きに入水する様子】

●評価機会（第1時）

展開段階において、プールサイドを移動の様子やプールに入水する様子から見取った。また、終末段階の振り返りにおいて、学習カードの記述から見取った。

5 C（努力を要する）の児童・生徒に対する支援について

第7時の実践において、提示された「浮き方・もぐり方」、「浮いて進む運動」から、自己の能力に適した課題を見付けることができていない児童に支援を行った。前時までには活用したチェックカードを振り返るように促したり、本時に目指すとよい「運動」、「目標（時間や距離など）」、「練習方法」について助言したりした。また、同じ課題をもった友達にペアを組みかえ、学習に取り組むことができるようにした。

6 成果と課題

(1) 成果

評価規準を明確にすることで、児童の学習状況を把握しやすかった。あわせて、指導内容を精選することができた。

(2) 課題

水泳運動ということから、水中での活動となるため、学習中に児童の様子を見取することに難しさを感じたため、学習の様子を映像で記録しておくことが望ましいと感じた。また、複数の教員で授業を行うにあたり、事前に指導内容と評価規準の共通理解が必要と感じた。

実践後の感想

評価規準を明らかにすることで、1単位時間の指導内容が整理された。特に、「主体的に学習に取り組む態度」については、「いつ指導するのか」、「どのように見取るのか」が明確になったので、指導に役立った。

校種・実施学年	小学校	第6学年
単元等	D 水泳運動 ア クロール イ 平泳ぎ ウ 安全確保につながる運動	

1 単元の指導目標

知技	クロール、平泳ぎの楽しさや喜びを味わい、行い方を理解するとともに、手や足の動きに呼吸を合わせて続けて長く泳ぐことができるようにする。
思判表	自己の能力に適した課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学び	水泳運動を行う際、約束を守り助け合って運動をすることができるようにする。

2 単元の指導と評価の計画

授業実施数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
学 習 過 程	5	オリエンテーション	集合、挨拶、健康観察をする 本時のねらいを理解して、目標を立てる 用具の準備をする 準備運動をしてシャワーを浴びる 水慣れをする									
	10											
	15	試しの記録会を行う	安全確保につながる運動をする ・背浮き・呼吸 ・浮き沈み・だるま浮き									
	20		クロールの行い方を理解する バディで助け合いながら、練習をする ・手のかき ・ばた足 ・息つき (知①)クロールの行い方 (技①)クロール (態①)公正協力	平泳ぎの行い方を理解する バディで助け合いながら、練習をする ・手のかき ・かえる足 ・息つき (知②)平泳ぎの行い方 (技②)平泳ぎ	自己の能力に適した泳ぎ方と課題に応じた練習の場や段階を選んで練習をする (思①)練習方法選択 課題の解決のために自己や仲間の考えたことを伝える (思②)解決方法の表現	記録会をする						
	25											
	30											
	35											
40	本時を振り返り、次時への見通しをもつ 整理運動、用具の片付けをしてシャワーを浴びる 集合、健康観察、挨拶をする											
45												
評 価 機 会	知		①				②					
	技					①			②			
	思									①	②	
	態				①					①		
												総括的評価

3 単元の評価規準

	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知 ①	クロールの行い方について、言ったり書いたりしている。	クロールの行い方について、 具体的に 言ったり書いたりしている。	 (学習カード)
知 ②	平泳ぎの行い方について、言ったり書いたりしている。	平泳ぎの行い方について、 具体的に 言ったり書いたりしている。	 (学習カード)
技 ①	クロールで、左右の手を入れ替える動きに呼吸を合わせて、泳ぐことができる。	クロールで、左右の手を入れ替える動きに呼吸を合わせて、 安定して 泳ぐことができる。	 (様相観察)
技 ②	平泳ぎで、手の動きに合わせて呼吸し、キックの後には息を止めてしばらく伸びて、泳ぐことができる。	平泳ぎで、手の動きに合わせて呼吸し、キックの後には息を止めてしばらく伸びて、 安定して 泳ぐことができる。	 (様相観察)
思 ①	自己の課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、課題に応じた練習の場や段階を選んだりしている。	自己の課題を見付け、 適切に その課題の解決の仕方を考えたり、課題に応じた練習の場や段階を選んだりしている。	 (学習カード)
思 ②	課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	課題の解決のために自己や仲間の考えたことを 分かりやすく 他者に伝えている。	 (学習カード)
態 ①	約束を守り、仲間と助け合おうとしている。	約束を守り、 継続して 仲間と助け合おうとしている。	 (様相観察)

4 指導機会（○）と評価機会（●）の実際

(1) 知識①「クロールの行い方について、言ったり書いたりしている。」について

○指導機会（第2時）

展開段階において、クロールの泳ぎ方について、「手のかき」、「ばた足」、「息つぎ」の3つの動きのポイントから行うことを確認し、練習する時間を設定した【資料1】。

●評価機会（第2時）

終末段階において、「クロールの動きのポイントは何か」について、児童に発問し、発言の内容から見取った。

終末段階の学習の振り返りにおいて、学習カードの記述から見取った。



【資料1 動きの確認の様子】

(2) 思考・判断・表現①「自己の課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、課題に応じた練習の場や段階を選んだりしている。」について

○指導機会（第10時）

展開段階において、まず、「手のかき」、「ばた足（かえる足）」、「息つぎ」の3つの動きのポイントを基に「自分の課題は何か」について発問し、自己の課題を確認できるようにした。次に、練習カードを活用して、練習方法を選んで課題解決活動を行うことができるように促した。そして、ペアで互いの動きを見合ったり、補助をしたり、アドバイスをしながら練習する時間を設定した【資料2】。

●評価機会（第10時）

展開段階において、「手のかき」、「ばた足（かえる足）」、「息つぎ」の3つの動きのポイントを基に「自分の課題は何か」について発言の内容から見取った。また、練習カードから解決方法を選択して、練習している姿から見取った。

終末段階の振り返りにおいて、学習カードの記述から見取った。



【資料2 ペアで課題を確認している姿】

(3) 主体的に学習に取り組む態度①「約束を守り、仲間と助け合おうとしている。」について

○指導機会（第4時）

展開段階において、仲間が練習をする際に、補助をしたり、アドバイスをしたりしながら練習しているペアを紹介して、「助け合って練習するよさ」を全体で確認した。また、「手のかき」、「ばた足」、「息つぎ」の3つのポイントを基に仲間の動きを観察してアドバイスすることやビート板（用具）を使うことを促したり、手を引いて補助をしたりすることが有効であることを確認した【資料3】。

●評価機会（第9時）

展開段階において、課題解決に向けてペアで練習している様子から見取った。また、終末段階の振り返りにおいて、【資料3 有効な補助の仕方の確認】学習カードの記述から見取った。



【資料3 有効な補助の仕方の確認】

5 C（努力を要する）の児童・生徒に対する支援について

第10時の実践において、自己の課題を適切に見付けることができず、解決方法を選択できていないペアに対し支援を行った。「手のかき」、「ばた足（かえる足）」、「息つぎ」の動きのポイントを基に、「どこが上手くいっていないか」、「どのようになるとよいか」を個別に確認し、互いにその動きに着目して見合うように促した【資料4】。また、第11時では、ペアを組みかえ、アドバイスを受ける機会が増えるようにした。



【資料4 教員による個別の指導】

6 成果と課題

(1) 成果

評価規準を明確にすることで、児童の学習状況を把握しやすかった。また、評価規準を意識して単元構成を考えたり、指導したりしたことで、1単位時間の授業のねらいがより明確になった。

(2) 課題

評価規準が明確になったことで具体的な記述内容をイメージして授業を行うことができたが、振り返りの視点が毎時間異なり、学習カードを毎時間作成することとなった。単元を見通した学習カードの作成や振り返りの視点を整理して、児童が迷いなく学習に取り組めるようにする必要がある。

実践後の感想

評価規準を明らかにすることで、その時間に指導する内容が整理され、授業のねらいを明確にして実践することができた。また、指導機会と評価機会を考える過程で、指導することと評価することを精選することができ、ゆとりをもって実践することができた。

校種・実施学年	小学校	第2学年
単元等	E ゲーム ア ボールゲーム「ボール蹴りゲーム」	

1 単元の指導目標

知技	ボール蹴りゲームの楽しさに触れ、行い方について知るとともに、狙った所にボールを蹴ったり、ボールが転がってくるコースに入ったりすることができるようにする。
思判表	考えたことを友達に伝えることができるようにする。
学び	ボール蹴りゲームに進んで取り組むことができるようにする。

2 単元の指導と評価の計画

授業実施数	1	2	3	4	5	6	7
学 習 過 程	5	オリエンテーション	場の準備・めあての確認を行う				
	10	めあてを確認する	スキルアップタイムを行う（ボールタッチ パス ドリブル）				
	15	場の準備や基本的なルールや学習カードの確認をする	チームワークタイムを行う（ドリブル競争 シュート まとめてゲーム等） (技②)とめる				
	20						
	25	ボールに慣れる	メインゲーム1を行う (どんでんシュートゲーム) ※楽しくなるルールや場を 考えてどんでんシュート ゲームを楽しむ ※第2・3時で場を変える (技①)蹴る	メインゲーム2を行う(ボール蹴りゲーム) ※ゲームの場やルールの中から、楽しくゲームができる 場や得点方法を考えてゲームを楽しむ ※第4～6時で場の設定変更を行う (技③)コース (態①)主体的 (思①)伝える			
	30	試しのゲームを行う (知①)行い方					
	35						
	40	本時の振り返り、次時の確認、片付けを行う					
45		もっと楽しくなる場やルールを考え、本時のまとめを行う					
評 価 機 会	知	①					総括的評価
	技		①	②	③		
	思					①	
	態					①	

3 単元の評価規準

	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知 ①	ボール蹴りゲームの行い方について、言ったり実際に動いたりしている。	ボール蹴りゲームの行い方について、 具体的に 言ったり実際に動いたりしている。	 (様相観察・学習カード)
技 ①	ボールをねらったところに緩やかに蹴ったり、的に当てたり、得点したりすることができる。	ボールをねらったところに緩やかに蹴ったり、的に当てたり、得点したりすることが 安定して できる。	 (様相観察)
技 ②	ボールを捕ったり、止めたりすることができる。	ボールを捕ったり、止めたりすることが 安定して できる。	 (様相観察)
技 ③	ボールが転がってくるコースに入ることができる。	ボールが転がってくるコースに入ることが 安定して できる。	 (様相観察)
思 ①	友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。	友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを 分かりやすく 友達に伝えている。	 (様相観察・学習カード)
態 ①	ボール蹴りゲームに進んで取り組もうとしている。	単元を通して ボール蹴りゲームに進んで取り組もうとしている。	 (様相観察・学習カード)

4 指導機会(○)と評価機会(●)の実際

(1) 知識①「ボール蹴りゲームの行い方について、言ったり実際に動いたりしている。」について

○指導機会（第1時）

第1時では、ボール蹴りゲームの行い方について理解することができるように、モデルの動画を視聴し、その様子とルールについて画像を見せながら説明した。その後、運動場で、3つの蹴り方(インサイドキック、インステップキック、トゥキック)、ボールの止め方(足の裏で止める、足のくるぶし周辺で止める)について、図を見せて説明したり、実際に師範指導をしたりして伝えた【資料1】。その後、ドリブルの仕方について説明し、どんどんシュートゲームやボール蹴りゲームの行い方、ルールについて確認した。



【資料1 説明する様子】

●評価機会（第1時）

展開段階において、ボールを蹴ったり止めたり、ドリブルの練習を行ったりした。その後、試しのゲームを行った。その中で、学んだ知識をもとに実際に動いたり、言葉にしたりしているところを見取った。また、終末での振り返り場面においては、学んだ知識について発言している内容や学習カード、振り返りカードの記述から見取った。

(2) 思考・判断・表現①「友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。」について

○指導機会（第6時）

導入段階において、チームワークタイム、メインゲームの活動が活発になるように、友達のよかった動きを進んで伝え合うように説明した。また、メインゲームの1試合目、2試合目が終わった後にチームで集まり、感想や改善点を話し合う場面を設定した。その際、話し合いの視点を示し、友達のよかったところや改善点について具体的に伝え合うことができるように支援した。



【資料2 メインゲーム後に話し合う姿】

●評価機会（第6時）

チームワークタイム時に、パスやドリブルをしているときに友達のよいところを積極的に伝えている様子を見取った。メインゲームでは、試合後にチームで集まり、感想や改善点を話し合う活動を行った。その際、チームの作戦が成功したか、友達の動きがどうだったかについて意見交換している場面で、友達のよい動きについて見付けたり、伝えたりしている様子から見取った【資料2】。さらに、終末段階の振り返り場面での発言や学習カード、振り返りカードの記述から見取った。

(3) 主体的に学習に取り組む態度①「ボール蹴りゲームに進んで取り組もうとしている。」について

○指導機会（第6時）

全ての児童が見通しをもって活動に取り組むことができるように、毎時間の導入時に、メインゲームにおける本時のめあてを確認した。また、友達と協力して仲よく取り組んだり、進んで練習や試合を行ったりすることを確認し、スキルアップタイム【資料3】や、チームワークタイム、メインゲームの中で児童の動きを積極的に称賛し、意欲的に取り組むことができるように支援をした。



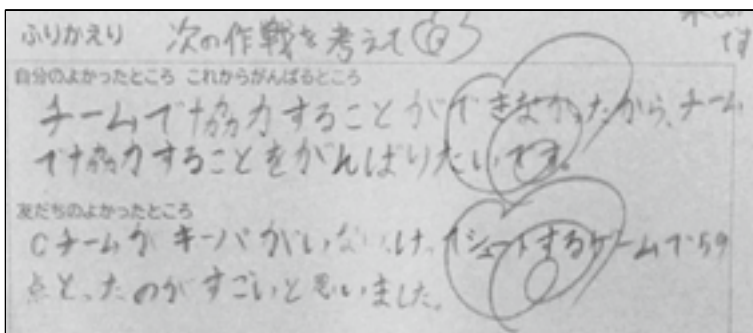
【資料3 スキルアップの様子】

●評価機会（第6時）

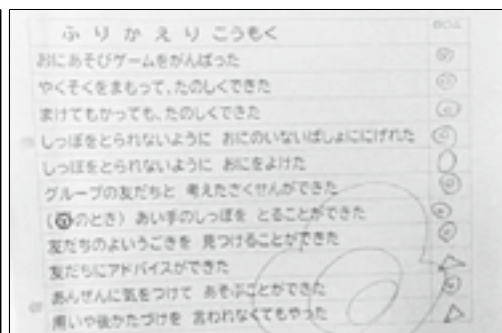
スキルアップタイムや、チームワークタイム、メインゲームの様子から見取った。また、終末時の振り返りの発表の内容や、学習カードの振り返りの記述内容から見取った【資料4】【資料5】。さらに振り返りシートにおける学習意欲に関する項目の自己評価から見取った【資料6】。



【資料4 振り返りで発言する様子】



【資料5 学習カードの記述例】



【資料6 振り返りシートの記述例】

5 C（努力を要する）の児童・生徒に対する支援について

シュートやドリブルなどの技能がうまくいかないときにやる気をなくし、粘り強く取り組もうとしない児童に対して支援を行った。ボールを蹴るときにトゥキックでねらいを定めてゆっくり蹴ることや、ドリブルの時に足の甲の部分のインサイドやアウトサイドを利用してドリブルをすることなど、個に応じた支援を行った。

どんどんシュートゲームにおいて、得点を確実にとることができるように段階的に指導を行うようにした。まずは、1点ゾーンからねらうことを促し、安定してできるようになった後に、高い得点ゾーンをねらう段階的な活動となるように支援した。ボール蹴りゲームでは、シュートを打つタイミングを見つけることができるように助言した。

6 成果と課題

(1) 成果

技能に関する指導機会を明確にしていたことで、パスやドリブル、シュートの練習に時間をかけ、場を工夫することで児童の意欲も高まり、技能の上達がみられた。また、評価機会を事前に計画することで焦点化して見取りを行うことができ、適切な声かけやフィードバックを行うことができた。

(2) 課題

メインゲームにおいては、児童が進んで作戦を立てることができていたが、ゲームのルールを児童が自分たちの実態に合わせて変更したり、工夫して楽しくしたりできるような支援が十分ではなかった。他領域において、思考・判断・表現における工夫についての見取りを行っていく必要がある。

実践後の感想

ドリブル、パス、シュートに関しては、児童の実態に合ったコツを教えることで、意欲的に練習し、上達が見られた。しかし、一人一人の学習の様子を見取って評価することは難しいと感じた。

校種・実施学年	小学校	第3学年
単元等	E ゲーム ウェベースボール型ゲーム「ティーボール」	

1 単元の指導目標

知技	ティーボールの楽しさや喜びに触れ、行い方について知るとともに、打つ、捕る、投げるなどのボール操作と得点をとったり防いだりする動きによって、易しいゲームをすることができるようにする。
思判表	誰もが楽しくゲームに参加できるようなルールを選んだり、簡単な作戦を選んだりすることができるようにする。
学び	ルールやマナーを守り、場や用具などの安全性を確かめながら進んで練習やゲームに取り組むことができるようにする。

2 単元の指導と評価の計画

授業実施数	1	2	3	4	5	6	7
学習過程	5	オリエンテーション	場の準備、めあての確認を行う				
	10	めあてを確認する	感覚づくり運動を行う				
	15	場の準備、基本的なルールや学習カードの確認をする (態①)意欲	ローテーションゲーム・ホームラン競争を行う	チームワークタイムを行う ・守備練習 ・バッティング練習			
	20			(技②)投げる (技③)捕る			
	25	試しのゲームを行う (知①)行い方	ゲームを行う。 (メインゲーム1)	ゲームを行う (メインゲーム2)			まとめのリーグを行い結果発表と表彰を行う
	30			※総当たり戦		※話し合った規則や作戦 (攻撃、守備)	
	35			(技①)打つ (思①)伝える (態①)意欲			
	40	本時のまとめを行う (振り返り、次時の課題の確認、規則の修正や追加)					
45	整理運動を行い、片付けを行う						
評価機会	知	①					総合的評価
	技		①		②	③	
	思			①			
	態		①	①			

3 単元の評価規準

	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知 ①	ティーボールの行い方について、言ったり書いたりしている。	ティーボールの行い方について、 具体的に 言ったり書いたりしている。	 (様相観察・学習カード)
技 ①	ボールをフェアグラウンド内に打ったり、ベースに向かって全力で走ったりすることができる。	ボールをフェアグラウンド内に打ったり、ベースに向かって全力で走ったりすることが 安定して できる。	 (様相観察)
技 ②	投げる手と反対の足を一步前に踏み出して、ボールを投げるができる。	投げる手と反対の足を一步前に踏み出して、 スムーズに ボールを投げるができる。	 (様相観察)
技 ③	向かってくるボールの正面に移動して、捕球することができる。	向かってくるボールの正面に移動して、捕球することが 安定して できる。	 (様相観察)
思 ①	課題の解決のために考えたことを友達に伝えている。	課題の解決のために考えたことを友達に 分かりやすく 伝えている。	 (様相観察・学習カード)
態 ①	ティーボールに進んで取り組もうとしている。	単元を通して ティーボールに進んで取り組もうとしている。	 (様相観察・学習カード)

4 指導機会(○)と評価機会(●)の実際

(1) 知識①「ティーボールの行い方について、言ったり書いたりしている。」について

○指導機会（第1時）

導入段階において、ティーボールの行い方が分かる動画を視聴し、その様子とルールについて画像を見せながら説明した。その後、運動場で、バットの持ち方、ボールの正しい打ち方、ボールの正しい投げ方や捕り方等について手本を示し説明した【資料1】。その後、実際に児童一人一人がバットを振ったり、ボールを投げたり、捕ったりできる試しの活動を設定した。



【資料1 振り方を説明する様子】

●評価機会（第1時）

終末段階で、ティーボールのルールや、バットの振り方、ボールの投げ方や捕り方について振り返りを行う中で、バットの持ち方や、ボールの投げ方、捕り方について発言することができるかを見取った。また、ティーボールのルールについて知ったことを発表する場面における発言内容や学習カード、振り返りカードの記述から見取った。

(2) 思考・判断・表現①「課題の解決のために考えたことを友達に伝えている。」について

○指導機会（第4時）

展開段階において、ゲームが終わった後にチームで集まり、感想や改善点を話し合う場面を設定した。その際、友達のよかったところや改善点について具体的に伝え合うことができるように話し合いの視点を全体で確認した。



【資料2 ゲーム中に話し合う様子】

●評価機会（第4時）

展開段階におけるゲーム後の話し合いの場面において、友達のよかったところや、頑張ったところ、改善点について友達に伝えている児童の様子や終末段階で記入する学習カードや振り返りカードの記述内容から見取った【資料2】。

(3) 態度①「ティーボールに進んで取り組もうとしている。」について

○指導機会（第1・3時）

単元の導入段階において、ティーボールについて興味関心を高めるために、いろいろなゲームのやり方について動画を見せながら説明した【資料3】。また、練習方法をイメージしながらティーボールへの興味関心を高め、進んで取り組みたいという意欲を持つことができるように指導した。第3時では、意欲的に活動することができるように、展開段階において上手にできるコツを確認したり、ゲーム時の作戦を工夫したりするように促した。



【資料3 動画を視聴する様子】

●評価機会（第3時）

展開段階における、守備練習や、バッティング練習において、グループの児童と協力して進んでいるかを見取った【資料4】【資料5】。また、ゲームの中で、進んでボールを捕ったり投げたり、懸命にボールを打ったり走ったりしている姿から見取った。

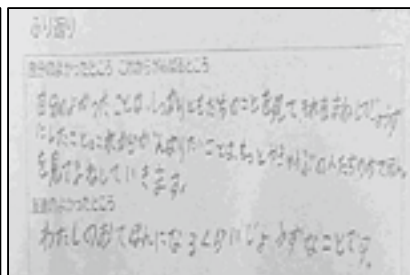
終末段階での振り返り場面における児童の発言内容や学習カード、振り返りシートの記述内容から見取った【資料6】。



【資料4 チーム練習の様子】



【資料5 進んで話し合っている様子】



【資料6 学習カードの記述】

5 C（努力を要する）の児童・生徒に対する支援について

ボールを打つ、捕る・投げるの一連の動作を苦手としている児童が多くいた。そこで、チームワークタイム（主に投げる練習、打つ練習）の場面において、上手にできるコツと、その練習方法について個別の支援を行った。具体的には、ボールの投げ方について、準備運動として、投げ方のコツが身に付く類似運動を10回した後、キャッチボールをするなど段階的な活動構成を仕組んだ。また、打つ練習の場面では、「とんとんくるっ」と動きに合わせてかけ声を出すことで繰り返し練習に取り組むことができるようにし、水平にバットを振ることを意識するように適宜声かけを行った。

6 成果と課題

(1) 成果

個に応じた支援を続け、児童の伸びやよさをすぐにフィードバックしたことで技能面での上達が見られ、メインゲームの中で得点をあげる児童の数が増えた。また、毎回、チームの作戦を立てて攻撃や守備を行い、どうすればアウトにできるかを考えることができ、守備時の動きが学習を重ねるごとによくなった。

(2) 課題

チームで一丸となり、協力して取り組む姿が見られた一方、勝敗に固執する児童も多く、勝敗を気持ちよく受け入れることができない場面があった。児童の実態に合った指導項目の重点化を図るために、計画的・継続的な指導を行う必要がある。そのため、年間指導計画の見直しと改善を定期的に行うことが大切である。

実践後の感想

投げ方、打ち方に関しては、コツを教えて練習を積み重ねることで技能の上達が見られた。評価に関しては、思考・判断・表現や技能の評価が難しかった。全体の動きを見ながら、一人一人の指導・評価を適切に行う工夫を図りたい。

校種・実施学年	小学校	第6学年
単元等	E ボール運動 イ ネット型「ソフトバレーボール」	






1 単元の指導目標

知技	ソフトバレーボールの楽しさや喜びを味わい、行い方を理解するとともに、個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをすることができるようにする。
思判表	自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学び	ソフトバレーボールに積極的に取り組むことができるようにする。

2 単元の指導と評価の計画

授業実施数	1	2	3	4	5	6	7	
学 習 過 程	5	オリエンテーション	場の準備、めあての確認を行う					
	10	めあてを確認する	スキルアップタイムを行う（一人トス、ペアキャッチ、アタック等）					
	15	場の準備や基本的なルールや学習カードの確認をする	チームワークタイムを行う (技①)体の移動 (技③)アタック					
	20							
	25	ボールに慣れる	ラリーゲームを行う ※自分のチームに合った易しいルールや場を考えてラリーゲームを楽しむ (技②)パス・トス (態①)積極性 (思①)課題解決方法の表現	メインゲーム2を行う ※相手に勝つためにルールや作戦を考えてゲームを楽しむ (知①)行い方 (思①)課題解決方法の表現 (態①)積極性			六年三組トーナメント大会	
	30	試しのゲームを行う (知①)行い方						
	35							
	40	本時の振り返り、次時の確認、片付けを行う	本時の振り返り、次時の確認、片付けを行う					
45								
評 価 機 会	知	①				①		総 括 的 評 価
	技				①②	③		
	思			①				
	態			①			①	

3 単元の評価基準

	おおむね満足できる（B）	十分満足できる（A）	評価規準の具体 （評価方法）
知 ①	ソフトバレーボールの行い方について、言ったり書いたりしている。	ソフトバレーボールの行い方について、 具体的に 言ったり書いたりしている。	 (様相観察・学習カード)
技 ①	ボールの方向に体を向けて、その方向に素早く移動することができる。	ボールの方向に体を向けて、その方向に素早く移動することが 安定して できる。	 (様相観察)
技 ②	味方が受けやすいようにボールをつなぐことができる。	味方が受けやすいようにボールをつなぐことが 安定して できる。	 (様相観察)
技 ③	片手、両手を使って、相手のコートにボールを打ち返すことができる。	片手、両手を使って、相手のコートにボールを打ち返すことが 安定して できる。	 (様相観察)
思 ①	課題解決のために、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	課題解決のために、自己や仲間の考えたことを 分かりやすく 他者に伝えている。	 (様相観察・学習カード)
態 ①	ソフトバレーボールに積極的に取り組もうとしている。	単元を通して ソフトバレーボールに積極的に取り組もうとしている。	 (様相観察・学習カード)

4 指導機会(○)と評価機会(●)の実際

(1) 知識①「ソフトバレーボールの行い方について、言ったり書いたりしている。」について

○指導機会（第1時）

導入段階において、ルールや動き方について把握できるようにソフトバレーボールの動画を視聴し、全体でポイントを確認した。その後、ルール、レシーブ、トス、アタックの仕方、授業の進め方について、解説したり、レシーブやパスの手本を示したりして理解できるような場面を設定した【資料1】。



【資料1 ゲームの行い方の説明場面】

●評価機会（第1時）

実際に、自分たちでパスやレシーブの練習をしたり、6対6のパス回しゲームをしたりする中で、レシーブやトスが難しく、ゲームが続かないことを実感できるようにし、レシーブやトスのポイントについて説明したり、手本を示したりした。終末段階の振り返り場面において、ソフトバレーボールの行い方について意見交流を行い、その様子や学習カード、振り返りカードの記述から見取った。

○指導機会（第6時）

導入段階において、ゲームに勝つための大切な動きについて全体で確認した。その後、各チームで話し合えることができるように、サーブ、レシーブやトス、スパイクのポイントについて意見交換を行う場面を設定した。そして、話し合った意見を基にゲームを行った。

●評価機会（第6時）

ゲームの中で、身に付けた知識を基にプレーしているかを見取った。また、サーブ、レシーブやトス、スパイクができていたかについての意見交換の場面において、自分や仲間の動きについて意見を述べている様子や学習後の振り返りカードの内容から見取った。

(2) 思考・判断・表現①「課題解決のために、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。」について

○指導機会（第3時）

ゲーム前後やゲーム間の話し合いの中で、よかった点と改善する点について話し合いを行い、チームの課題を解決するにはどうしたらよいかを考える場面を設定した。その際、具体的に伝え合いができるように話し合いの視点を全体で確認した【資料2】。



【資料2 ゲームの間話し合い場面】

●評価機会（第3時）

話し合いの中で、自分や仲間の動きのよかった点や改善のためのポイント等について意見交流している様子や、学習カード、振り返りカードの内容から見取った。

(3) 主体的に学習に取り組む態度①「ソフトバレーボールに積極的に取り組もうとしている」態度について

○指導機会（第2時）

展開段階におけるラリーゲームにおいて、ラリーを続けるためには、チームで声を出し合うこと、ボールが飛んできた方向に素早く動くことが必要であることを確認した。その後、ゲームを行い、ラリーを続けるための動きを試す場面を設定した。



【資料3 振り返り場面】

●評価機会（第3時）

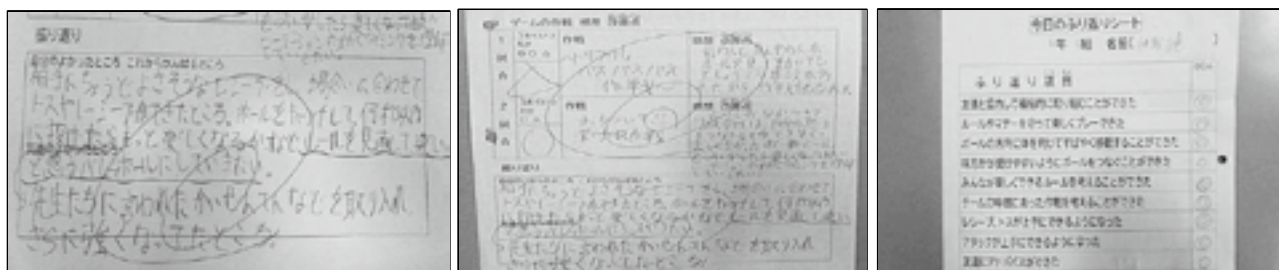
ラリーゲームの中で、声を出して動いたり、ボールの落下地点に動いてボールに触ろうとしたりしている様子や、ラリーゲーム後の振り返り場面での発表、振り返りカードの記述から見取った【資料3】。

○指導機会（第6時）

メインゲームの中で、ゲームに勝つための作戦を話し合う場面において積極的に考えを出して協力して取り組むように指導した。話し合いの場面においては、話し合う視点を明確にするために、学習カードを使いチームの課題を共有できるようにした。

●評価機会（第6時）

メインゲームの中で、仲間と協力して声を出して動いたり、作戦が成功するために意欲的に動いたりしている様子や、ゲーム後の、振り返りの場面での発表、学習カード、振り返りカードの記述から見取った【資料4】。



【資料4 学習カード・振り返りカード】

5 C（努力を要する）の児童・生徒に対する支援について

レシーブの仕方について、両手を重ねて振り上げるのではなく、膝の曲げ伸ばしを使うこと、サーブはアンダーハンドで、効き手の反対の手でトスし、肘を伸ばして手首付近で打つこと、足を動かすことなど、児童の実態に合った具体的な指示を行った。また、できるようになった動きを称賛するなど、褒めて伸ばす指導を行った。

6 成果と課題

(1) 成果

指導と評価の計画を基に、学習中の児童の様子をVTRに収録し、学習後に改めて確認したり、学習カードや振り返りカードを確認したりして、計画的に一人一人の評価を適切に行うことができた。

(2) 課題

レシーブ、トス、アタックをゲームで使用してラリーが続くまで上達するには、時間がかかる。そのため児童の実態に合った教具や易しいルールへの適応、技能に関する適切な評価規準を設定する必要がある。

実践後の感想



ソフトバレーボールにおいて、ゲームの前提となるレシーブ・トス・アタックなどの基礎的な動きを上達させる指導・支援に思った以上に時間がかかることがわかった。このことを考慮して、指導と評価の計画を立てる必要がある。



校種・実施学年	中学校	第1学年
単元等	A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 体の動きを高める運動	

1 単元の指導目標

知運	体ほぐしの運動・体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解し、手軽な運動を行い、心と体との関係や心身の状態に気付き、仲間と積極的に関わり合うことができるようにし、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うとともに、それらを組み合わせることができるようにする。
思判表	自己の課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学び	仲間の学習を援助しようとすることができるようにする。

2 単元の指導と評価の計画

授業実施数	1	2	3	4	5	6	7	
学 習 過 程	5	オリエンテーション (態①)	出欠点呼・めあての確認を行う					
	10	協力 めあての確認 を行う	緊張・脱力運 動に取り組む ・ペアストレッチ ・押し相撲	体の動きを高める運動に取り組む 「柔らかさ」 ・ペアストレッチ 「巧みさ」 ・ボール操作 ・ラダー	音楽に合わせた運動に取り組 み、楽しさを実感する ・ストレッチ ・W・UP	音楽に合わせた W・UP づくり	音楽に合わ せた W・UP づくり発表 をする ・発表 ・観察 ・相互評価	
	15							
	20	体ほぐしの運 動をする	仲間と関わる 運動に取り組 む ・人間知恵の輪 ・風船バレー	「力強い」 ・腕立て ・腹筋 「動きの持続」 ・縄跳び ・馬とび	・ICTの活用 (思①) 違いを踏まえて、仲間と楽しむ 運動を見つけ、伝える	本単元の振 り返しを行 う		
	25							
	30	3つの運動に 取り組む ・ペアストレッチ ・ステップ ・鬼ごっこ	体ほぐしの運 動の意義を知 る (知①) 体ほぐし運動の 意義	体の動きを高 める意義を知 る (知②) 体の動きを高め る運動の意義	・授業前に行う W・UP (1曲2 分)			
	35							
	40							
	45							
	50	本時の振り返り・次時の活動の確認を行う						
評 価 機 会	知		①	②			総 括 的 評 価	
	技							
	思				①	①		
	態			①		①		

3 単元の評価規準

	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知 ①	「体ほぐしの運動」には、「心と体の関係や心身の状態に気付く」、「仲間と積極的に関わら合う」というねらいに応じた行い方があることを、言ったり書き出したりしている。	「体ほぐしの運動」には、「心と体の関係や心身の状態に気付く」、「仲間と積極的に関わら合う」というねらいに応じた行い方があることを、 具体的に 言ったり書き出したりしている。	 (学習カード)
知 ②	体づくり運動の意義には、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高める意義があることを、言ったり書き出したりしている。	体づくり運動の意義には、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高める意義があることを、 具体的に 言ったり書き出したりしている。	 (学習カード)
思 ①	体力の程度や性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための運動を見付け、仲間に伝えている。	体力の程度や性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための運動を 複数 見付け、仲間に伝えている。	 (学習カード・様相観察)
態 ①	仲間の補助をしたり助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。	単元を通して 仲間の補助をしたり助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。	 (学習カード・様相観察)

4 指導機会(○)と評価機会(●)の実際

(1) 知識①『『体ほぐしの運動』には、『心と体の関係や心身の状態に気付く』、『仲間と積極的に関わり合う』というねらいに応じた行い方があることを、言ったり書き出ししたりしている。』について

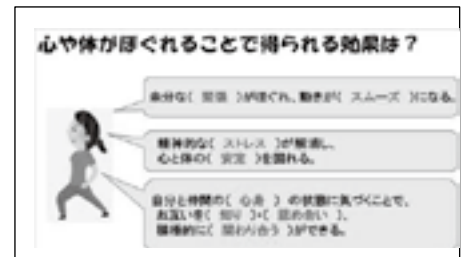
○指導機会(第2時)

導入段階において、小学校の体づくり運動の授業を振り返り、体を動かすことのよさについて全体で意見を出し合った。

展開段階において、個人やペアでのストレッチ、ルールを工夫した鬼ごっこを実施し、生徒の意見を基に、心と体の関係性や、仲間との関わりについて、パワーポイントを活用して理解できるようにした【資料1】。

●評価機会(第2時)

終末段階において、展開時で実施したストレッチ、鬼ごっこをした時の心と体について、全体で交流する時間を設定した。その時の発言内容等の様相観察と、学習カードの記述内容から見取った【資料2】。



【資料1 提示したパワーポイント】

目 録	心と体の関係性	「心と体の関係性」について話し合おう。
	鬼ごっこ	「鬼ごっこ」を通して、心と体の関係性について話し合おう。

【資料2 学習カード】

(2) 知識②「体づくり運動の意義には、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高める意義があることを言ったり書き出ししたりしている。」について

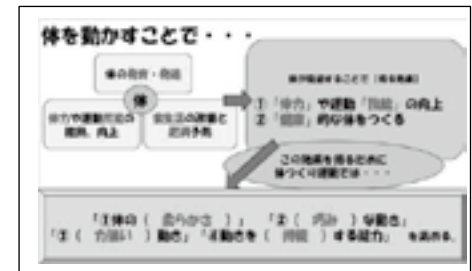
○指導機会(第3時)

導入段階において、「体を動かすことで得られる効果」を考え、体づくり運動において学習する「体の柔らかさ」、「巧みな動き」、「力強い動き」、「動きを持続する能力」の重要性についてパワーポイントを活用して理解できるようにした【資料3】。

また、運動を通して、体づくり運動における4つの意義を理解できるようにするために、展開段階において、20秒間の各項目の運動を実施し、終末段階で体を動かしたことで得られた効果等を振り返る場を設定した。

●評価機会(第3時)

終末段階において、展開時で実施した各運動の効果について全体で交流する時間を設定し、交流した内容を基に記述した学習カードの記述内容から見取った【資料4】。



【資料3 提示したパワーポイント】

目 録	体づくり運動の意義	「体づくり運動の意義」について話し合おう。
	鬼ごっこ	「鬼ごっこ」を通して、体づくり運動の意義について話し合おう。

【資料4 学習カード】

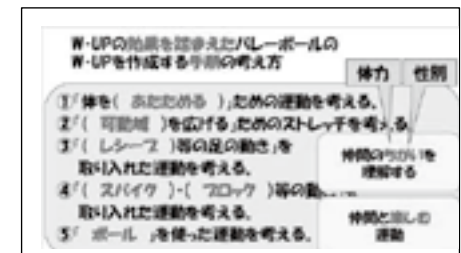
(3) 思考・判断・表現①「体力の程度や性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための運動を見付け、仲間に伝えている」について

○指導機会(第5・6時)

第5・6時では、前時までに学習した内容を踏まえ、バレーボールのW-UPを考える授業を実施した。導入段階において、W-UPの効果と体を動かすことの良さも踏まえ、「友だちとの体力や動きなどの違いを踏まえた、仲間と楽しむことができる運動は何か」について考えを出し合い、共有し、W-UPを作成した。

●評価機会(第5・6時)

展開段階において、グループで「違いを理解する」、「仲間と楽しむ」をポイント提示し【資料5】、グループ活動をしている発言内容等の様相観察と、学習カードの記述内容から見取った。



【資料5 グループ活動時のルール】

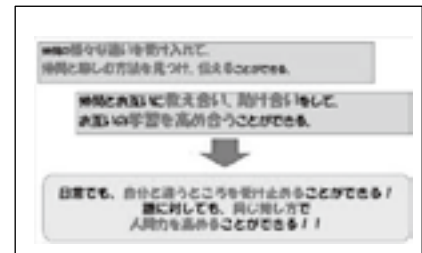
(4) 主体的に学習に取り組む態度①「仲間の補助をしたり助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。」について

○指導機会（第1時）

体づくり運動のオリエンテーションをする際に、「仲間の学習を援助しようとする良さ」について説明し、どのような行動をとることがよいか全体で交流し、具体的な行動例を示し、理解できるようにした【資料6】。

●評価機会（第6時）

展開段階において、グループでW-UPを作成している際に、「違いを理解する」ことについて、ポイントを基に、運動後のグループ内でのフィードバックの発言内容や、運動中の声かけ等の様相観察と学習カードの記述内容から見取った。



【資料6 提示したパワーポイント】

5 C（努力を要する）の児童・生徒に対する支援について

第5時において、学習カードの記述内容から、仲間と楽しむための運動を見付けることができなかった生徒に対し支援を行った。グループ内で実施した運動内容を自分の中で「楽しいと思えた理由」、「楽しくないと思った理由」を明確にし、その中に共通している「運動強度」、「運動時間」の実施内容の改善点を一緒に考え、整理するように促した【資料7】。第6時において学習カードの記述内容を評価したところ、グループ内の体力や能力の違いを理解し、仲間と楽しむための運動を見付け、グループのメンバーに伝えることができていた。



【資料7 改善点を共に考える様子】

6 成果と課題

(1) 成果

評価規準を明確にし、小学校から高等学校の系統性を考えることで、単元内で身に付けさせるべき資質・能力を重点的に指導することができた。また、「指導した内容をいつ評価するか」、計画を立てることで、「指導と評価の一体化」を意識しながら授業に取り組むことができた。

(2) 課題

評価規準を作成し、授業内容をイメージして取り組むことができたが、様相観察に関しては、1単位時間内の「どの場面で」、「どのような発言を」見取るか、生徒の実態を事前に把握しておく必要がある。

実践後の感想

指導内容を精選し、評価規準を明確にすることで、1単位時間内に指導する内容を整理し、授業を実施することができた。また、指導と評価の機会を設定することで、ねらいを明確にし、ゆとりをもって実践することができた。

校種・実施学年	中学校	第3学年
単元等	A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に生かす運動の計画	

1 単元の指導目標

知運	体ほぐしの運動・実生活に生かす運動の計画を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解し、手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気づき、仲間と自主的に関わることができるようにし、ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むことができるようにする。
思判表	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができるようにする。
学び	話し合いに参加しようとすることができるようにする。

2 単元の指導と評価の計画

授業実施数	1	2	3	4	5	6	7	
学 習 過 程	5	オリエンテーション (態①) 協力	出欠点呼・めあての確認を行う					
	10	めあてを確認する	体ほぐし運動に取り組む ・ストレッチ ・ボール操作 ・リズムトレーニング	実生活に生かす運動の計画をする② 【エキスパート活動】 ・柔らかさ ・巧みな動き ・力強い動き ・動きを持続	実生活に生かす運動の計画をする③ 【ジグソー活動】 (思①) 課題解決	実生活に生かす運動の計画をする④ 【クロストーク活動】 (態①) 協力	実生活に生かす運動の計画を発表する	
	15							
	20	1・2年時を振り返る 【体ほぐしの運動】 ・ステップ ・ペアストレッチ ・鬼ごっこ 【体の動きを高める運動】 ・ボール操作 ・腕立て ・馬とび	実生活に生かす運動の計画をする① 【4つの視点の運動】 ・柔らかさ ・巧みな動き ・力強い動き ・動きを持続 (知①) 実生活で運動を継続する方法	(知②) 運動の原則	(思①) 課題解決	(態①) 協力	実生活に生かす運動の計画を発表する	
	25							
	30							
	35							
	40							
	45	本時の振り返り・次時の活動の確認を行う						
	50	自己の運動計画づくりと本単元の振り返り						
評 価 機 会	知	①	①	②			総 括 的 評 価	
	技							
	思				①			
	態	①				①		

3 単元の評価規準

	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知 ①	運動を計画して行う際は、どのようなねらいをもつ運動か、偏りがいないか、自分に合っているかなどの運動の原則があることについて、言ったり書き出したりしている。	運動を計画して行う際は、どのようなねらいをもつ運動か、偏りがいないか、自分に合っているかなどの運動の原則があることについて、 具体的に 言ったり書き出したりしている。	 (学習カード)
知 ②	実生活で運動を継続するには、行いやすいこと、無理のない計画であることなどが大切であることについて、言ったり書き出したりしている。	実生活で運動を継続するには、行いやすいこと、無理のない計画であることなどが大切であることについて、 具体的に 言ったり書き出したりしている。	 (学習カード)
思 ①	課題を解決するために仲間と話し合う場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えている。	課題を解決するために仲間と話し合う場面で、合意形成するための関わり方を見付け、 分かりやすく 仲間に伝えている。	 (様相観察・学習カード)
態 ①	仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い教え合おうとしている。	継続的に 仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い教え合おうとしている。	 (様相観察・学習カード)

4 指導機会(○)と評価機会(●)の実際

(1) 知識①「運動を計画して行う際は、どのようなねらいをもつ運動か、偏りがいないか、自分に合っているかなどの運動の原則があることについて、言ったり書き出したりしている。」について

○指導機会(第2時)

第2時では、緊張・脱力の動きやリズムに乗ることを通して、運動のよさを実感できるようにリズムトレーニングを中心に運動を行った。リズムの感度をあげることと筋収縮のタイミングをよくすること、また、自他の課題解決のために運動を計画できるようになるために、いろいろな種類のステップやターンなど、みんなで同じ動きを行うようにした。また、チームの課題に応じてアレンジを加え、工夫しながら活動できるようにした。

○指導機会(第3時)

第3時では、トレーニングプログラムを考える際、運動のねらいや自分の目標や体力に合っているかに気付くことができるように考えながら活動を行った【資料1】。「体の柔らかさを高める運動」、「巧みな動きを高める運動」、「力強い動きを高める運動」、「動きを持続する能力を高める運動」の運動例を全体で行った。



【資料1 トレーニングプログラム作成の様子】

●評価機会(第2・3時)

第2時では、各チーム運動の意義を理解して、リズムトレーニングを考えているかを様相観察した。第3時では、ポートフォリオで運動のねらいについてや自分の目標や体力に合っているのかなどの記述内容から見取った。

(2) 思考・判断・表現①「課題を解決するために仲間と話し合う場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えている。」について

○指導機会(第5時)

第5時では、エキスパート活動で学習した内容を、ジグソー学習でチームに戻って説明した。自分や仲間と考えたことについて、ポイントを抑えてチームに説明して理解を深めた。その際、相手を配慮して伝えたり否定せずに受け入れたりしてトレーニングプログラムを作成するように説明した。その際、仲間と教え合ったり、助け合ったりしながら運動を行った。



【資料2 ジグソー学習でチームに説明している様子】

●評価機会(第5時)

第5時では、第4時のエキスパート活動の内容をチームのメンバーへ説明している場面の様相観察を行った。生徒は相手へ分かりやすいようにジェスチャーを交えた表現を行っていた【資料2】。併せて、振り返りの記述から、仲間の説明を聞いたり自分が説明したりする時に考えたことを見取った。

(3) 主体的に学習に取り組む態度①「仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い教え合おうとしている。」について

○指導機会(第1時)

第1時では、「体力アップシート」を基に、自分の体力のどこに課題があるか確認し、同じ目標をもった生徒がいるようにチーム構成を行った。運動を行う際、相手の心の変化や動きをよく見て課題を伝え合うことが課題の解決に向けて大切であることを説明し、共有した。また、運動のねらいについて、それぞれの運動を実際に行いながら理解できるようにした。

○指導機会（第6時）

第6時では、クロストークとして、前回立てたトレーニングプログラムを実際に行った【資料3】。その際、ペアと協力しながらアドバイスを掛け合うなど、助け合うことでよりよい実践につながるについて説明した。

●評価機会（第6時）

第1時では、ペアで運動する場面をたくさん設け、その時の発言内容を様相観察し、評価の参考にした。第6時では、トレーニングプログラムを実践している様子から、自分や仲間の目標に沿って、お互いにアドバイスしながら協力して運動しているかどうか様相観察し、主体的な取り組みが見られた場合には記録をつけた。併せて、授業後のGoogle スプレッドシートのポートフォリオの記述から見取った【資料4】。

項目	内容
様相観察	...
評価	...
ポートフォリオ	...

【資料4 Google スプレッドシートのポートフォリオ資料】

時間	活動	様子・経過・結果
0:00
0:30
1:00
1:30
2:00

【資料3 トレーニングプログラム】

5 C（努力を要する）の児童・生徒に対する支援について

本単元では様々な運動においてゲーム性を重視しながら取り組んだため、比較的、自主的態度に対する自己評価の高い生徒が多かった。しかし、ポートフォリオの記述内容に関しては、自分の考えをまとめて記述できていなかった。そのため、ポートフォリオの作成をチームで行うようにし、チームの仲間が考えた記述内容を参考できるようにした。また、トレーニングプログラムや運動の計画を立てる場合にもチームで考えたり、同じねらいの仲間とグループを組んだりして作成するようにしたことで、自分の考えを文章や言葉で表現することができるように支援を行った。

6 成果と課題

(1) 成果

評価規準を決めておくことで、様相観察やロイロノートで見取る際に、見取りのポイントが明確になり、自信を持って生徒の学習状況に対して評価を行うことができた。また、評価したことで明確になった課題点を意識し、発問や声かけなどの支援も行うことができ、授業の充実を図ることができた。

(2) 課題

振り返りの視点が毎回異なったため、生徒が授業の感想のみで終わらないように工夫する必要がある。生徒の振り返りが学びの積み重ねとなるように、ポートフォリオを改善していく必要がある。

実践後の感想

評価規準や授業のねらいを常に明確にすることで、授業中、生徒が今何をしているのか明確になり、活動が充実したものとなった。また、見取るポイントが明確なので、生徒の成長に気付き、タイミングよく言葉かけができた。評価をする際は自信を持って行うことができたので、今後も指導と評価の一体化を意識していきたい。

校種・実施学年	中学校	第2学年
単元等	E 球技 イ ネット型「バドミントン」	

1 単元指導目標

知技	バドミントンの勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、特性や成り立ち、技術の名称や行い方について理解するとともに、シャトルや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。
思判表	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組みを工夫することができるようにする。
学び	バドミントンに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとすることができるようになる。

2 単元の指導と評価の計画

授業実施数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
学 習 過 程	5	オリエンテーション 出席確認・主運動につながる準備運動を行う									
	10										
	15										
	20										
	25										
	30										
	35										
	40										
	45										
	50	本時の振り返りを行う									
評 価 機 会	知		②		①						総 括 的 評 価
	技			①			①	②			
	思				①				②		
	態	①				①			①	②	

3 単元の評価規準

	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知 ①	技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、書き出している。	技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、 複数 書き出している。	 (学習カード)
知 ②	ハイクリアを打つためのポイントについて、局面(準備、主要、終末)を書き出している。	ハイクリアを打つためのポイントについて、 3つの 局面(準備、主要、終末)を書き出している。	 (学習カード)
技 ①	シャトルを相手コート の空いた場所 やねらった場所に打ち返すことができる。	シャトルを相手コート の空いた場所 やねらった場所に 高い打点 から打ち返すことができる。	 (様相観察)
技 ②	ラリーの中で、シャトルを打ち返した後、定位置に戻ることができる。	ラリーの中で、シャトルを打ち返した後、定位置に戻り 準備姿勢 をとることができる。	 (様相観察)
思 ①	技術的な課題についての課題解決に有効な知識を収集し、調べたことを伝えている。	技術的な課題についての課題解決に有効な知識を収集し、調べたことを 具体的 に伝えている。	 (学習カード)
思 ②	体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付け、伝えている。	体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための活動の方法や修正の仕方を バドミントンの特性 を基に見付け、伝えている。	 (学習カード)
態 ①	バドミントンの学習に積極的に取り組もうとしている。	単元を通して バドミントンの学習に積極的に取り組もうとしている。	 (学習カード)
態 ②	仲間に助言して、学習を援助しようとしている。	仲間に 具体的 に助言して、学習を援助しようとしている。	 (様相観察・学習カード)

4 指導機会(○)と評価機会(●)の実際

(1) 知識①「技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、書き出している。」について

○指導機会(第1時)

第1時では、バドミントンの名称や特性を理解することができるようにオリエンテーションを行った。特に名称については、単元内にテストを行うことを伝え、授業で役立つバドミントン専門用語について、確実に覚えていくように注意を促した。

オリエンテーションに引き続き、モデル動画を視聴する場を設定した。世界大会で繰り広げられるラリーの映像から、スピード感や巧みなラケットさばき、元の場所に戻るなどの相手と駆け引きをして、空いた空間を巡る攻防ができることについて、理解ができるようにした。

●評価機会(第4時)

オリエンテーションで確認したバドミントンに関わる名称について、第2時～4時の学習で実践した後、ロイロノートを使ってテストを行い見取った【資料1】。



【資料1 名称のテスト】

(2) 技能①「シャトルを相手コートの空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。」について

○指導機会(第3時)

シャトルの打ち方について、複数説明し、必ずしも単元が終わるまでに全ての打ち方を習得する必要はないことを確認した。その上で、コートの広さについて説明し、相手コートの空いている空間をねらってシャトルを打つことができれば、打ち方を複数取得できていなくても、十分にラリーの駆け引きを楽しみ、得点もできることを伝えた。

●評価機会(第6時)

評価はシングルスラリーの様相観察で見取った。空いた空間を使ったラリーができていないか観察するためにスペースがより作りやすいシングルスでのラリーを行った。空いた空間に打ち込んで得点したり、空いた空間を狙ったラリーを続けながら、最終的に得点に結びつけるプレーができていないかを見取った【資料2】。

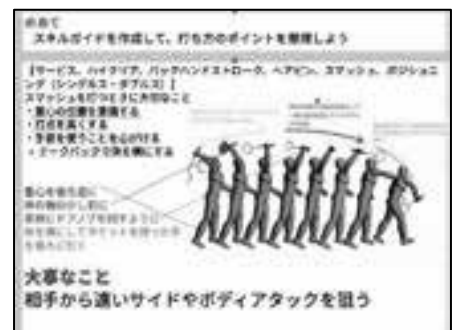


【資料2 シングスの様子】

(3) 思考・判断・表現①「技術的な課題についての課題解決に有効な知識を収集し、調べたことを伝えている。」について

○指導機会(第4時)

空いた場所をめぐる攻防ができるように、ラリーに必要な技術について、調べ学習を行った。活動は基本的に6人のグループで行っており、グループ内で、①サービス、②ハイクリア、③バックハンドストローク、④ヘアピン、⑤スマッシュ、⑥ポジショニング(シングルス・ダブルス)の中から、1つずつ分担して調べ学習をした。調べる時間の効率化を図るため、グループを超えて、調べる対象が同一の生徒同士で集まり、タブレットを使って、スキルガイドという名称で成果物を作成した。同じ技術を調べる生徒同士で、検索する、入力する、レイアウトを考えるなどといった役割を自分で割り振りながら、1単位時間の活動で完成することができた【資料3】。



【資料3 作成したスキルガイド】

●評価機会(第5時)

作成はロイロノートで行った。担当する技術についてのポイントに加えて、その技術を身に付けるための練習方法も調べることができているか見取った。

(4) 主体的に学習に取り組む態度①「バドミントンの学習に積極的に取り組もうとしている。」について

○指導機会（第1時）

本年度は振り返りについて重点的に取り組んだ。年度当初のオリエンテーションで、授業の振り返りでは、学習内容と自身の変容について記述することで、新たな疑問や身に付けたい技能が生まれたり、次時以降の学びにつなげたりすることができることを確認した。本單元においても、再確認の意味も踏まえて、振り返りの重要性について確認した。

●評価機会（第8時）

それぞれの課題を解決するために、調べ学習で作成したスキルガイドを見ながらグループで練習する場を設定した。練習後の振り返りで、自己の課題を克服するための工夫を修正しようとする記述について見取った【資料4】。

めあて
チームで練習をして、レベルアップしよう。

【今日の活動の振り返り】
（あなたは今日の学習でどのような活動をしましたか、練習内容、練習相手の組み合わせ、受ったもの、知ったこと、できたこと、疑問に思ったこと、これまでの変化、今後の課題、快不快等）

- ・左右を使って相手とラリーをしたり、ヘアピンを使ってラリーをしたりしました。ペアの人が左右を使うのがとても上手でなかなか打ち返せなかったです。
- ・ラリーを何度も続けました。
- ・バドミントンのシングルは、基本真ん中にあることがわかったので、次の授業からは、次に相手がどう動くかを見るのではなく、自分の位置が動いたらすぐに真ん中に戻るようにしたいです。

【資料4 練習後の振り返り】

5 C（努力を要する）の児童・生徒に対する支援について

第6～8時におけるグループ練習やラリー間の活動で、周囲の仲間との交流のきっかけづくりができず、助言をしたり、助言を受けたりすることができていない生徒に対して支援を行った。習熟度の高い生徒に対して「バックハンドがうまくできているね、どうやって打っているの」と問い、掴んでいるコツの言語化を促し、「〇〇さん（バックハンドに苦手意識をもっている生徒）のバックハンドはどうか」と協力する意識がもてるようにして、交流のきっかけづくりをした。また、そのことよさについての記述が振り返りの中に含まれていた場合には、まとめの際に全体にフィードバックした。

6 成果と課題

(1) 成果

指導と評価の計画及び評価規準について、イメージをもって授業づくりをしているが、実際に作成することで、より計画的に1単位時間の授業を行うことができた。また、評価規準の表現を変えて、単元の目標としたことで、自身の指導内容も明確になり、生徒も目的意識をもって活動することができた。

(2) 課題

技能の様相観察を行う際、1単位時間内で見取りを行うことが難しい場面があった。技能の様相観察は複数回の見取りを計画していきたい。単元の途中で、生徒の学習状況をしっかり把握しながら、評価規準を再考することで、より生徒の実態に応じた指導が可能であると感じた。

実践後の感想



指導と評価の計画と評価規準のモデルを学校で統一して作成し、実践することで指導と評価の一体化の実現に大きく近づけることができると考える。また、その経験を基にして、教員それぞれの授業ノウハウを導入していくことで、生徒の資質・能力を育成できる授業づくりができると感じた。



校種・実施学年	中学校	第3学年
単元等	E 球技 ア ゴール型「バスケットボール」	








1 単元指導目標

知技	バスケットボールの勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方について理解しているとともに、安定したボール操作と空間を出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにする。
思判表	攻防などの自他の課題を発見し、合理的な解決に向けての運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学び	バスケットボールに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすることができるようにする。

2 単元の指導と評価の計画

授業実施数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
学習過程	5	オリエンテーション 出席確認・主運動につながる準備運動を行う													
	10	目標設定													
	15	(態①) 愛好的態度 (態②) 協力	オフenseの局面練習をする	個人技能の練習をする ・ペア学習 ・グループ学習 ・動作分析 ・局面練習	グループ技能の練習をする ・グループ学習 ・動作分析 ・局面練習	リーグ戦をする									
	20						調べ学習をする ・フィードバックシート作成	ディフェンスの局面練習をする	(技①) 操作 (技②) 守備	(思②) 役割					
	25	準備運動をする	(知①) 名称や行い方	運動課題を把握する (思①) 課題解決	振り返りを行う ・相互評価	学習のまとめ、単元の振り返りを行う									
	30	試しのゲームをする													
	35														
	40														
	45														
	50														
評価機会	知	①													総括的評価
	技					①		②		①②					
	思				①						②				
	態	①							①				②		

3 単元の評価規準

	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知 ①	シュートを打つためのポイントについて、局面(準備、主要、終末)を書き出している。	シュートを打つためのポイントについて、 3つ の局面(準備、主要、終末)を書き出している。	 (学習カード)
技 ①	パスを出した後に、次のパスを受ける動きをすることができる。	パスを出した後に、次のパスを受ける動きを 安定して することができる。	 (様相観察)
技 ②	ゴールとボール保持者を結んだ直線上で守ることができる。	ゴールとボール保持者を結んだ直線上で守ることが 安定して できる。	 (様相観察)
思 ①	オフェンスかディフェンスについて、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。	オフェンスとディフェンスの 両方 について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。	 (学習カード)
思 ②	チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて、自己の活動を振り返ることができる。	チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて、自己の活動を 具体的に 振り返ることができる。	 (学習カード)
態 ①	バスケットボールの学習に積極的に取り組もうとしている。	単元を通して バスケットボールの学習に積極的に取り組もうとしている。	 (学習カード)
態 ②	仲間に助言して、学習を援助しようとしている。	仲間に 具体的に 助言して、学習を援助しようとしている。	 (様相観察・学習カード)

4 指導機会(○)と評価機会(●)の実際

(1) 知識①「シュートを打つためのポイントについて、局面(準備、主要、終末)を書き出している。」について

○指導機会(第2時)

第1時では、バスケットボールの名称や特性を理解することができるように、オリエンテーションにてモデル動画を活用して説明を行った。担当する学年の生徒は、これまでも動作の部分的な技術を知るためにフィードバックシート(以下FBシート)と名付けているプリントに局面ごとのポイントをもとめる活動を行ってきており、本単元においてもシュートについて、FBシートを作成する場を設定した。FBシートはロイロノートを使用して作成し、自身の連続写真を添付することで、現状分析がしやすいようにした。

●評価機会(第2時)

授業で作成したFBシートに準備局面、主要局面、終末局面の3局面について、ポイントを記述できているか見取った【資料1】。



【資料1 FBシート】

(2) 技能①「パスを出した後に、次のパスを受ける動きをすることができる。」

技能②「ゴールとボール保持者を結んだ直線上で守ることができる。」について

○指導機会(第5～8時)

本活動では、オリエンテーションの後にショートゲーム(運動の試行)を行い、チームの現状(集団技能)の課題を感じることで、チームとしての連携や技能を向上させるには個人の技能向上が必要であることに気付くことができるように工夫した。その際、パスをスムーズにつなげるとよりチームとして連携できることについて助言した。練習の場として、まず、個人技能の練習の場を設定し、目標を立て、FBシートを活用しながら練習と動作分析、相互評価を行いながら、技能の向上を図った。また、集団技能についても、個人技能の練習と同じ流れで、練習と映像を使った動作分析、相互評価を繰り返してできるように授業を展開した。映像や実際の局面練習を途中で教員が止めながら、スペースの工夫について助言したり、活動を重ねたりすることで生徒からの助言が行われるようになり、攻守における空間を意識した攻防が展開できるようにした。



【資料2 グループでの局面練習の様子】

●評価機会(第9～11時)

評価は、グループ間でそれぞれの課題解決に向けて目標をもってオフェンスとディフェンスの局面練習を行う第9～11時に行った。攻守それぞれの技能が身に付いてきた中で、オフェンスにおいては、仲間の進路に合わせてパスを出した後にさらにパスを受けようと動いたり、ディフェンスの隙をつき空間に走り込んだりする姿を見取った。ディフェンスにおいては、マンツーマンで守る際に、ボール保持者に対して徹底的にパスや前進を防ごうとしているときに、ゴールとボール保持者の直線上で結んだ位置で守ることができているか見取った。また、局面練習の様相観察で見取りを行い、単元最後のリーグ戦でも見取った【資料2】。

(3) 思考・判断・表現①「オフェンスとディフェンスについて、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。」について

○指導機会(第4時)

第4時は、グルーピングをしたばかりのチーム同士で攻防の時間を短くしたゲームや、一方のチームがオフェンスをし終われば終了と行った局面に焦点化したミニゲームを行い、上手いかわない現状の分析から課題を明確にできるようにした。その際に、前時まで学習したシュートをうまく打つことができないのは、パスをつないだり、空間に動いたりした展開ができていない点が課題であること



【資料3 ミニゲーム後の振り返り】

に気付くことができるように助言した。また、相手を守ることについても助言し、今後の課題解決活動につなげられるように工夫した。

●評価機会（第4時）

ミニゲームを通して攻防における自己やチームの課題を見つけることができているか、活動後の振り返りを入力するプリントから見取った。あらかじめオフェンスとディフェンスの枠を設けておき、複数の視点から振り返りを行い、課題を把握しやすいように工夫した【資料3】。

(4) 主体的に学習に取り組む態度②「仲間に助言して、学習を援助しようとしている。」について

○指導機会（第1時）

オリエンテーションで互いの協力姿勢の重要性をチームワークという言葉を使って説明した。また、調べ学習で学んだことや各授業で学んだことを仲間に助言することは、アウトプットとなり、自分自身への好循環となることを説明した。さらに、空間を使った攻防に関して説明する際はコート上の位置について言及することが多くなると予想されたため、コート図付きのホワイトボードを各チーム分準備した。



【資料4 仲間に助言する様子】

●評価機会（第12時）

仲間の学習支援の様相観察をリーグ戦の際に実施した。これまで身に付けてきた知識や技能を活用して試合に臨み、上手いかないことや自他の改善点をゲーム間で出し合うことができるようにショートミーティングの場を設定した。準備していたコート図付きのホワイトボードが十分に活用され、動き方やマークの仕方などについて、助言している様子を見取った【資料4】。

5 C（努力を要する）の児童・生徒に対する支援について

新たな課題の設定や本時活動の個人・チームとしての振り返りを入力する際に、具体的な現状把握や改善方途の検討が進まない生徒やグループに対して、巡回しながら助言を行うようにした【資料5】。また、授業の導入（前時の復習）やまとめ（本時の振り返り）の際に生徒の様相や記述について紹介し、Cの生徒が参考にできるように工夫した。



【資料5 巡回と助言の様子】

6 成果と課題

(1) 成果

単元の計画の段階で、生徒の思考を言語化する機会を増やために、ロイロノートでのプリント学習を行うように単元を構成した。実際に、「分析→練習→相互評価→活動の振り返り」のサイクルで学習を進めることができたので、生徒は戸惑わずに気づいたことや考えたことについて学習することができていた。

(2) 課題

各観点の評価規準についてより明確にすることで、授業者の主観によって差異が生じないように改善したい。本校のように一つの学年の授業を複数の教員で分担する学校規模の場合は評価規準の具体についての共有が必要であると感じた。

実践後の感想



授業者の授業づくりが未熟な段階では、「評価の充実」と「運動量の確保」が相反する状況が生まれるように感じた。授業づくりが上達するということは、ねらいが明確で教員と生徒が見通しをもち、曖昧さのない目標に向かって夢中になれる活動の場をつくることのできることを意味するのではないかと考えた。評価のためだけの記述ではなく、記述をとおして思考と活動が往還するような充実した授業を目指したい。



校種・実施学年	中学校	第1学年
単元等	F 武道 イ 剣道	

1 単元の指導目標

知技	技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方などを理解するとともに相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、打つなどの簡易な攻防をすることができるようにする。
思判表	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学び	相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすることができるようにする。

2 単元の指導と評価の計画

授業実施数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
学習過程	5	準備運動・防具の装着を行う								
	10	オリエンテーション・成り立ち(態①)公正	基本動作の練習をする ・構え ・送り足 ・素振り 面、小手、胴 ・発声	基本的な打突練習 【気・剣・体の一致と残心】 (思①)協力 (技②)基本動作・基本技	スキルウォームアップ(シンクロナイズドケンドウ)					
	15				相手の動きに対応した歩み足・送り足について課題を解決する (技①)基本動作	基本的な打突の仕方について課題を解決する 【気・剣・体の一致と残心】 (技②)基本動作・基本技 (思②)課題解決	簡易的な攻防をする ・体さばき ・基本技			
	20	礼法・防具の装着方法の練習をする (知①)伝統的な考え方	(知②)名称や行い方 (技②)基本動作・基本技	相手の動きに応じた歩み足・送り足の練習をする 【シンクロナイズドケンドウ】 (技①)基本動作						
	25				相手の動きに対応した歩み足・送り足の練習をする 【シンクロナイズドケンドウ】 (技①)基本動作	基本動作				
	30	相手の動きに対応した歩み足・送り足の練習をする 【シンクロナイズドケンドウ】 (技①)基本動作	基本動作							
	35			相手の動きに対応した歩み足・送り足の練習をする 【シンクロナイズドケンドウ】 (技①)基本動作	基本動作					
	40	相手の動きに対応した歩み足・送り足の練習をする 【シンクロナイズドケンドウ】 (技①)基本動作	基本動作							
	45			相手の動きに対応した歩み足・送り足の練習をする 【シンクロナイズドケンドウ】 (技①)基本動作	基本動作					
	50	相手の動きに対応した歩み足・送り足の練習をする 【シンクロナイズドケンドウ】 (技①)基本動作	基本動作							
	本時の振り返り・時事の確認を行う									
評価機会	知	①	②							総括的評価
	技					①	①		②	
	思			①				②		
	態				①					

3 単元の評価規準

	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知 ①	武道には技能の習得を通して、人間形成を図るとい う伝統的な考え方があるこ とを、言ったり書き出した りしている。	武道には技能の習得を通して、 人間形成を図るとい う伝統的な考 え方があることを、 具体的に 言っ たり書き出した りしている。	 (学習カード)
知 ②	武道の技には名称があ り、それぞれの技を身に付 けるための技術的なポ イントがあることを、言 ったり書き出した りしている。	武道の技には名称があり、それ ぞれの技を身に付けるための技術 的なポイントがあることを、 具 体的に 言っ たり書き出した りしている。	 (学習カード)
技 ①	【基本動作】体さばきで は、相手の動きに応じて歩 み足や送り足をすることが できる。	【基本動作】体さばきでは、相手 の動きに応じて歩み足や送り足を することが 安定して できる。	 (様相観察)
技 ②	【基本技】基本の打突の 仕方と受け方では、中段の 構えから体さばきを使っ て、面や胴(右)や小手(右) の部位を打つことが できる。	【基本技】基本の打突の仕方と 受け方では、中段の構えから体さ ばきを使って、面や胴(右)や小手 (右)の部位を打つことが 安定し て できる。	 (様相観察)
思 ①	練習の場面で、仲間の伝 統的な所作等のよい取組を 見付け、理由を添えて他者 に伝えている。	練習の場面で、仲間の伝統的な 所作等のよい取組を 複数 見付け、 理由を添えて他者に伝えている。	 (様相観察・学習カード)
思 ②	提示された動きのポ イントやつまずきの事例を参考 に、仲間の課題や出来映え を伝えている。	提示された動きのポイントやつ まずきの事例を参考に、仲間の課 題や出来映えについて 根拠を基 に伝えている。	 (様相観察・学習カード)
態 ①	相手を尊重し、伝統的な 行動の仕方を守ろうとして いる。	単元を通して 相手を尊重し、伝 統的な行動の仕方を守ろうとして いる。	 (様相観察・学習カード)

4 指導機会(○)と評価機会(●)の実際

(1) 技能①「体さばきでは、相手の動きに応じて歩み足や送り足をすることができる」について

○指導機会（第3・4時）

展開段階において、間合い（相手との距離間）のとり方についてのポイントを理解できるように説明した。音楽のリズムに合わせて、一足一刀の間合いを保つために、体さばきの練習時間を設定した【資料1】。

●評価機会（第5・6時）

相手の不規則な動きに対応しながら、一足一刀の間合いを保つことができるかを実技の中で見取った。また、剣先の高さや体さばきが適切に行えているかも見取った。



【資料1 体さばきを確認している様子】

(2) 技能②「基本の打突の仕方と受け方では、中段の構えから体さばきを使って、面や胴や小手の部位を打つことができる」について

○指導機会（第3・4時）

展開段階において、まず竹刀の動かし方や体さばきのポイントを理解できるように、「面、胴、小手」の打突部位を打突することを反復練習した。また、「気剣体の一致」「残心」の重要性についても理解できるように共有した【資料2】。

●評価機会（第7・8時）

展開段階において、一足一刀の間合いから1歩攻め込み、「気剣体の一致」「残心」を意識して打突部位を正確に打突できているかを見取った。また、面に関しては防具を着用していないため、打突の強さや正確さについて考慮した。



【資料2 基本の打突を練習している様子】

(3) 思考②「提示された動きのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている」について

○指導機会（第7時）

基本の打突の仕方と受け方について、「中段の構えから体さばきを使って、面や胴や小手の部位を打つこと」について、相手の所作や打ち方、体さばきの撮影を行った。撮影した動画を基に、動きのポイントやつまづきについて、仲間と出来栄を伝え合う場を設定した。タブレットを活用して動きのポイントを提示し、それを参考に仲間の課題や出来栄を伝えることを共有した【資料3】。

●評価機会（第7時）

撮影した動画を見ながら相手の良いところやつまづいている点を伝えることができているか見取った。

また、「声が大きくて良かった」などの感想ではなく、「道場いっぱい響きわたるくらい声が出ていて、残心をするまで声が伸びていて良かった」など技の出来栄について具体的に伝えているか見取った【資料4】。



【資料3 相手の打突を観察している様子】



【資料4 出来栄を伝えている様子】

(4) 態度①「相手を尊重して、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている」について

○指導機会（第1時）

導入段階において、剣道をはじめとする武道についての伝統的な考え方や文化、所作や礼法の意義についてタブレットを活用して学習した。また、伝統的な所作である座り方や立ち方、礼法の仕方などを練習する時間を設定した【資料5】。



●評価機会（第4時）

展開段階において、相手と相対した際の礼法を見取った。相手を尊重しながら提げ刀や帯刀の意味を理解して正しく行っているのか確認した。また、蹲踞の際に間合いが近づきすぎないように一足一刀の間合いを意識しているか見取った。

【資料5 蹲踞をしている様子】

5 C（努力を要する）の児童・生徒に対する支援について

剣道では、非日常的な動きが多いため、反復学習と交流活動の時間を確保することで行い方の理解を支援した。反復学習では、基本動作の動画を用いた準備運動を行ったり、4拍子のリズム（音楽）を活用したりすることで、動きの感覚を身に付けることができるようにした。次に交流活動では、互いに動画を撮ったり、アドバイスの時間を確保したりすることで、自己の動作を視覚的に捉えることができるようにした。その中でも、基本打ちの練習で体さばきがうまくできない生徒には、動き方の支援だけでなく、何故そのように動かなければならないのか（根拠）や武道特有の動き方の意義を合わせて指導し、動きの特性を理解しながら練習できるように支援を行った。

6 成果と課題

(1) 成果

指導と評価の計画を作成することで、見通しをもって授業展開ができた。また、事前に学習内容の詳細を計画することで、生徒の実態に合った教具の準備ができた。その結果、簡易の竹刀を用いて「痛さ・怖さ」を軽減し、相手を尊重しながら打突することができた。さらに、4拍子のリズムを活用して体さばきや基本打ちの練習をすることで、生徒が楽しく学習に取り組む姿が多くみられた。

(2) 課題

指導と評価の計画を作成することで、学習内容とそれに合った教具の充実は図ることができたが、安全性が十分に確保できなかった。簡易の竹刀を用いることで「痛さ・怖さ」はなくなったが、その反面勢いよく打突してしまう場面があった。指導内容と評価の重点に安全性に関する内容を取り扱わない場合でも、安全性について指導をする場面について計画を図るようにしたい。

実践後の感想

「単元の指導と評価の計画」を作成したことで、授業展開・評価規準・評価機会などの見通しを立てることができ、スムーズに授業を行うことができた。今後も、「指導と評価の計画」を活用してよりよい授業が行えるように準備をしていきたい。

校種・実施学年	中学校	第3学年
単元等	F 武道 イ 剣道	

1 単元の指導目標

知技	剣道について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方を理解するとともに、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩し、しかけるなどの攻防ができるようにする。
思判表	攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学び	相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとするができるようにする。

2 単元の指導と評価の計画

授業実施数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
学習過程	5	準備運動・防具の装着を行う									
	10	オリエンテーション ・成り立ち (態①) 公正	基本動作の練習をする ・構え ・送り足 ・素振り 面、小手、胴 ・発声	基本動作の練習をする ・構え ・送り足 ・素振り (面、小手、胴) ・発声	隙ルウォームアップ (送り足・素振り・基本技)	相手の隙を捉える動きの練習をする (技②) 隙を捉える	相手の隙を捉えるオリジナル技を考える (思②) オリジナル技の課題解決	簡易的な試合による攻防をする	簡易的な試合による攻防をする	簡易的な試合による攻防をする	簡易的な試合による攻防をする
	15										
	20	礼法・防具の装着方法の練習をする (知①) 伝統	(知②) 名称や行い方 (技②) 基本動作・基本技	基本技の打突の練習をする 【気・剣・体の一致と残心】 (思①) 基本技の課題解決	オリジナル技を考案する 【相手の隙を捉える】	攻防の様子を分析する	攻防の様子を分析する	攻防の様子を分析する	攻防の様子を分析する	攻防の様子を分析する	
	25										
	30	本時の振り返り・次時の確認を行う									
	35										
	40	知	①	②							
	45		技			①			②		
	50	思			①			②			
	態				①						
	評価機会									総合的評価	

3 単元の評価規準

	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知 ①	武道を学習することは、自国の文化に誇りをもつことや、国際社会で生きていく上で有意義であることについて、言ったり書き出したりしている。	武道を学習することは、自国の文化に誇りをもつことや、国際社会で生きていく上で有意義であることについて、 具体的に 言ったり書き出したりしている。	 (学習カード)
知 ②	武道には、各種目で用いられる技の名称があることを、言ったり書き出したりしている。	武道には、各種目で用いられる技の名称があることを、 具体的に 言ったり書き出したりしている。	 (学習カード)
技 ①	中段の構えから、気・剣・体・残心の内、2つは満たした状態で、面や小手や胴の部位を打つことができる。	中段の構えから、気・剣・体・残心の内、 3つ以上を満たした状態で 、面や小手や胴の部位を打つことができる。	 (様相観察)
技 ②	相手の構えを崩して打ったり、相手が防御した後に空いた部位を狙って打ったりするなどの、隙を捉えた攻めをすることができる。	相手の構えを崩して打ったり、相手が防御した後に空いた部位を狙って打ったりするなどの、隙を捉えた攻めを 滑らかに することができる。	 (様相観察)
思 ①	分析シートを基に、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、基本技の改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。	分析シートを基に、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、基本技の改善すべきポイントとその理由を 根拠を基に 仲間に伝えている。	 (学習カード)
思 ②	相手の隙を捉えるオリジナル技について、分析シートを基に、良い点や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。	相手の隙を捉えるオリジナル技について、分析シートを基に、良い点や改善すべきポイントとその理由を 根拠を基に 仲間に伝えている。	 (学習カード)
態 ①	相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。	単元を通して 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。	 (様相観察)

4 指導機会(○)と評価機会(●)の実際

(1) 知識①「武道を学習することは、自国の文化に誇りをもつことや、国際社会で生きていく上で有意義であることについて、言ったり書き出したりしている。」について

(2) 知識②「武道(剣道)には、各種目で用いられる技の名称があることを、言ったり書き出したりしている。」について

○指導機会(第1時)

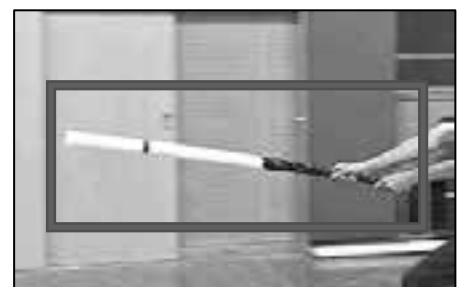
第1時では、剣道の成り立ちや特性についてパワーポイントの資料【資料1】を基に説明を行った。剣道は武士の命のやりとりから発展しているため、剣道では勝ち負けにおいてガッツポーズなどはせず、互いに高め合う仲間として相手に敬意を表することを説明した。相手を尊重する礼の心を実践するために、相手との息を合わせた礼法について繰り返し実践した。



【資料1 提示したパワーポイント】

○指導機会(第2時)

第2時では、剣道の基本的な技として「面・小手・胴」があることを提示した。今回の剣道学習では、竹刀は竹ではなく、発砲スチロール素材の柔らかい簡易的なもの【資料2】、面はフェイスシールドを活用して容易に着脱ができるものとした。本物の防具や竹刀と今回の学習で使用する簡易的な道具を比較しながら説明することで理解できるようにした。



【資料2 発砲スチロール素材の簡易の竹刀】

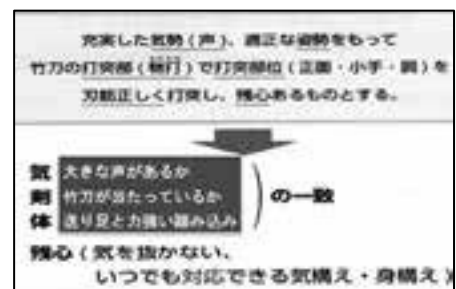
●評価機会(第1・2時)

Google スライドにて事前に剣道の振り返り学習シートを作成し、Google クラウドにて一人一人に配信した。授業における終末段階に、学習したことを振り返る時間を設定した。また、振り返る内容を第1時では「剣道を学ぶ良さとは何か書き表そう」、第2時では、「剣道ではどうすれば得点(一本)が得られるのか書き表そう」と焦点化することで、生徒の記述内容を具体的に引き出し、知識の習得状況の見取りをしやすいように工夫した。

(3) 技能①「中段の構えから、気・剣・体・残心の内、2つは満たした状態で、面や小手や胴の部位を打つことができる。」について

○指導機会(第2時)

第2時において「知識②」の指導内容と関連して、剣道では得点が得られることを一本といい、単に打突部位に当たれば良いのではなく、「気・剣・体」が一致するという剣道ならではの基準があることについて説明した【資料3】。また、例えば「気」であれば、響き渡るような大きな声が出ているか、「体」であれば、バンッと鳴るような力強い踏み込みがあるかなど、それぞれの具体的な内容について明確に示し理解できるようにした。打突練習の際には、「構え→打突→残心」までの一連の流れの構成を1~8のリズムで生徒に分かりやすく簡素化した。



【資料3 提示したパワーポイント】

●評価機会(第4時)

第2時にて一本の条件について学習した後、第3時、第4時ではグループで面打ちをお互いに試し合う活動を行った。練習の様子を様相観察し、技能の習得状況を見取った。

(4) 思考・判断・表現②「相手の隙を捉えるオリジナル技について、分析シートを基に、良い点や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。」について

○指導機会（第7時）

第5時では、試合において相手の隙を捉えて打突する必要性について注目するために、「試合で相手は打たせてくれない。防御してくる相手を仕留めるためにはどんな工夫が必要だろうか」という発問をした。オリジナル技作成シート【資料4】を基に、「私がこうしたら」→「相手はこうなって」→「そこを私はこう打って一本」という隙を捉え打突するまでの流れについて、オリジナル技の作成を行った。第7時では【資料5】のように、グループ内でオリジナル技の撮影を行った。オリジナル分析シート【資料6】を活用し、動画を視聴、分析し、相互に評価を伝え合う活動を仕組んだ。



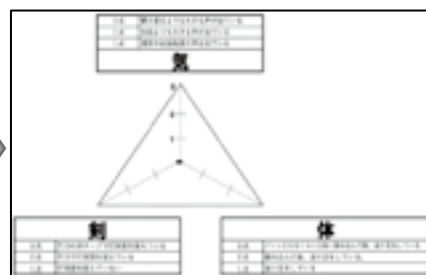
【資料4 オリジナル技作成シート】

●評価機会（第7時）

オリジナル技作成シートの中で、分析結果を基にオリジナル技のどこをどのように改善しているのかについて考えたことを記入できるようにした。分析シートの結果と自己の課題が繋がっているか、改善内容は適切にされているかという視点で見取った。



【資料5 分析活動の様子】



【資料6 オリジナル技の分析シート】

5 C（努力を要する）の児童・生徒に対する支援について

第3時・第4時の実践において、基本打突の習得を目指す中で、自己の課題について把握できていない生徒に対して支援を行った。基本打突の分析シート【資料7】の三角形の点数から、自分の課題はどこにあるのか、ポイントを絞って練習を行うように促した。分析シートは「気・剣・体」それぞれに3段階でレベルを設けており、スモールステップを踏みながらチャレンジをしていくことで、技能の向上が見られた。



【資料7 基本打突の分析シート】

6 成果と課題

(1) 成果

指導と評価の計画を作成することで、指導機会と評価機会に見通しを持つことができスムーズに授業を進めることができた。また、評価規準を明確にすることで、生徒の学習状況を的確に把握することができ、指導と評価の一体化を図ることができた。

(2) 課題

3年生での剣道では、「隙を捉える応じ技」までが学習範囲になっているが、実際にはその前段階、「自分で隙を作り出して打突する」までの指導しかできなかった。高校との系統性も考えた指導計画を図る必要があると感じた。

実践後の感想

指導と評価の計画を作成したり、評価規準に悩んだりと事前の準備は大変であるが、その分授業がスタートする頃には、授業者は生徒のゴール像や単元を通しての目標が明確になっており、スムーズな授業展開が可能になった。



校種・実施学年	高等学校	第1学年
単元等	A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に生かす運動の計画	

1 単元の指導目標

知運	体ほぐし運動・実生活に生かす運動の計画を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の減速などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、仲間と自主的に関わり合い、ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むことができるようにする。
思判表	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができるようにする。
学び	話合いに貢献しようとするようにする。

2 単元の指導と評価の計画

授業実施数	1	2	3	4	5	6	
学習過程	5	オリエンテーション ・学習の進め方を知る (態①) 参画	本時の学習内容の確認を行う				
	10	体ほぐしの運動をする	体ほぐしの運動をする ・心と体のスイッチがオンになるスイッチ・オン・ムーブ ・仲間との信頼関係を築く協力運動 ・ペアで気持ちよく筋肉を伸ばすペア・ストレッチ ・リズムに乗って心が弾むような運動 ・手具を用いて、色々な運動課題に挑戦する運動				
	15						
	20						
	25						
	30		健康に生活するための体力の維持・向上を図る運動の計画を立て、実践する ・日常的に行うことができる効率の良い組合せ ・バランスの良い組合せ (知①) 取り入れ方	運動を行うための調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画と実践する ・種目別のウォーミングアップ ・種目別の補強運動 (知②) 行い方 (思①) 行い方	考えた運動を発表する ・種目別のウォーミングアップ ・種目別の補強運動		
	35						
	40						
	45						
	50	本時の学習内容を振り返る					
評価機会	知		①		②	総合的評価	
	技						
	思				①		
	態		①		①		

3 単元の評価規準

	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知 ①	<p>実生活で運動を継続するには、行いやすいこと、無理のない計画であることなどが大切であることについて、言ったり書き出したりしている。</p>	<p>実生活で運動を継続するには、行いやすいこと、無理のない計画であることなどが大切であることについて、具体的に言ったり書き出したりしている。</p>	 <p>知識①</p> <p>(学習カード)</p>
知 ②	<p>運動を計画して行う際は、どのようなねらいをもつ運動か、偏りがいないか、自分に合っているかなどの運動の原則について、言ったり書き出したりしている。</p>	<p>運動を計画して行う際は、どのようなねらいをもつ運動か、偏りがいないか、自分に合っているかなどの運動の原則について、具体的に言ったり書き出したりしている。</p>	 <p>知識②</p> <p>(学習カード)</p>
思 ①	<p>ねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた、強度、時間、回数、頻度を設定している。</p>	<p>ねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じ、選択した運動種目の特性に合わせた強度、時間、回数、頻度を設定している。</p>	 <p>思考①</p> <p>(学習カード)</p>
態 ①	<p>自己や仲間の課題解決に向けた話合いに貢献しようとしている。</p>	<p>自己や仲間の課題解決に向けた話合いに継続的に貢献しようとしている。</p>	 <p>態度①</p> <p>(様相観察・学習カード)</p>

4 指導機会(○)と評価機会(●)の実際

(1) 知識①「実生活で運動を継続するには、行いやすいこと、無理のない計画であることなどが大切であることについて、言ったり書き出したりしている。」について

○指導機会(第2時)

展開段階において、日常的に行うことができるよう効率の良い組み合わせやバランスの良い組み合わせを考えるためには、いつ、どこで、どのくらいの強さで、週に何回行うかなどを考慮して運動計画を作成することが重要であることを説明し、理解できるようにした。また今回は、「身体の歪み」を解消するためのストレッチや下半身のトレーニング、姿勢のリセット術について、具体的な運動を紹介したうえで、自己の状況に応じた運動計画を作成できるようにした【資料1】。



【資料1 作成のポイントを説明】

●評価機会(第2時)

終末段階の学習の振り返りにおいて、ワークシートの「身体の歪み解消計画を作成する際の自分なりのポイント」の記述から運動を継続できるような視点で書いているか見取った。

(2) 知識②「運動を計画して行う際は、どのようなねらいをもつ運動か、偏りがいないか、自分に合っているかなどの運動の原則について、言ったり書き出したりしている。」について

○指導機会(第4時)

展開段階において、運動の原則や運動の構造、運動を継続する意義について説明した。

これらの知識を活用して、本校が球技の授業で実施している種目における導入でのウォーミングアップ等の運動を実際に作成する場を設定した【資料2】。



【資料2 運動を作成する場】

●評価機会(第4時)

終末段階の学習の振り返りにおいて、ワークシートの記述から、ウォーミングアップの運動を作成する際に、「ねらい」、「偏り」、「自分に合っているか」のどれかの視点で書いているかを見取った。

(3) 思考・判断・表現①「ねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定している。」について

○指導機会(第5時)

展開段階において、前時で学習した運動の原則を基に、調べ学習を行い、その後、グループで意見交換をし、グループごとの運動を作成した【資料3】。実際に動きながら作成する際に、強度、時間、回数、頻度の設定について、自己や仲間の課題に応じた設定にすることや、運動や選択した種目のねらいや体力の実態に合っているか注意しながら運動を行うように促した。



【資料3 考えた運動をグループで共有している様子】

●評価機会(第5時)

終末段階の学習の振り返りにおいて、運動を作成する際、強度、時間、回数、頻度の設定理由を自己や仲間の課題に応じた内容になっているか、ワークシートの記述から見取った。

(4) 主体的に学習に取り組む態度①「自己や仲間の課題解決に向けた話し合いに貢献しようとしている。」について

○指導機会（第1時）

オリエンテーションにて、単元を通してねらいに応じた運動をするために自己や仲間の状況や種目特性を把握した上で、課題解決のための話し合いを積極的に行うことが課題の解決に向けて重要であることについて説明した。

第3時の展開段階において、自己分析や日常の生活を考慮して運動計画を作成し、作成した計画について意見交換する場を設定した【資料4】。



【資料4 作成した計画について意見交換する様子】

●評価機会（第3時）

展開段階において、運動計画の作成と意見交換の様子から見取った。

●評価機会（第5時）

展開段階において、運動計画の作成を行う際にグループで話し合いをしている様子や、運動を行いながら意見交換をしている様子から見取った。

5 C（努力を要する）の児童・生徒に対する支援について

第2時において、「猫背」、「腰痛」など具体的な痛みなどがあることを感じているものの、なぜそのような現象が起こっているのかを分析が十分にできていない生徒がいた。そこで、実際にどのような行動が問題を引き起こしているか考えることができるために、自分の生活習慣を振り返るように促した。自分の生活習慣を振り返ったことで、運動の種類や運動を行う頻度、タイミングなどを工夫することができていた。

6 成果と課題

(1) 成果

評価規準を明確にしたことで、生徒の姿を観察する際、指導した内容を意識することができたため、生徒に分かりやすい説明を行うことができた。その結果、授業中の活動がより充実し、単元の目標としていた生徒を育成することができたと感じている。

(2) 課題

全グループを様相観察していると各グループを見る時間が短時間しかとれず、グループ活動中の発言を聞く時間が十分に確保できなかった。

実践後の感想

単元の指導計画と評価規準を関連付けて計画しておくことで、ワークシート作成から評価までの流れを大変スムーズに進めることができた。特にワークシートの作成は、各評価の記述をうまく1枚にまとめられ、生徒の活用にも教員の評価・管理もしやすかった。



校種・実施学年	高等学校	第2学年
単元等	A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に生かす運動の計画	





1 単元の指導目標

知運	体ほぐし運動・実生活に生かす運動の計画を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解するとともに、手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、仲間と主体的にかかわることができるようにし、自己のねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立て取り組むことができるようにする。
思判表	生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学び	互いに助け合い、高め合おうとすることができるようにする。

2 単元の指導と評価の計画

授業実施数	1	2	3	4	5	6	
学 習 過 程	5	本時の学習内容の確認を行う					
	10	オリエンテーション ・学習の進め方を知る	体ほぐしの運動をする ・心と体のスイッチがオンになるスイッチ・オン・ムーブ ・仲間との信頼関係を築く協力運動 ・ペアで気持ちよく筋肉を伸ばすペア・ストレッチ ・リズムに乗って心が弾むような運動 ・手具を用いて、色々な運動課題に挑戦する運動 (態①) 協力				
	15						
	20	体力を構成する要素を学ぶ (知①)					
	25	体力の構成要素	体力を高める運動をする	体力を高める運動をする	体力を高める運動をする		
	30	・体力テストの振り返り ・自己分析の実施 ・伸ばす体力の目標・計画の確認	運動の計画を立てる (思①) 計画の立案	・持久系トレーニングの学習と実践(ジョギングの効果について) (知②) 運動の行い方	・持久系トレーニングの計画と実践(自己に適したジョギングペースについて)	・持久系トレーニングの実践 (思②) 生涯スポーツの設計	運動計画の振り返りを行う
	35						
	40						
	45						
	50	振り返りを行う					
評 価 機 会	知	①		②			
	技						
	思		①			②	
	態				①		
						総括的評価	

3 単元の評価規準

	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知 ①	体力の構成要素は、健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることについて、言ったり書き出したりしている。	体力の構成要素は、健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることについて、 具体的に 言ったり書き出したりしている。	 (学習カード)
知 ②	体づくり運動では、自己のねらいに応じて、効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることについて、言ったり書き出したりしている。	体づくり運動では、自己のねらいに応じて、効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることについて、 具体的に 言ったり書き出したりしている。	 (学習カード)
思 ①	生活様式や体力の程度を踏まえ、自己のねらいに応じた運動の計画を立案している。	生活様式や体力の程度を踏まえ、自己のねらいに応じた 実現性がある 運動の計画を立案している。	 (学習カード)
思 ②	体づくり運動の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。	体づくり運動の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための 具体的な 関わり方を見付けている。	 (学習カード)
態 ①	仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い高め合おうとしている。	仲間に課題を伝え合うなどの 意義を理解して 、互いに助け合い高め合おうとしている。	 (様相観察)

4 指導機会(○)と評価機会(●)の実際

(1) 知識①「体力の構成要素は、健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることについて、言ったり書き出したりしている。」について

○指導機会（第1時）

展開段階において、体力の構成要素について理解できるようにするために、新体力テストを題材に、8項目の体力評価と5つの運動特性があることを説明した【資料1】。さらに、自分の課題を見付けるためにレーダーチャートと総合評価を学習カードにまとめる場を設定した。



【資料1 運動特性を説明する様子】

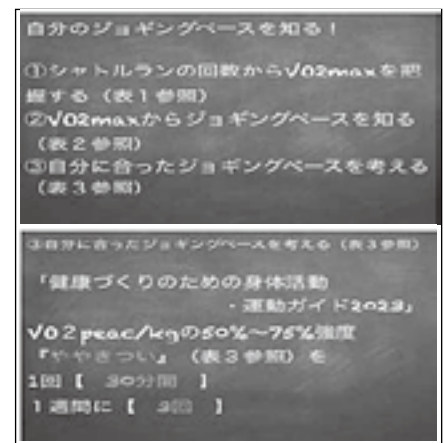
●評価機会（第1時）

終末段階の学習の振り返りにおいて、学習カードの「新体力テストの結果をレーダーチャートと総合評価を完成させてみてわかった自分の課題をまとめなさい」の問いから、体力の構成要素についての記述を見取った。

(2) 知識②「体づくり運動では、自己のねらいに応じて、効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることについて、言ったり書き出したりしている。」について

○指導機会（第3時）

導入段階において、最大酸素摂取量について理解できるようにするために、新体力テストのシャトルランから算出したデータと、「健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023」を活用し、自分の能力に合ったジョギングペースの見付け方について説明した【資料2】。展開段階において、体力を高める運動として持久系トレーニング（ジョギング）を実施した。



【資料2 説明時に提示したスライド】

●評価機会（第3時）

終末段階の学習の振り返りにおいて、学習カードの「ジョギングのペースを決める際に、活用した知識や自己分析などポイントをまとめましょう」の問いから、適切な運動の行い方についての記述を見取った。

(3) 思考・判断・表現①「生活様式や体力の程度を踏まえ、自己のねらいに応じた運動の計画を立案している。」について

○指導機会（第2時）

展開段階において、新体力テストの振り返りと自己の体力課題から、伸ばしたい体力の目標と計画を考える場を設定した。目標を、「筋力向上」と「全身持久力」、「運動不足解消」の3つに絞り、それぞれの運動を紹介し実際に運動を行った【資料3】。その後、それらの運動を組み合わせ、1週間の運動計画を立案する場を設定した。



【資料3 運動を紹介し実践する様子】

●評価機会（第2時）

終末段階の学習の振り返りにおいて、学習カードの「運動計画を立案した際、考えたことをまとめましょう」の問いから、自己の生活や体力をもとに計画している記述を見取った。

(4) 主体的に学習に取り組む態度①「仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い高め合おうとしている。」について

○指導機会（第2時）

展開段階において、ジョギングのペースやフォームの基礎知識を再確認するために、互いに高め合うよさや重要性について説明し、立案した計画をパートナーに対してアドバイスする場を設定した【資料4】。



【資料4 計画を紹介する様子】

●評価機会（第4時）

展開段階において、ジョギングのペースについて新たな発見やフォーム改善など、互いに課題解決に向けて意見交換をしている様子から見取った。

5 C（努力を要する）の児童・生徒に対する支援について

第5時におけるジョギングの実践において、パートナーに対して具体的なアドバイスが出来ない生徒へ支援を行った。何をアドバイスしてよいかわからない生徒に対して、フォームについてアドバイスができるように、前時のジョギングのフォームのポイントについて確認した。また、ペース配分などのアドバイスだけでなく、励ましの声かけも大切であることについて触れることで、技能の視点だけでないことに気付くことができた。

6 成果と課題

(1) 成果

教員側が事前に評価規準を明確にしておくことで、的確に説明したり、指導したりすることができたと感じている。具体的には、自己分析することや実現性の高い計画を作成することなどを指導することで、生徒が前向きに取り組むことができていた。また、その成果として「生涯にわたって、トレーニングやジョギングなどをやってみようと思う」などの感想が見受けられた。

(2) 課題

意見交換などの様相観察において、体育館全体に生徒が分散していたため、評価が難しかった。特に、今回担当した体づくり運動は、単元が短く、協働の場面が何度も設定できるものではないため、多くの生徒を効率よく見取る方法についての課題が残った。

実践後の感想

これまで、各学年間や担当間で単発的な内容に行っていたが、今回初めて入学年次との関連を図りながら指導と評価の計画を立てて実践した。3年間の限られた中で、何を身に付けさせるべきかを他の領域の内容も確認しながら、計画を立てて実践していきたい。

校種・実施学年	高等学校	第1学年
単元等	E 球技 ア ゴール型「ハンドボール」	

1 単元の指導目標

知技	ハンドボールの勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技能の名称や行い方を理解するとともに、安定したボール操作と空間を出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにする。
思判表	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学び	フェアなプレイを大切にしようとすることができるようにする。

2 単元の指導と評価の計画

授業実施数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
学 習 過 程	5	準備運動を行う													
	10	本時の学習内容の確認を行う (態①) 公正													
	15	オリエンテーション	ボール操作の練習を行う ・パス (思①) 課題解決	ボール操作の練習を行う ・パス ・シュート		ボール操作・ボールを持たないときの動き(攻撃時)の練習を行う ・ランニングパス				チーム別練習を行う ・課題解決学習					
	20			ボール操作・ボールを持たないときの動き(攻撃時)の練習を行う ・移動パス ・四角パス		ボール操作の練習を行う ・シュート				ゲーム(前半)を行う					
	25					ボール操作の練習を行う ・パス		ボール操作の練習を行う ・シュート							
	30			ボール操作の練習を行う ・シュート (技①) ボール操作	ボール操作の練習を行う ・シュート		移動パスからシュート ・コースヘシュート		タスクゲームを行う ・数的優位からの攻撃		チーム別練習を行う ・課題解決学習		ミーティングを行う		
	35	タスクゲームを行う			タスクゲームを行う ・数的優位からの攻撃		(技②) 空間を作りだす動き		課題解決学習						
	40	タスクゲームを行う			タスクゲームを行う ・数的優位からの攻撃(2対1 3対2)		簡易ゲームを行う ・3対3		ゲームを行う		ゲーム(後半)を行う				
	45	タスクゲームを行う		タスクゲームを行う ・数的優位からの攻撃(2対1 3対2)		(知①) 技術の名称		(思②) 共生							
	50	振り返りを行う													
評 価 機 会	知			①											総 括 的 評 価
	技					①		②							
	思	①						②							
	態			①						①					

3 単元の評価規準

	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知 ①	技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、言ったり書き出したりしている。	技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、 具体的に 言ったり書き出したりしている。	 (様相観察・学習カード)
技 ①	ゴールの枠内にシュートをすることができる。	適切な動きで ゴールの枠内にシュートをすることができる。	 (様相観察)
技 ②	シュートをしたり、パスを受けたりするために味方が作り出した空間に移動することができる。	シュートをしたり、パスを受けたりするために味方が作り出した空間に 素早く 移動することができる。	 (様相観察)
思 ①	選択した運動について、合理的な動きと仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。	選択した運動について、合理的な動きと仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を 具体的に 仲間に伝えている。	 (様相観察・学習カード)
思 ②	体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。	体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を 複数 見付けている。	 (様相観察・学習カード)
態 ①	相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。	単元を通して 相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。	 (様相観察・学習カード)

4 指導機会(○)と評価機会(●)の実際

(1) 知識①「技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、言ったり書き出したりしている。」について

○指導機会(第4時)

展開段階において、ボールを持っているプレーヤーがディフェンスを引き付け、味方をノーマークにしてシュートを打たせることができるように、2(攻撃)対1(守備)のタスクゲームを設定した。その際、状況に応じた適切なパスの方法について説明し、パスの正確性や選択の大切さを説明した。

●評価機会(第4時)

タスクゲーム後、ペアでプレイに対する課題解決に向けた意見交換を行う場を設定し、その場の様相を観察した。また、授業後の学習カードを用いて、学習活動を振り返りながら、パスの方法やポイントについて記述できているかを見取った。

(2) 技能①「ゴールの枠内にシュートをすることができる。」について

○指導機会(第3時)

導入段階において、シュートをコントロールするには「肩→肘→手首→指先」の順でボールを押し出し、自分の力をボールに伝えることや上半身を倒さずにシュートを打つことを動画や実演によって説明した。また、展開段階のシュート練習において、適宜声かけやアドバイスをを行うと同時に、仲間同士でアドバイスをを行うように促した。

●評価機会(第6時)

展開段階のシュート練習において、ゴールにシュートを狙える的を設定し、狙ったコースに打っているかに着目してシュートフォームを様相観察で見取った【資料1】。



【資料1 シュート練習の様子】

(3) 思考・判断・表現①「選択した運動について、合理的な動きと仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。」について

○指導機会(第2時)

展開段階において、ハンドボールの試合の中で必要となる5つのパスについて、どのパスを選択すべきか、見本を見せながら説明した。また、動いているプレーヤーに正確なパスを出すタイミングやパスを受ける側にターゲットハンドを出すことを意識するように促し、練習や試合を実践した。

●評価機会(第2時)

導入段階のパス練習やスリークロス活動中において、仲間に、声かけやアドバイスができていないかについて、様相観察で見取った【資料2】。また、授業後の学習カードに仲間の課題に関する記述で見取った。



【資料2 練習「スリークロス」の様子】

(4) 主体的に学習に取り組む態度①「相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。」について

○指導機会（第1時）

導入段階において、集団競技を行う上でお互いを尊重し相互の声かけやアドバイスをを行うことの大切さ、また、展開段階において互いを高め合うことの大切さやその為の具体的な援助の仕方について助言した。



【資料3 ミーティングの様子】

●評価機会（第9時）

展開段階のゲーム前のミーティングにおいて、仲間に対して意欲を高めるような声かけを行っているか、プレイ面でのアドバイスや課題解決に向けた意見交換が出来ているか、について様相観察【資料3】と学習カードの記述で見取った。

5 C（努力を要する）の児童・生徒に対する支援について

導入段階ではボールの持ち方や投げ方から指導を行った。授業が進むにつれて、生徒間の技能の差が明確になり、その影響で仲間同士の話し合いや声かけの場面で意見を出しにくくなる生徒が見られるようになった。そこで、そのような生徒に対しての支援として、まず、振り返りシートを使って生徒の課題や問題点を確認し、個別のアドバイスや面談を行った。さらに、班のリーダーや球技が得意な生徒には、技術的なアドバイスだけでなく、良い点を称賛したり、励ましの声かけしたりするように促した。

6 成果と課題

(1) 成果

事前に評価規準を伝えたことによって、生徒は自分が身に付けるべき資質や能力を理解し、課題解決に向けて努力を行う生徒が多く見られるようになった。また、評価規準を共有し、見通しをもつことができたため、仲間に対しての励ましの声かけや自発的な助言を行う生徒が増えた。

さらに、毎時間授業に活気が生まれ、「ハンドボールは面白い」、「2年生でもやりたい」という感想が多くの子から出た。

(2) 課題

今回の授業を通して、個人やチームがそれぞれの課題解決の為に粘り強く取り組もうとする姿は、取り組みや活動に表れてくるので評価しやすかった。しかし、自己の学習を調整しようとする姿は内面的で見取りが難しいと感じた。より適切に生徒の状況を把握するために、生徒が自ら学習の振り返りができるようにし、生徒一人一人が発言する場面やチームで話し合う場面を多く設けるなどの工夫ができるようにしたい。

実践後の感想

今回の取り組みによって、授業評価に対する考え方やこれまでの授業に取り組む姿勢を見つめ直す良い機会となった。特に、生徒の学習状況を把握するための「振り返りシート」において一人一人にコメントを記述することで、生徒の学習に対する意欲の変化を体感できた。これからも、研修などを通じて適切な評価方法を学ぶ必要性を強く感じた。

校種・実施学年	高等学校	第2学年
単元等	E 球技 ア ゴール型「ハンドボール」	









1 単元の指導目標

知技	ハンドボールの勝敗を競ったりチームや事故の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、課題解決の方法を理解するとともに、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などからの攻防することができるようにする。
思判表	生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学び	健康・安全を確保することができるようにする。

2 単元の指導と評価の計画

授業実施数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14			
学習過程	5	準備運動を行う															
	10	本時の学習内容の確認を行う															
	15	オリエンテーション (態①) 協力	ボール操作の練習を行う ・シュート	ボール操作・ボールを持たないときの動き(攻撃時)の練習を行う	ボールを持たないときの動き(守備時)の練習を行う	チーム別ミーティング・練習を行う ・課題解決学習(ボール操作・ボールを持たないときの動き) (思①) 課題解決											
	20	(態②) 安全	タスクゲームを行う (技①) ボール操作	・2対1 ・3対2 (技②) 空間に移動する動き	(技③) 守備	(知①) ポイント (思②) 役割											
	25				タスクゲームを行う	ゲーム(前半)を行う											
	30	ボール操作の練習を行う	簡易ゲームを行う			タスクゲームを行う ・4対4											
	35				1対1 2対1 3対3 2対2 3対2 4対4	チーム別ミーティングを行う											
	40				タスクゲームを行う ・4対4	ゲーム(後半)を行う											
	45																
	50	本時の振り返りを行う															
評価機会	知								①								
	技			①			②			③							
	思										①				②		
	態				①										②		
総括的評価																	

3 単元の評価規準

	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知 ①	技術、戦術、作戦等について、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることを、言ったり書き出したりしている。	技術、戦術、作戦等について、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることを、 具体的に 言ったり書き出したりしている。	 (学習カード)
技 ①	ゴールの枠内にシュートをすることができる。	適切な動きで ゴールの枠内にシュートをすることができる。	 (様相観察)
技 ②	シュートをしたり、パスを受けたりするために味方が作り出した空間に移動することができる。	シュートをしたり、パスを受けたりするために味方が作り出した空間に 素早く 移動することができる。	 (様相観察)
技 ③	チームの作戦に応じた守備位置に移動し、相手のボールを奪うための動きをすることができる。	チームの作戦に応じた守備位置に移動し、 連携して 相手のボールを奪うための動きをすることができる。	 (様相観察)
思 ①	選択した運動について、チームと自己の動きを分析して、よい点や修正点を指摘している。	選択した運動について、チームと自己の動きを分析して、よい点や修正点を 具体的に 指摘している。	 (様相観察・学習カード)
思 ②	チームでの学習で、チームや自己の役割を提案している。	チームでの学習で、 状況に応じて チームや自己の役割を提案している。	 (様相観察・学習カード)
態 ①	互いに助け合い高め合おうとしている。	単元を通して 互いに助け合い高め合おうとしている。	 (様相観察・学習カード)
態 ②	健康・安全を確保している。	健康・安全について 具体的な例を示して 確保している。	 (様相観察・学習カード)

4 指導機会(○)と評価機会(●)の実際

(1) 技能②「シュートをしたり、パスを受けたりするために味方が作り出した空間に移動することができる。」について

○指導機会（第4時）

展開段階において、ハンドボールにおける守備位置と空間の関係性を説明した。また、評価規準に設定している「空間に移動すること」について、具体的に説明した。練習においては、数的優位な状況でタスクゲームを行うなど、空間動作を適切に判断するための状況を作りながら授業を展開した【資料1】。味方が作り出した空間を認識できるようにするために、実践中に適宜声かけしたり、ミーティングの時間を設けたりして、空間の使い方について考えることができるようにした。



【資料1 数的優位のタスクゲームの様子】

●評価機会（第5時）

タスクゲームにおいて、オフザボール（ボールを持たないときの動き）の動きを様相観察から見取った。

(2) 技能③「チームの作戦に応じた守備位置に移動し、相手のボールを奪うための動きをすることができる。」について

○指導機会（第6時）

導入段階において、ハンドボールにおける守備動作の基本を動画視聴しながら動きについて説明した。守備動作の中にも仲間と連携した動きやチームの作戦に応じた動きなど応用した動きがあることを解説し、4対4の守備練習を実践した【資料2】。実践時間は5分間で区切り、課題解決に向けた意見交換をするために話し合いの時間を設定した。その際、各チームの様子を観察しながら、適宜助言をした。



【資料2 4対4のゲームの様子】

●評価機会（第7時）

展開段階における4対4のタスクゲームの場面で、声かけ、マークチェンジ等ができていないかについて、様相観察で見取った。

(3) 思考・判断・表現②「チームでの学習で、チームや自己の役割を提案している。」について

○指導機会（第10時）

導入段階において、本時の課題を明確にするために、前回の学習に関する反省点をもとにして、チームで話し合う時間を設けた【資料3】。その際、各チームで挙がった反省点を全体で共有し、課題解決のために必要な技能等を助言しながらチーム課題に応じた個人の役割を決めるように指示した。



【資料3 話し合いの様子】

●評価機会（第10時）

導入段階の話し合いにおいて、自己や仲間の役割を話すことができているか様相観察で見取った。その際、提案できていない生徒がいるチームには、声かけのポイントを説明した。

(4) 主体的に学習に取り組む態度①「互いに助け合い高め合おうとしている。」について

○指導機会（第1時）

オリエンテーションにおいて、単元計画を説明する際に、課題解決に向けて、チームや仲間で気付いたことや改善点を話し合う時に、チームや仲間の問題点と改善点を見つけて伝え合うことが技能やチーム力の向上に重要であることについて説明した。そして、チームや仲間に対して、気付いたことは伝えるように指示した。このような支援を続けていくことで、単元後半には、技能差に関係なく、多くの生徒が気付いたことを伝えることができていた【資料4】。

●評価機会（第4時）

展開段階の練習時やミーティング時に気付いた問題点や改善点等を仲間に伝えることができていくか様相観察した。また、問題点を客観的に把握することができるようにするために、ICT機器を準備し、生徒には、それを活用するように促し、課題を正確に伝えているか見取った。



【資料4 仲間に気づいたことを伝える様子】

5 C（努力を要する）の児童・生徒に対する支援について

生徒の中には、運動を苦手とする者も数名見受けられ、授業の際は必ず技能と対話力の高い生徒を軸に構成したチームづくりをした。授業の中で、仲間に対して声をかけることができていない生徒に対しては、学習した動きのポイントを説明し、それを基に助言するように促した。

6 成果と課題

(1) 成果

評価規準を明確に生徒に提示したことで、学習の目標や求められる規準が具体的に理解しやすくなり、生徒の学習意欲の向上につながった。特に、生徒が評価の具体を明確に把握できることで、主体的に学習に取り組む姿勢が見られるようになった。また、学習過程において不明点が生じた際には、生徒同士が積極的に質問し合い、互いに教え合う姿が見られた。このように協働的な学習環境が形成されたことで、学習内容の定着が図られるとともに、生徒のコミュニケーション能力や問題解決力の向上にもつながる成果が見られた。

(2) 課題

運動が苦手な生徒の技能の評価が難しい場面があった。この課題を改善するためには、運動が苦手な生徒に対して個別指導の機会を増やすとともに、評価方法の多様化を図る必要があると考える。技能のみならず、資質・能力をバランスよく評価に反映することで、生徒一人一人の成長をより適切に捉えることができると考えられる。

実践後の感想

改めて学習評価について考える良い機会となった。単元構成について、準備に時間を要することもあるが、今回の実践を通して、生徒の学習に対する意欲の変化や技能の向上を的確に見取ることができ指導に生かすことができた。今後は評価方法等について改めて検討し改善を図る必要があると感じた。

校種・実施学年	高等学校	第1学年
単元等	G ダンス ア 創作ダンス	

1 単元の指導目標

知技	ダンスについて感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方を理解するとともに、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方で変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ることができるようにする。
思判表	表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学び	作品や発表などの話合いに貢献しようとすることができるようにする。

2 単元の指導と評価の計画

授業実施時数	1	2	3	4	5	6
学 習 過 程	5	オリエンテーション (態①) 愛好的態度	準備運動を行う			
	10	準備運動を行う	創作ダンスの構成の仕方について学ぶ	ダンス発表会向け、グループでダンスの作成や練習を行う	(思①) 課題解決	ダンス発表会向け、グループでダンスの作成や練習を行う
	15	それぞれのダンスの特徴について学ぶ 空間を使った表現の工夫について学ぶ	「はじめーなかーおわり」の構成を意識して、即興的な表現の活動を行う			
	20	(知①) 踊り方の特徴と表現の仕方	(技①) 表現			
	25	空間を使った表現活動を行う	ダンス発表会の仕方について学ぶ			
	30	・前後 ・左右 ・上下 ・交差	ダンス発表会に向けて、役割分担や演技構成について話し合う			
	35	紙を使って、個や群での表現活動を行う	(態①) 参画			ダンス発表会を行う
	40	・1人で ・ペアで ・グループで				
45						
50	振り返りを行う					
評 価 機 会	知	①				総 括 的 評 価
	技				①	
	思			①	①	
	態			①	①	

3 単元の評価規準

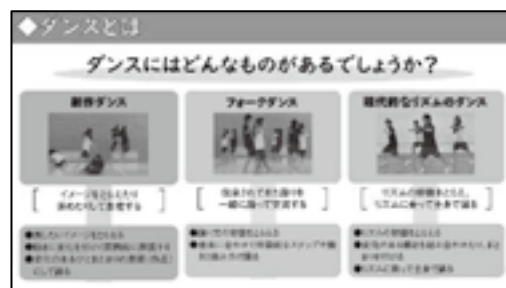
	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知 ①	それぞれの踊りには、その踊りの特徴と表現の仕方があることについて、言ったり書き出したりしている。	それぞれの踊りには、その踊りの特徴と表現の仕方があることについて、 具体的に 言ったり書き出したりしている。	 (様相観察・学習カード)
技 ①	ひと流れの動きで表現して、はじめとおわりを付けて踊ることができる。	ひと流れの動きで表現して、はじめとおわりを付けて 滑らかに 踊ることができる。	 (様相観察)
思 ①	選択した踊りの特徴に合わせて、よい動きや表現と自己や仲間の動きや表現を比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。	選択した踊りの特徴に合わせて、よい動きや表現と自己や仲間の動きや表現を比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を 具体的に 仲間に伝えている。	 (様相観察・学習カード)
態 ①	作品創作などについての話し合いに貢献しようとしている。	単元を通して 作品創作などについての話し合いに貢献しようとしている。	 (様相観察・学習カード)

4 指導の機会（○）と評価機会（●）の実際

(1) 知識①「それぞれの踊りには、その踊りの特徴と表現の仕方があることについて、言ったり書き出したりしている。」について

○指導機会（第1時）

第1時では、「それぞれの踊りには、その踊りの特徴と表現の仕方があること」についての説明を行った。導入段階においては、「世界には、どんなダンスがあるか」について、同じグループの人と交流しながら、自分たちの知っているダンスを挙げていく活動を設定した。また、生徒が挙げたダンスを取り上げながら、「創作ダンス」、「フォークダンス」、「現代的なリズムのダンス」の、3つのカテゴリーに分けられることを、パワーポイントを用いて説明



【資料1 提示したパワーポイント資料①】

した【資料1】。その後、それぞれのカテゴリーのダンス動画を視聴し、学んだ内容を体験的に理解することができるようにするために、実際に踊ってみる活動を設定した。

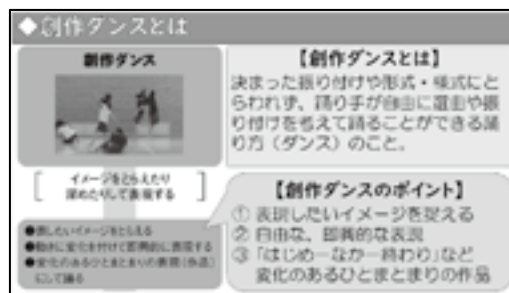
●評価機会（第1時）

第1時の終了後に Google フォームを使って授業アンケートを行った。その記述内容から理解することができているかを見取った。また、第1時の授業のまとめにおいて、学習したことを近くの生徒と話し合う時間を設けており、その時の発言内容等を様相観察で見取った。

(2) 技能①「ひと流れの動きで表現して、はじめとおわりを付けて踊ることができる。」について

○指導機会（第2時）

第2時において、今回の単元の内容である「創作ダンス」の技能のポイントについて、パワーポイントを用いて示した【資料2】。また、創作ダンスの動画を視聴し、表現の仕方や、ひと流れの動きでの表現、「はじめ—なか—おわり」のストーリー性について、説明を行った。その後、簡単な動きでのダンスを行ったり、技能についての指導を行ったりした。



【資料2 提示したパワーポイント資料②】

●評価機会（第5・6時）

第5時のグループ練習の時間に生徒の様相観察、また、第6時のダンス発表会において、各グループのダンスを撮影し、その動画から見取った。

(3) 思考・判断・表現①「選択した踊りの特徴に合わせて、よい動きや表現と自己や仲間の動きや表現を比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。」について

○指導機会（第3・4時）

第3・4時のグループ練習に入る際に、創作ダンスの踊りの特徴について確認を行った。また、「よりダンスの授業を楽しむためには」という発問を行い、よりよい作品作りのために、意見を出したり、改善点を具体的にアドバイスしたりすることが大切であることを説明した。その後、作品作りについて話し合う場を設定した【資料3】。



【資料3 作品作りについて話し合う様子】

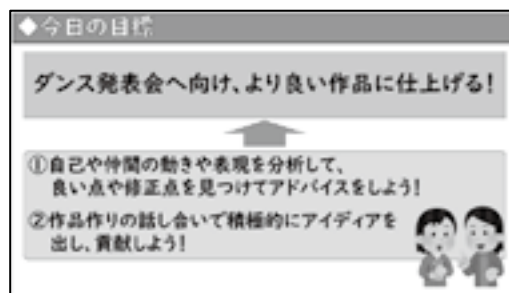
●評価機会（第3・4時）

第3・4時のグループ練習において、生徒の様相観察と授業後の Google フォームを使ったアンケートの記述から見取った。

(4) 主体的に学習に取り組む態度①「作品創作などについての話し合いに貢献しようとしている。」について

○指導機会（第2時）

第2時のダンス発表会へ向けた話し合いの時間の前に、「よりよい作品作りに貢献すること」について説明した。よい点や改善点のアドバイスだけでなく、振り付けに対するアイデアを出したり、他人のアイデアに対して受け身になるだけでなく、賛否の意見をきちんと伝えたりするなど、自主的に取り組んでいくことが創作ダンスを楽しむために大切だということを、パワーポイントを使い説明した【資料4】。



【資料4 提示したパワーポイント資料④】

●評価機会（第3・4時）

第3・4時のグループ練習活動の時間に様相観察にて見取った。（第3・4時以外も、形成的評価を行った。）

5 C（努力を要する）の児童・生徒に対する支援について

第3～5時のグループ活動において、話し合い活動で作品作りに上手く貢献できていない生徒がいた。授業の中で、「誰かの意見に、頷いたり、リアクションをしたりすることも立派な意思表示であり作品作りに貢献することができる。」とアドバイスを行った。また、ダンスが苦手な生徒には、得意な生徒と一緒に練習をするなど、教員から声かけを行ったり、一緒に個別に練習したりするなどの支援を行った。

6 成果と課題

(1) 成果

評価規準を決めておくことで、様相観察の際に見取るポイントが明確になり生徒の学習状況を把握することにつながった。また、パワーポイントで見取るポイントを作成し、スライドで示すことで、生徒の評価に対する理解が深まったと考える。さらに、評価のタイミングや評価を見取る問いなどを事前に決めておくことで、指導内容も焦点化できるので、生徒の活動の充実につながったと考える。

(2) 課題

様相観察で見取る場合、特に技能において、評価規準に表している姿を分かりやすく言語化する必要があると感じた。「滑らかに」をキーワードに見取ったが、それはどのような動きなのかについて説明することが難しかった。

実践後の感想



今回、初めてダンスの授業に取り組んだが、評価の内容やタイミングが明確になることで、指導すべき内容が自然と定まり、授業が充実したと感じた。単元を通して、指導の一貫性が出てくるとともに、見取るポイントが明確だからこそ、生徒の課題等を普通の授業より気付くことができ、多くの助言や的確なフィードバックができた。



校種・実施学年	高等学校	第3学年
単元等	G ダンス ウ 現代的なリズムのダンス	

1 単元の指導目標

知技	現代的なリズムのダンスについて、感じを込めて踊ったり仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、ダンスの名称や用語、文化的背景と表現の仕方、課題解決の方法を理解するとともに、リズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊ることができるようにする。
思判表	生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを伝えることができるようにする。
学び	合意形成に貢献しようとすることができるようにする。

2 単元の指導と評価の計画

授業実施時数	1	2	3	4	5	6	
学習過程	5	オリエンテーション (態①) 愛好的態度	準備運動を行う				
	10	準備運動を行う	現代的なリズムのダンスについて学ぶ (知①) 名称や行い方	ダンス発表会へ向け、グループでダンスの作成や練習を行う			ダンス発表会へ向け、グループでダンスの作成や練習を行う
	15	それぞれのダンスの特徴について学ぶ 空間を使った表現の工夫について学ぶ	リズムの取り方についての活動をする ・アップ、ダウン ・ステップ (技①) リズムの取り方				
	20	(知①) 名称や行い方	現代的なリズムのダンスの表現の工夫について知る (知①) 行い方				
	25	空間を使った表現活動をする ・前後 ・左右 ・上下 ・交差	床を使った動きや身体の部分の強調を取り入れた表現の工夫を行う ・床を使った動き ・アイソレーション (技①) 身体の部分の強調 床を使った表現				
	30	紙を使って、個や群での表現活動をする	音楽に合わせて、即興でダンスを行う。 (態②) 参画				
	35	(思①) 課題分析					
	40	・1人で ・ペアで ・グループで					
45							
50	本時の振り返りを行う						
評価機会	知	①	①			総括的評価	
	技			①			
	思			①	①		
	態		①	②	①		②

3 単元の評価規準

	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	評価規準の具体 (評価方法)
知 ①	ダンスでは、各ダンスで用いられる名称や用語があり、それぞれのダンスには、表現や踊りにつながる重要な動きや空間の使い方などのポイント及び安全で合理的、計画的な練習の仕方があることについて、言ったり書き出したりしている。	ダンスでは、各ダンスで用いられる名称や用語があり、それぞれのダンスには、表現や踊りにつながる重要な動きや空間の使い方などのポイント及び安全で合理的、計画的な練習の仕方があることについて、 具体的に 言ったり書き出したりしている。	 (学習カード)
技 ①	リズムの取り方や床を使った動きなどで変化を付けたり、身体の部位の強調などで動きにメリハリを付けて、二人組や小グループで掛け合って全身で自由に踊ることができる。	リズムの取り方や床を使った動きなどで変化を付けたり、身体の部位の強調などで動きにメリハリを付けて、二人組や小グループで掛け合って全身で自由に踊ることが 滑らかに できる。	 (様相観察)
思 ①	選択したダンスについて、自己や仲間の動きや表現を分析して、よい点や修正点を指摘している。	選択したダンスについて、自己や仲間の動きや表現を分析して、よい点や修正点を 具体的に 指摘している。	 (学習カード)
			 (様相観察)
態 ①	ダンスの学習に主体的に取り組もうとしている。	単元を通して ダンスの学習に主体的に取り組もうとしている。	 (様相観察)
態 ②	作品づくりなどの話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしている。	単元を通して 作品づくりなどの話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしている。	 (様相観察)

4 指導の機会（○）と評価機会（●）の実際

(1) 知識①「ダンスでは、各ダンスで用いられる名称や用語があり、それぞれのダンスには、表現や踊りにつながる重要な動きや空間の使い方などのポイント及び安全で合理的、計画的な練習の仕方があることについて、言ったり書き出したりしている。」について

○指導機会（第1時）

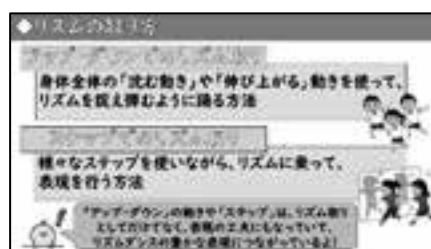
第1時では、「各ダンスで用いられる名称や用語」についての説明を行った。導入段階において、「世界には様々なダンスがありますが、どんなダンスを知っていますか」と発問し、近くの人と交流しながら、自分たちの知っているダンスを挙げていくブレインストーミングを行った。その後、生徒が挙げたダンスを取り上げながら、「創作ダンス」、「フォークダンス」、「現代的なリズムのダンス」という、3つのカテゴリーに分けられることを、パワーポイントを用いて説明し、理解できるようにした【資料1】。



【資料1 提示したパワーポイント】

○指導機会（第2時）

第2時では、それぞれのダンスには、表現や踊りにつながる重要な動きや空間の使い方などのポイントがあることについて説明を行った。前時の振り返りでは、「リズムに乗って体を動かす楽しさ、体を使って表現する楽しさ」といったダンスの楽しさを体験したことを想起できるようにし、「より、ダンスの楽しさを味わうためにはどうしたらよいか」という発問から「動きや空間の使い方を工夫することで、表現がより豊かになる」ということを、パワーポイントを用いて説明し、理解できるようにした【資料2】。



【資料2 提示したパワーポイント】

●評価機会（第1・2時）

第1・2時では、授業のまとめの時間において、学習したことを近くの生徒と話し合う時間を設け、その時の発言内容等を様相観察から見取った。また、授業後のGoogleフォームと授業アンケートの記述内容から見取った。

(2) 技能①「リズムの取り方や床を使った動きなどで変化を付けたり、身体の部位の強調などで動きにメリハリを付けて、二人組や小グループで掛け合って全身で自由に踊ることができる。」について

○指導機会（第2時）

第2時において、「知識①」の指導内容と関連して、「アップ・ダウンでのリズム取り」、「ステップによるリズム取り」、「床を使った表現の工夫」、「アイソレーション(身体の部位の強調)による表現の工夫」を動画を見ながら説明し、実際に踊ってみる活動を行った。また、ダンスの得意な生徒に見本やスマールティチャーとしてアドバイスを行ってもらいながら、技能を身に付けることができたようにした【資料3】。



【資料3 ステップ練習を行う生徒の様子】

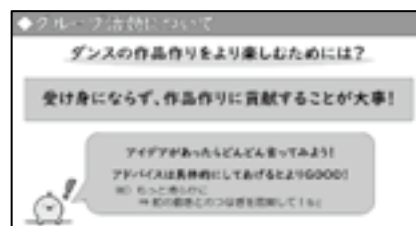
●評価機会（第6時）

第3・4時のグループ練習での様相観察も行い、技能を見取った。主としては第6時のダンス発表会において、各グループのダンスを撮影し、その動画から見取りを行った。

(3) 思考・判断・表現①「選択したダンスについて、自己や仲間の動きや表現を分析して、良い点や修正点を指摘している。」について

○指導機会（第3～5時）

第3～5時のグループ練習に入る際に、「よりダンスの授業を楽しむためには？」という発問を行い、「より良い作品づくりに貢献すること」について説明した。そして、より良い作品づくり貢献するポイントについて、パワーポイントを用いて説明し、理解できるようにした。【資料4】



【資料4 提示したパワーポイント】

●評価機会（第3・5時）

第3・5時のグループ練習の様相観察を行い、発言内容の見取りを行った。また、授業アンケートの記述内容から見取った。

(4) 主体的に学習に取り組む態度②「作品づくりなどの話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしている。」について

○指導機会（第2時）

よい点や改善点のアドバイスだけでなく、振り付けに対するアイデアを出したり、他人のアイデアに対して受け身になるだけでなく、賛否の意見をきちんと伝えたりすることで合意形成を図ることが大切であるということを、パワーポイントを使い説明した。



【資料5 話し合い活動を行う生徒の様子】

●評価機会（第3・5時）

主としては、第3・5時のグループ練習活動の時間に様相観察によって見取った【資料5】。Aの評価規準として、「単元を通して」としており、それ以外の時間にも生徒の様相観察を行い、話し合い活動などで合意形成に貢献する姿が見られた場合には、記録を付けた。

5 C（努力を要する）の生徒に対する支援について

本単元では、C評価となる生徒は見られなかった。C評価の生徒がいた場合、「技能」に関しては、技能が高い生徒とペアやグループにし、段階的に技能が身に付くように教え合い活動を行う。また、良い点や改善点が上手く発見できない場合は、タブレットや鏡を見ながら活動できるようにする。

6 成果と課題

(1) 成果

評価規準を決めておくことで、様相観察の際に見取るポイントが明確になり、生徒の学習状況を把握することにもつながった。

(2) 課題

今回は選択制の授業で、少人数での実施であったため、様相観察も行き届いたが、生徒数が多くなった場合に、どのように見取りを行うかについての工夫が必要である

実践後の感想

今回のダンスの単元では短い単元構成の中で、何を指導し、いつどのような内容を評価するか、焦点化できた。指導内容が明確なので、普段より細かい部分の指導ができ、より多くの生徒の成長に気付くことできた。

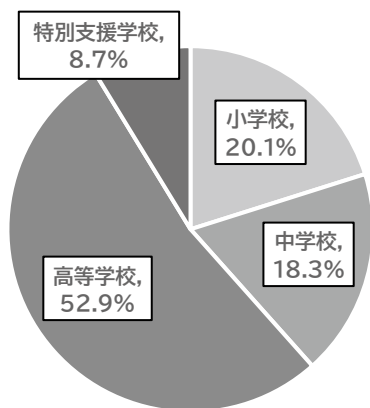


資料編

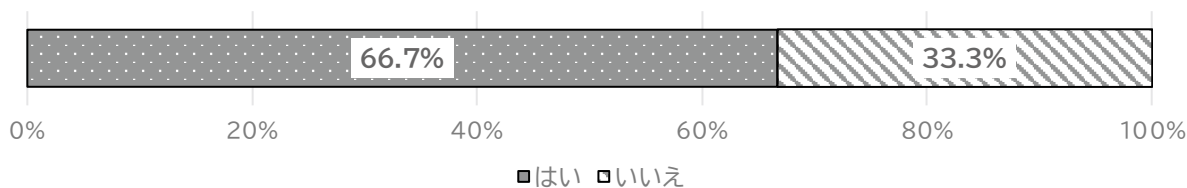
(アンケート結果)

※このアンケートは、体育の授業における評価の実態を把握するために、研究協力校及び本所主催研修の受講者等を対象に実施したものです。

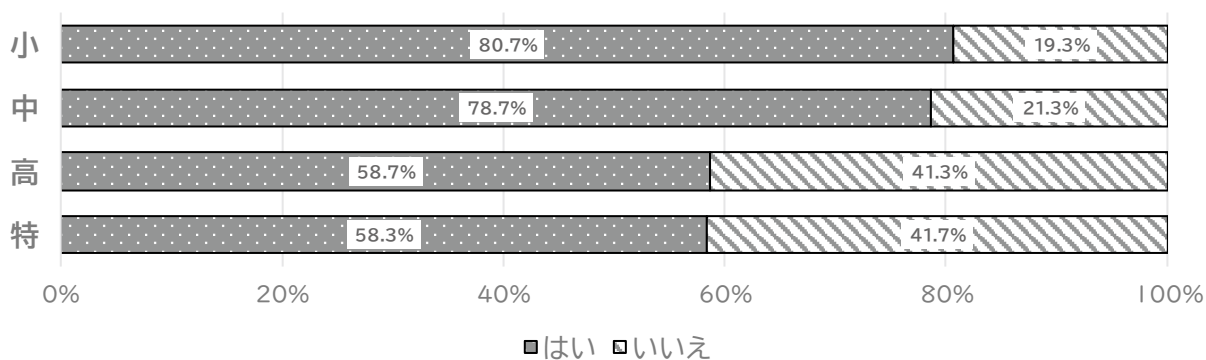
(1) 校種を教えてください。(n=412)



(2) 「体育」の学習評価について困っていますか。【全体】(n=412)



「体育」の学習評価について困っていますか。【校種別】(小 n=83、中 n=75、高 n=218、特 n=36)



(3) (2)で「①はい」と回答した方は以下の質問に回答してください。

「体育」の学習評価について、どのようなことに困っていますか。

各観点(知識、技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)について

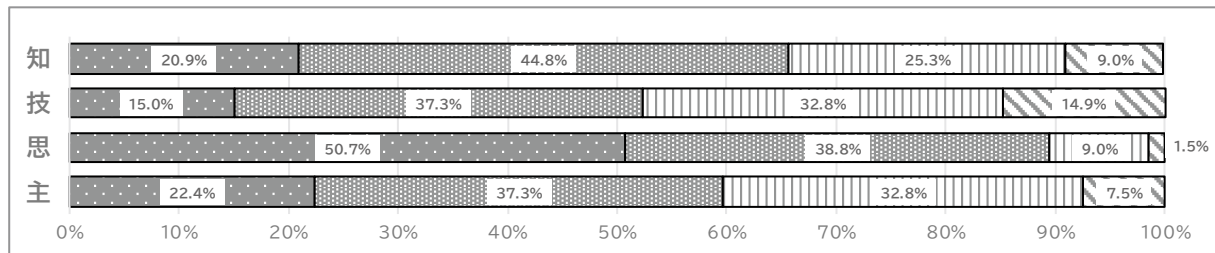
「1あてはまる 2ややあてはまる 3あまりあてはまらない 4あてはまらない」で回答してください。

小学校 (n=67)

■1あてはまる ■2ややあてはまる □3あまりあてはまらない □4あてはまらない

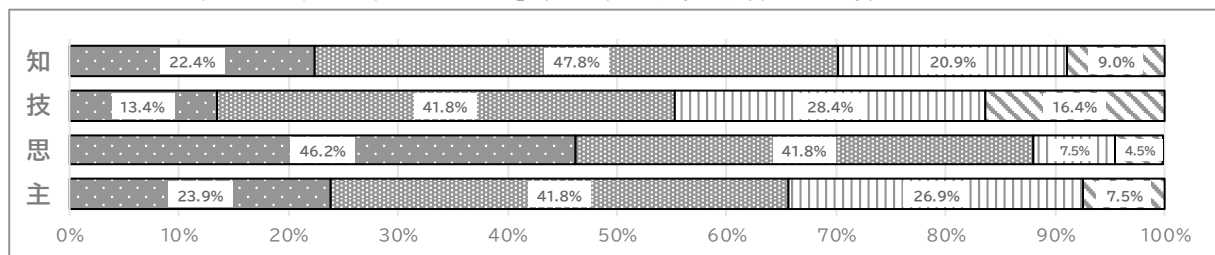
① 評価規準の作成について

※児童・生徒を評価する際の「評価規準の作り方・設定の仕方」が分からずに困っている。



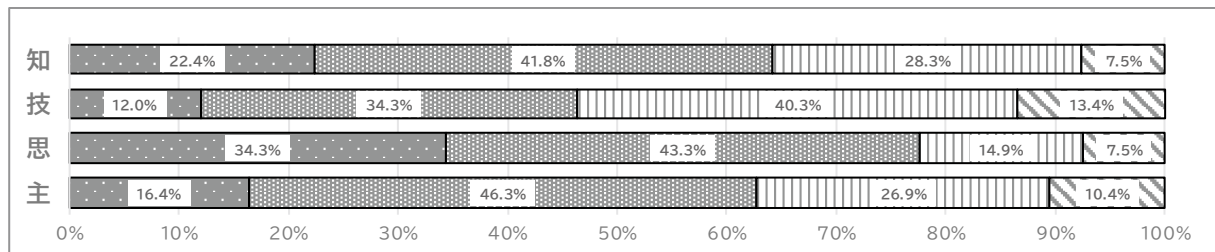
② 評価規準の見取り方（評価の方法）について

※児童・生徒を評価する際の「評価する方法」（例 様相観察、学習カード等）が分からずに困っている。



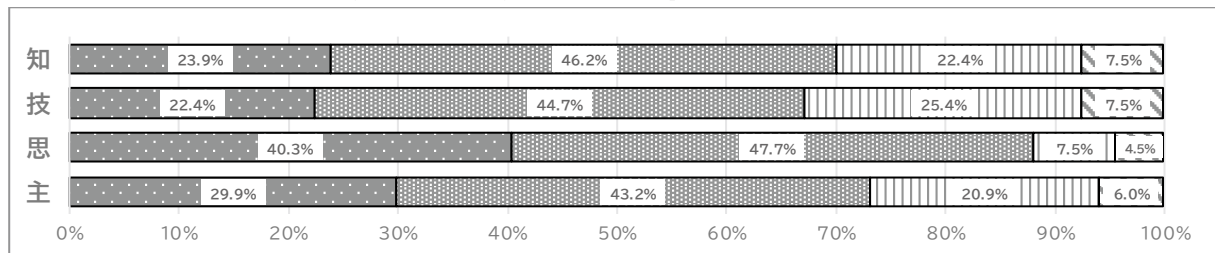
③ 評価を行うタイミング（評価機会）について

※児童・生徒を評価する際の「時間や場面」が分からずに困っている。



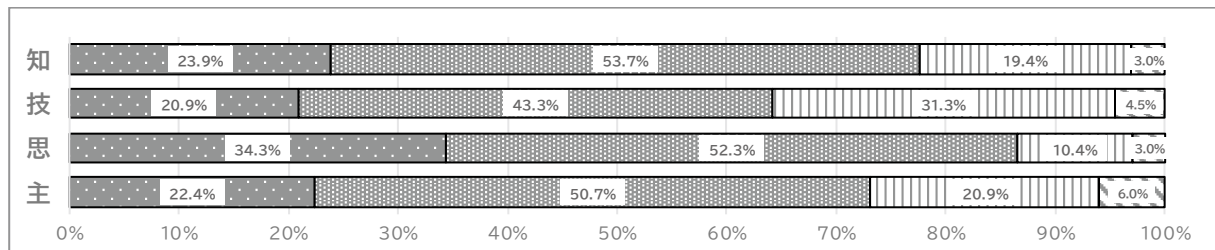
④ 評価する際の判断の目安について

※児童・生徒を評価する際の「(児童・生徒の) A、B、Cの姿」が分からずに困っている。



⑤ 評価したことを次の指導へ生かす方法について

※「評価をどのように指導に活用したらよいか」が分からずに困っている。



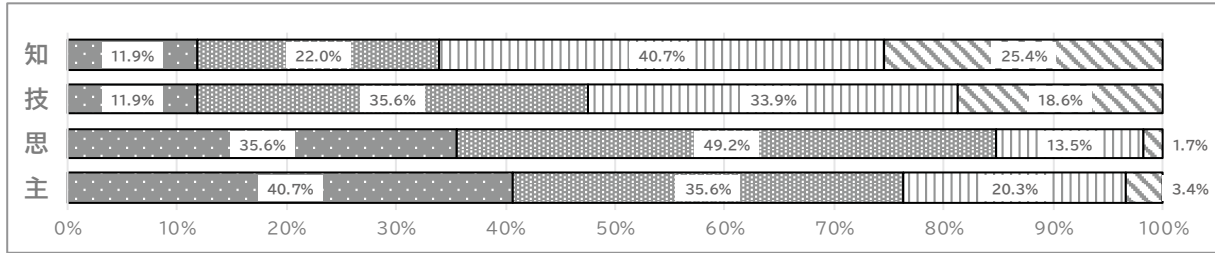
小学校において、各質問項目の中で「思考・判断・表現」に関する困り感が最も大きかった。特に、「①評価規準の作成について」は、「あてはまる・ややあてはまる」と回答した割合が 89.5%と最も高い結果となった。一方、「③評価を行うタイミング（評価機会）について」の「技能」は、「あてはまる・ややあてはまる」の回答が 46.3%と最も低い結果となった。

中学校 (n=59)

■1あてはまる ■2ややあてはまる □3あまりあてはまらない □4あてはまらない

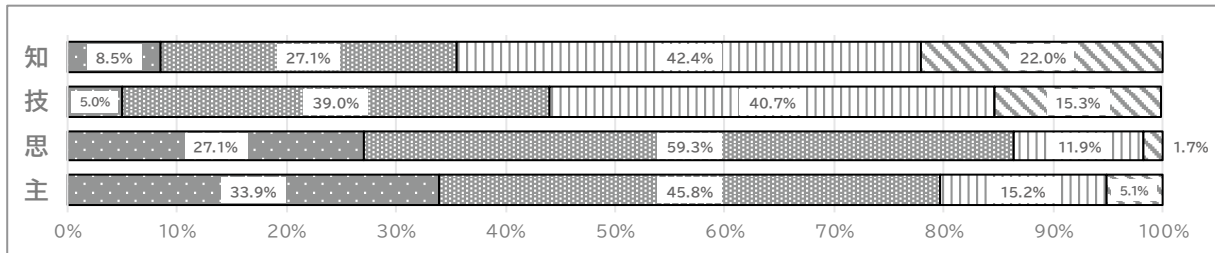
① 評価規準の作成について

※児童・生徒を評価する際の「評価規準の作り方・設定の仕方」が分からずに困っている。



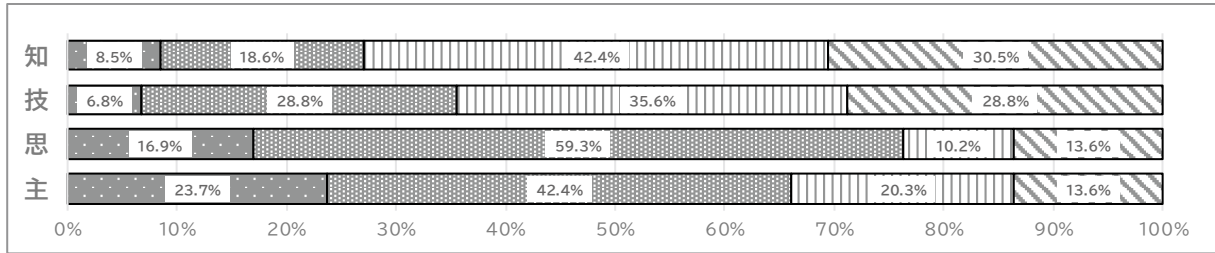
② 評価規準の見取り方(評価の方法)について

※児童・生徒を評価する際の「評価する方法」(例 様相観察、学習カード等)が分からずに困っている。



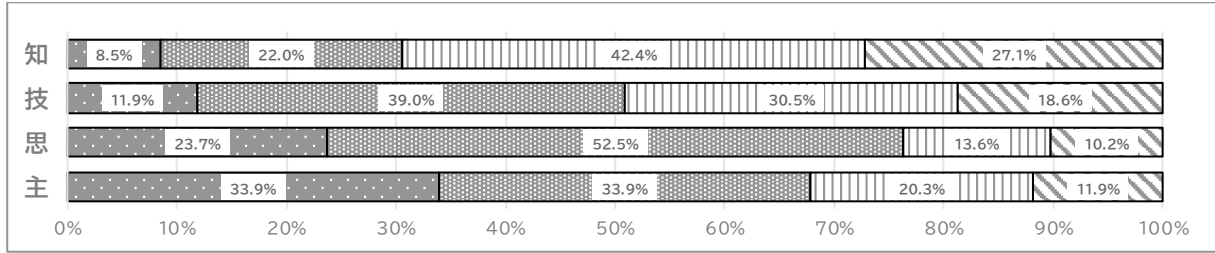
③ 評価を行うタイミング(評価機会)について

※児童・生徒を評価する際の「時間や場面」が分からずに困っている。



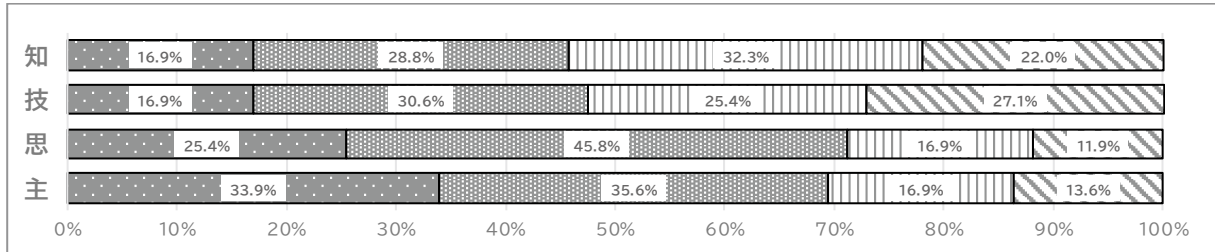
④ 評価する際の判断の目安について

※児童・生徒を評価する際の「(児童・生徒の) A、B、C の姿」が分からずに困っている。



⑤ 評価したことを次の指導へ生かす方法について

※「評価をどのように指導に活用したらよいか」が分からずに困っている。



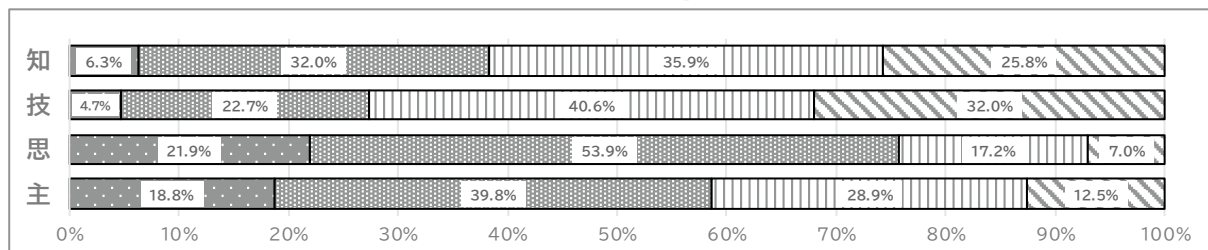
中学校において、各質問項目の中で「思考・判断・表現」に関する困り感が最も大きかった。特に、「②評価規準の見取り方(評価の方法)について」は、「あてはまる・ややあてはまる」と回答した割合が 86.4%と最も高い結果となった。一方、「③評価を行うタイミング(評価機会)について」の「知識」は、「あてはまる・ややあてはまる」の回答が27.3%と最も低い結果となった。

高等学校 (n=128)

■1あてはまる ■2ややあてはまる □3あまりあてはまらない □4あてはまらない

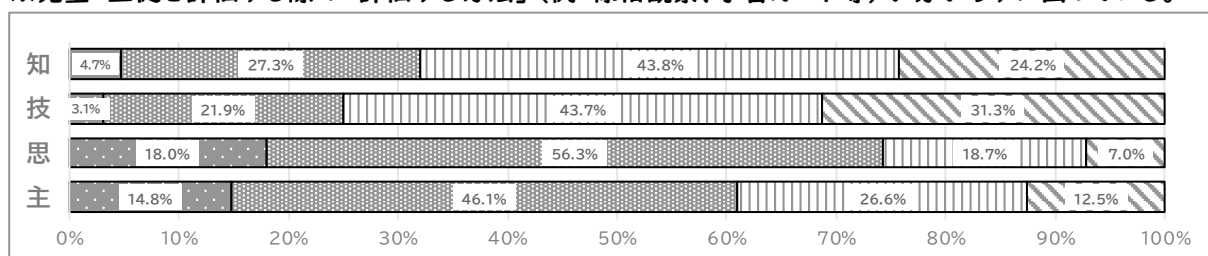
① 評価規準の作成について

※児童・生徒を評価する際の「評価規準の作り方・設定の仕方」が分からずに困っている。



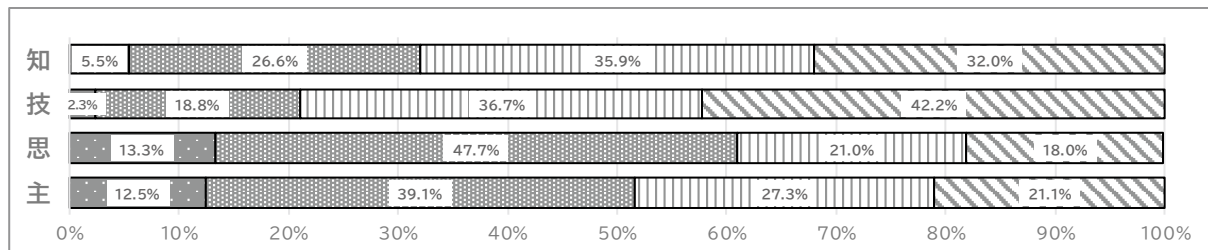
② 評価規準の見取り方（評価の方法）について

※児童・生徒を評価する際の「評価する方法」（例 様相観察、学習カード等）が分からずに困っている。



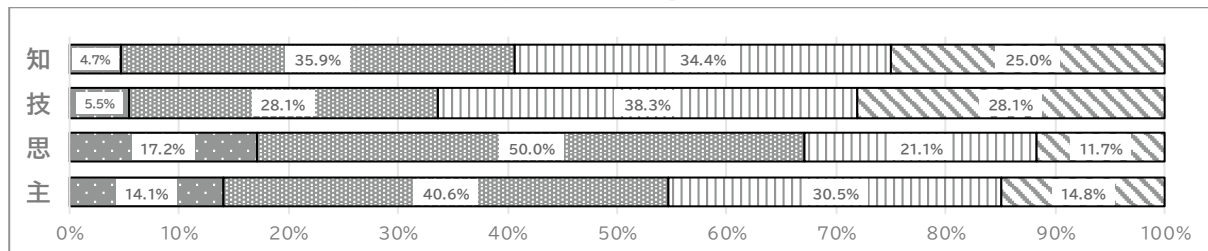
③ 評価を行うタイミング（評価機会）について

※児童・生徒を評価する際の「時間や場面」が分からずに困っている。



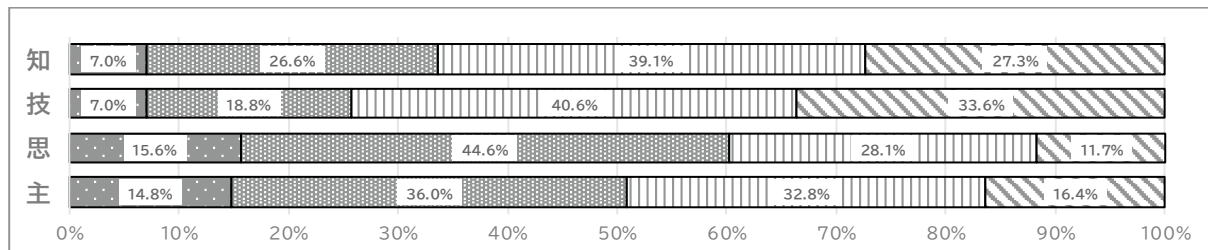
④ 評価する際の判断の目安について

※児童・生徒を評価する際の「(児童・生徒の) A、B、Cの姿」が分からずに困っている。



⑤ 評価したことを次の指導へ生かす方法について

※「評価をどのように指導に活用したらよいか」が分からずに困っている。

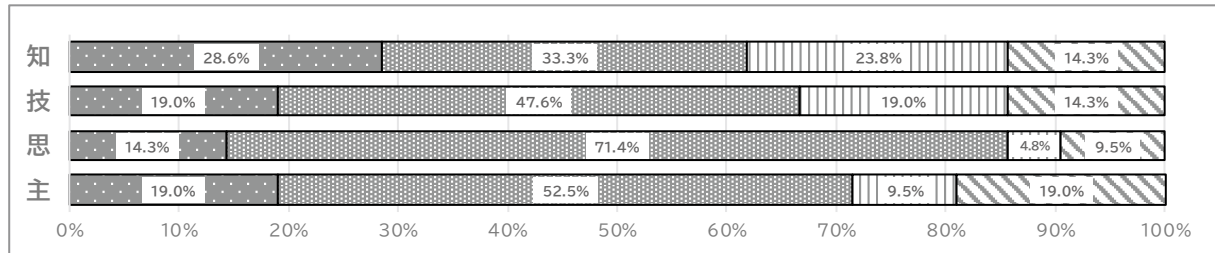


高等学校において、各質問項目の中で「思考・判断・表現」に関する困り感が最も大きかった。特に、「①評価規準の作成について」は、「あてはまる・ややあてはまる」と回答した割合が75.8%と最も高い結果となった。一方、「③評価を行うタイミング（評価機会）について」の「技能」は、「あてはまる・ややあてはまる」の回答が21.1%と最も低い結果となった。

特別支援学校 (n=21) ■1あてはまる ■2ややあてはまる ■3あまりあてはまらない ■4あてはまらない

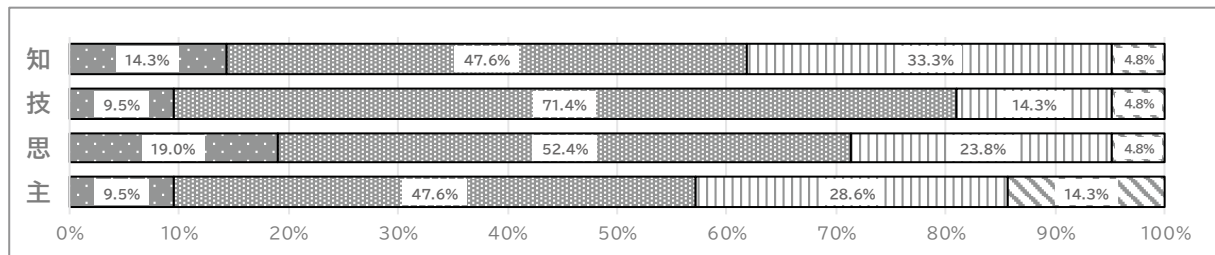
① 評価規準の作成について

※児童・生徒を評価する際の「評価規準の作り方・設定の仕方」が分からずに困っている。



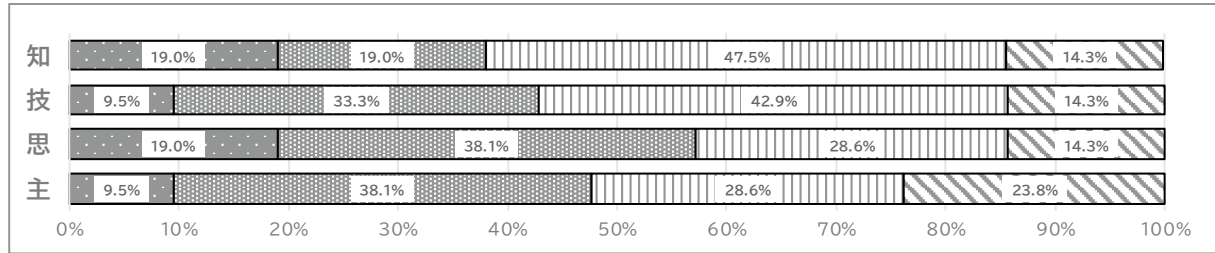
② 評価規準の見取り方（評価の方法）について

※児童・生徒を評価する際の「評価する方法」（例 様相観察、学習カード等）が分からずに困っている。



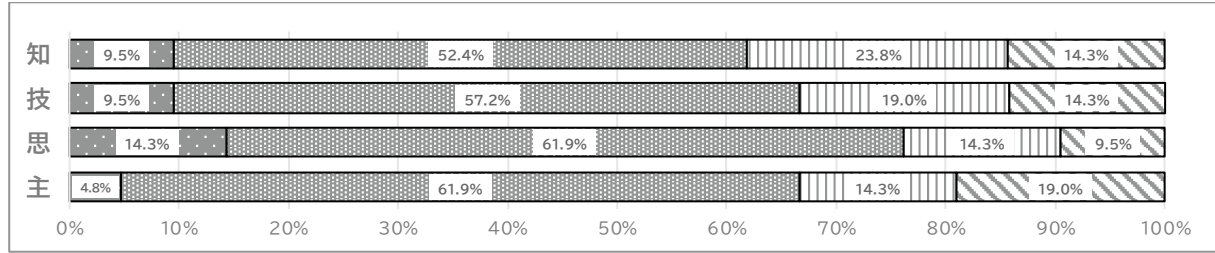
③ 評価を行うタイミング（評価機会）について

※児童・生徒を評価する際の「時間や場面」が分からずに困っている。



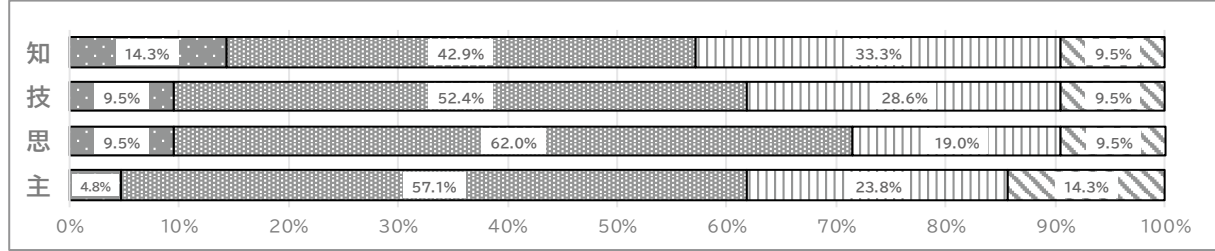
④ 評価する際の判断の目安について

※児童・生徒を評価する際の「(児童・生徒の) A、B、Cの姿」が分からずに困っている。



⑤ 評価したことを次の指導へ生かす方法について

※「評価をどのように指導に活用したらよいか」が分からずに困っている。



特別支援学校において、①、③、④、⑤の質問項目の中で「思考・判断・表現」に関する困り感が最も大きかった。②の質問項目は、「技能」に関する困り感が最も大きかった。「①評価規準の作成について」の「思考・判断・表現」は、「あてはまる・ややあてはまる」と回答した割合が85.7%と最も高い結果となった。一方、「③評価を行うタイミング（評価機会）について」の「知識」は、「あてはまる・ややあてはまる」の回答が38.0%と最も低い結果となった。

Q&A

評価に関する悩みの中でも、特に多く寄せられた質問	…… P112
「評価規準の作成」に関連する質問	…… P112
「評価規準の見取り方(評価の方法)」に関する質問	…… P115
「評価を行うタイミング(評価機会)」に関連する質問	…… P118
「評価する際の判断の目安」に関連する質問	…… P118
「評価したことを次の指導へ生かす方法」に関連する質問	…… P119

※この Q&A は、本調査のアンケートにおいて、「『体育』の学習評価を行うにあたり、困っていることや悩んでいることがあれば記述してください。(自由記述)」の項目でいただいた質問を整理し、回答を作成したものです。

評価に関する悩みの中でも、特に多く寄せられた質問

Q1

運動が苦手な児童生徒でも評価がAになることがありますか？

(関連内容 理論編 P13 「⑥観点ごとに総括する。」)

あります。まず評価する際の前提として、3つの資質・能力をバランスよく育て、3観点で評価することが大切です。例えば観点別評価が、「知識 (A)・技能 (C)」⇒B、「思考・判断・表現」⇒A、「主体的に学習に取り組む態度」⇒A の場合、総括が BAA となり、評価が A となることは考えられます。

Q2

多くの児童生徒が活動している中で、円滑に評価を行うにはどうしたらよいですか？

パフォーマンス評価をゲームや話し合いなどの活動を通じて行う際は、個々の児童生徒を順番に評価するのではなく、全体を見渡しながらか、(A) と (C) に該当する児童生徒をピックアップします。その際、評価者は、(B) の評価規準をしっかりと頭にいれておくことがポイントです。全体を観察する中で、(A) や (C) に該当する児童生徒を確認できた場合に、その児童生徒を記録します。最終的に、(A) と (C) に該当しなかった児童生徒については (B) として評価します。

「評価規準の作成」に関連する質問

Q3

個人差がある中で、何を基に評価したらよいですか？

(関連内容 理論編 P10 「③単元の評価規準を作成する。」)

指導対象の児童生徒の中には、器械運動が得意な子やボール運動・球技が得意な子、コミュニケーション能力が高い子など多様な児童生徒がいると考えられます。そのため、評価を行う際は、あらかじめ評価規準を作成しておきます。評価規準は、学習指導要領の内容を基に単元が始まる前に作成します。作成にあたっては、各学校の実態を踏まえ、体育・保健体育および学年の目標に準拠していることが求められます。さらに、児童生徒の運動経験や学習の積み重ねを考慮するとともに、前の学年や次の学年との系統性も考える必要があります。

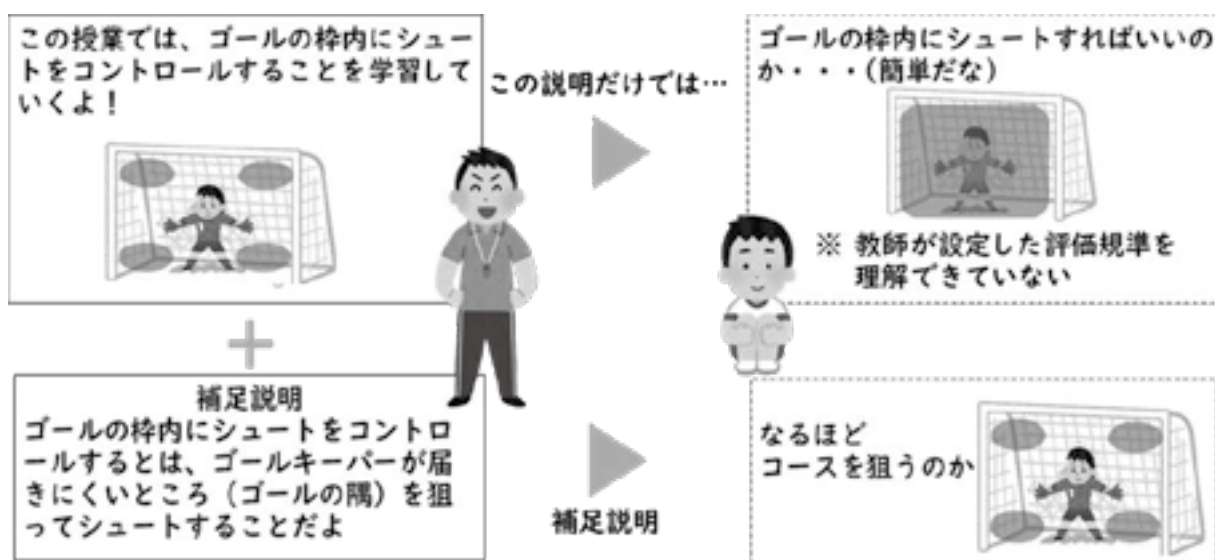
Q5

評価に関するルーブリック表の作成のポイントはありますか？

A	ゴールの枠内かつ①空いているコースに②強いシュートをコントロールすることができる。
B	ゴールの枠内にシュートをコントロールすることができる。
C	A・B以外

上の表は、(A)を「空いているコースを狙う(下線①)」と「強いシュート打つ(下線②)」の両方を含む、ルーブリックの例を示しています。この場合①と②の両方を満たさなければ(A)と判断できません。このように、1つの評価に複数の要素が含まれると、評価が難しくなります。そのため、1つの要素に絞り、迷わずに評価できるようにすることが大切です。

また、(B)の「ゴールの枠内にシュートをコントロールすること」については、具体的にどのようなことを指すのか、補足説明が必要です。



Q6

教員間で評価基準を共有するためには、どのようなことが考えられますか？

例えば、評価基準や評価方法を事前に協議し明確化することや、評価に関する実践事例を蓄積し共有すること、評価結果の検討等を通じて評価に関する教員の力量の向上を図ること、教務主任、研修主任や教科主任等を中心として学年会や教科等部会等の校内組織を活用することなどが考えられます。

指導と評価の計画を作成することは、指導目標を達成する上で大切です。単元に入る前に、① 単元の時間数の確認、② 指導内容の確認、③ 診断的評価を実施し、計画を作成します。

① 単元の時間数の確認

まず、実施する単元の時間数を確認します。単元の時数によって、②、③に関係する指導内容に繋がります。また、児童生徒に対して単元のオリエンテーション時に時間数を伝えたり、単元の途中で残り何時間実施するかを知らせたりすることで、児童生徒は見通しをもって学習に臨むことができます。

② 指導内容の確認

次に、時間数を基に指導内容を決定します。学習指導要領を参考に、資質・能力別の指導目標や例示を活用します。指導内容は、担当教員が単独で決めるのではなく、年間指導計画に基づき、教員間で「各単元で児童生徒が身に付ける内容」を共有し、連携して決定します。また、指導内容が過多にならないよう精選します。

③ 診断的評価の実施

単元実施前に、児童生徒にアンケートや試しのゲーム等を通じて診断的評価を行います。②で確認した指導内容を基に作成した計画が、児童生徒の実態と合っているかを確認し、必要に応じて修正・変更します。また、単元の途中では形成的評価を実施し、児童生徒がどの程度学習内容を身に付けているかを確認します。計画はあくまでも案であり、児童生徒の実態や学習状況に応じて柔軟に修正・変更していくことが求められます。

以上、①～③を実施して、計画を立て授業を進めていきます。この取組を継続的に行うことや、他の教員と共有することが、より良い指導と評価につながります。

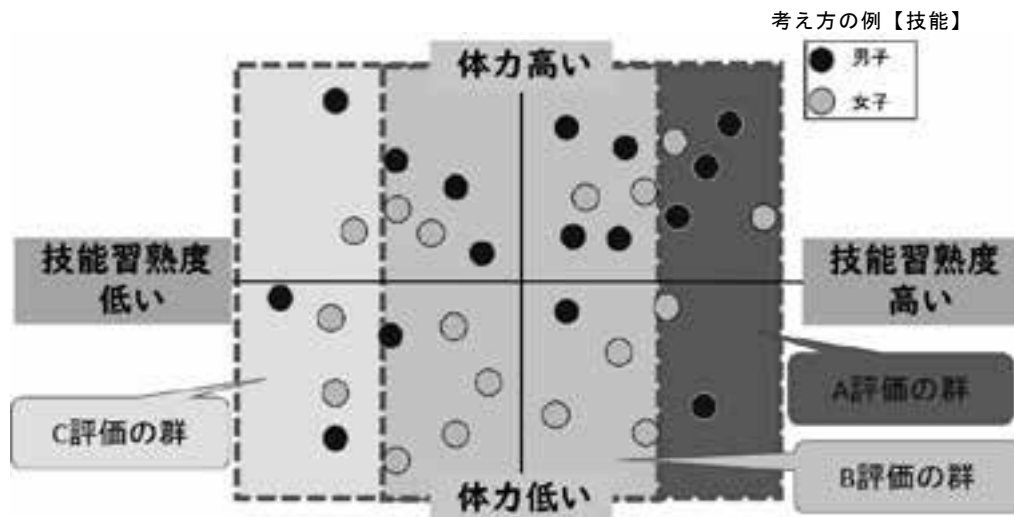
「評価規準の見取り方(評価の方法)」に関する質問

評定は、単元末や学期末等を実施される観点別学習状況の評価を総括したものです。評定へ反映する際には、各単元の配当時間数や指導事項に対応した評価規準数を考慮するのか、また観点ごとバランスをどのように設定するのかなど、評定への総括の考え方や方法を、各学校で十分に検討する必要があります。すなわち、評価をどのように評定へ反映させるか、また評定の適切な決定方法等については、各学校で定めることとなります。

Q9

男女共習における技能の評価はどのようにすればよいですか？

技能の評価においては、性別や体力の差ではなく、個々の能力の違いであるという考え方が大切です。評価規準に照らし、単元を通して身に付けた技能を、的確に見取ります。



Q10

ワークシートの記述をどのように評価すればよいですか？

ワークシートの記述内容が「感想」や「がんばったこと」だけにならないようにするためには、指導した観点に沿った「問い」を設定することが大切です。例えば、本時で「球技の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあること」について指導し、それを評価するのであれば、ワークシートの記述欄に「学習したパスにはどのようなパスがありましたか。また、そのポイントやコツは何ですか」という問いを作り、児童生徒の考えを導きます。

Q11

長期見学等の児童生徒の評価についてどうしたらよいですか？

児童生徒の中には、一時的なけがや病気のため、実施する単元を休んだり見学したりする場合があります。体育の授業の場合、運動する場面が多くなり、「技能」の学習が中心に展開されます。しかし、授業を通じて身に付けるべき資質・能力は「技能」だけではありません。例えば、その行い方を知る（知識）、自己や仲間の課題を発見し伝える（思考・判断・表現）、互いに助け合い教え合おうとする（主体的に学習に取り組む態度）など、学習内容は多岐にわたります。そのため、授業では指導内容や学習場面、教材等を工夫し、3つの資質・能力をバランスよく指導、評価することが大切です。

Q12

思考・判断・表現の評価はどのような方法がありますか？

(関連内容 理論編 P7 「2. 学習評価の考え方『②思考・判断・表現』」)

既存の知識や気付きを基に、課題を発見する場面での評価（課題発見）、自身の動きをモデルとなる動きと比較したり、学習したことと関連付けたりするなどして、課題を解決する方法を考えている場面での評価（課題解決）、学習を通して考えたことを仲間に伝える場面での評価（考えたことを表現）を行う方法として、学習カード、論文やレポートの作成、観察から行うことなどが考えられます。さらに、それらを集めたポートフォリオの活用も考えられます。

また、思考・判断・表現の評価において、学習カードの中でなぜそう考えたのか理由を問う設問や学習内容と既習の内容を比較したり関連付けたりする設問を設定するなど内容を明確にしておくことが大切です。

Q13

評価における ICT 活用のポイントは何か？

3つの資質・能力の何を育成するものなのか、ねらいや効果を十分検討した上で、「どの観点（3観点）を」「どの場面で」「どのように（ツールや方法等）」を考えることが必要です。

活用例

観点	場面	どのように（ICTを活用した評価方法）
知識	柔道の受け身や技の名称・体さばき等の理解度を確認する場面	動画教材やプレゼンテーションを活用し、アンケート作成・管理ウェブアプリケーションで知識の定着度に関してテストを行う。その回答を基に、理解度を評価する。
技能	陸上競技（走り幅跳び）の踏切動作や空中姿勢を学習する場面	タブレットのスローモーション機能で撮影し、踏切の位置や空中動作の変化や改善度を記録する。その記録映像を基に、技能の定着を評価する。
思考・判断・表現	バレーボールの試合後に、チームの課題やその解決方法を考える場面	試合映像を撮影し視聴した後、共有ウェブアプリケーションを活用し、生徒の課題や解決方法を集約する。その集約したデータを基に、教員が適切に課題や解決策を考へることができているかを評価する。
主体的に学習に取り組む態度	体力や技能の程度にかかわらず全員が楽しめるルールを考へ、実際にそのルールを基に行った試合を振り返る場面	アンケート作成・管理ソフトウェアを使い、ルールを考へて試合を行った際の意見や感想等を集約する。その集約したデータを基に、指導した内容について取組もうとしていたか、また、これからしていこうとしているかを評価する。

「評価を行うタイミング（評価機会）」に関連する質問

Q14

評価方法のタイミングはどうしたらよいですか？

（関連内容 理論編 P11、12 「④指導と評価の計画を作成する。」）

「知識」と「思考・判断・表現」の評価は、学習カード等の記述を一つの手がかりとしながらも、児童生徒の実際の行動や発話など多面的な観点から行うことが求められます。特に、指導から期間を置かず即時評価を行うことで、理解の程度を把握し、適切な支援につなげることが大切です。また、児童生徒の発言や行動を「観察評価」によって捉え、それを加味することで評価の妥当性や信頼性を高める工夫も必要です。一方、「技能」と「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、技能の獲得や向上には一定の学習期間が必要であり、主に「観察評価」を通じて行うため、指導後に十分な学習期間と評価期間を設けることが適切です。このように、評価にあたっては、観点到じた期間や方法を考慮し、児童生徒の実態を的確に捉えることが求められます。

「評価する際の判断の目安」に関連する質問

Q15

体育の学習において、どのように A 評価を考えればよいですか？

（関連内容 理論編 P13 「⑥観点ごとに総括する。」）

体育の学習において、教員は学習を通して育むべき資質・能力を明確にしておくことが大切です。また、十分満足できる姿（A）は、おおむね満足できる姿（B）を踏まえた上で（B）の姿よりも高まった姿を示しますが、（A）の姿は（B）の姿とは異なる新たな姿として設定するものではないことに注意する必要があります。

Q16

小学校において、知識や思考力があっても技能が十分に発揮できない児童、またはその逆の児童をどのように評価すればよいですか？

小学校では、「運動をしながらの気付き」も知識として捉え、知識と技能を切り離さずに考えます。そのため、「できる」ようになってから「分かる」こともあれば、「分かっている」けれど「できない」こともあります。技能で「できない」場合でも、「分かっている」知識はしっかりと評価することが大切です。一方で、技能は「できている」ものの、知識として「言葉や文章として表現できない」場合も考えられます。知識と技能を切り離さずに捉えることは大切ですが、それぞれの評価規準を明確にしておくことが求められます。

「評価したことを次の指導へ生かす方法」に関連する質問

Q17

評価したことの中でも、どのような内容をフィードバックしたらよいですか？
(関連内容 理論編 P5 「(2) 評価の基本構造」)

記録の伸びや動きの高まりは、学習の中で即時に評価し、児童生徒に積極的にフィードバックします。その際、伸びた要因を考える場面等を設定することで、自己調整力を育むことにもつながります。また、観点別学習状況の評価や評定には示しきれない、児童生徒一人一人の良い点や可能性、進歩の状況は、「個人内評価」として実施します。「個人内評価」の対象となるものは、児童生徒が学習の意義や価値を実感できるよう、日々の教育活動等の中で伝えることが大切です。特に、「学びに向かう力、人間性等」のうち、「感性や思いやり」など児童生徒の良い点や可能性、進歩の状況などは積極的に評価し、児童生徒に伝えることが大切です。

Q18

児童生徒の自己評価やグループ評価を評価に活用するにはどうしたらよいですか？

まず、児童生徒の学習の定着状況や課題を的確に把握することが大切です。そのためには、児童生徒の実態や学習の流れに沿った評価規準を設定し、「できた」「できていない」が明確に分かるようにします。例えば、小学校3年生「跳び箱運動」における開脚跳びでは、「踏切」、「着手」、「着地」の3つの局面に着目し、それぞれの局面で理想的な動きができていないかを自己評価できるようにします。その際、ICTを活用し、児童生徒が自分の動きや他者の動きを動画で撮影し、振り返ることで、より客観的な自己評価やグループ評価が可能となります。こうした評価をもとに、児童生徒の学習状況を把握し評価に活用します。

Q19

自己評価や振り返りをどのように評価に生かせばよいですか？

例えば、高等学校学習指導要領解説保健体育編においては、科目「体育」の思考力、判断力、表現力等に関する内容は、入学年次、またはその次の年次以降のすべての運動領域の内容の冒頭部分に、「自己やチームの課題を発見し」と記載されています。これは、授業中に自身や仲間の動きを振り返る学習が必要であることを示しています。そのため、課題を発見している姿（発言、記述等）を明確にし、判定の目安を設定しておくことが大切です。また、その姿が見られた、あるいは見られなかった場合には、生徒に対し明確に伝えることで、生徒の学習改善につなげることができます。この考え方は他の評価の観点にも共通しています。

Q
&
A

Q20

評価の内容をどのように生徒に伝えればよいですか？

指導したことを評価する際に、児童生徒に評価の内容を的確に伝えることは、児童生徒の学習改善につながるだけでなく、学習意欲を高めることにもつながります。例えば児童生徒がペーパーテストの返却や学期末に通知表を受け取る際、自分がどのように評価されているのかを楽しみにしている様子が見られます。このように評価したことを児童生徒に適正にフィードバックすることは非常に大切です。また、フィードバックは単元末や学年末に評定としてだけ示すのではなく、単元計画の中で、評価規準に基づく姿が現れたときや、その姿に満たなかったときにも、その都度伝えることが大切です。こうした継続的な評価の共有を通じて、指導と評価の一体化（指導したことを評価する）を図ることができます。

研 究 組 織

●令和5年度「体育の授業における学習評価の考え方・進め方」調査研究委員会

福岡教育大学	本多 壮太郎	教授
帝京大学	高田 彬成	教授
環太平洋大学	清田 美紀	准教授
福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課	佐藤 祐樹	指導主事
福岡県教育庁教育振興部特別支援教育課	久保 卓史	指導主事
八女市立黒木小学校	宮原 健次	主幹教諭
飯塚市立二瀬中学校	泉 啓司	主幹教諭
福岡県立福岡農業高等学校	内田 ひろみ	教頭
福岡県立川崎特別支援学校	本田 橋幸	教諭

●令和5年度福岡県体育研究所（事務局、編集委員等）

所長	安永 千里			
次長	中村 満喜子			
主事補	長澤 智美			
総括指導主事	門司 栄一			
指導主事	内田 郁美	正木 篤志	大和 忠輔	
	吉廣 精人	大野 義仁		
長期派遣研修員	瀬木 惇仁	三苫 弘光	山室 勇二	

●令和6年度「体育の授業における学習評価の考え方・進め方」調査研究委員会

福岡教育大学	本多 壮太郎	教授
帝京大学	高田 彬成	教授
環太平洋大学	清田 美紀	准教授
福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課	新田 聖	指導主事
福岡県教育庁教育振興部特別支援教育課	菊地 雄一	指導主事
八女市立長峰小学校	宮原 健次	教頭
宗像市立日の里中学校	佐藤 祐樹	教諭
福岡県立太宰府高等学校	内田 ひろみ	教頭
福岡県立川崎特別支援学校	本田 橋幸	教諭

●令和6年度「体育の授業における学習評価の考え方・進め方」調査研究事業研究協力校

直方市立上頓野小学校	大牟田市立大牟田中央小学校	吉富町立吉富小学校
新宮町立新宮中学校	朝倉市立甘木中学校	飯塚市立二瀬中学校
福岡県立須恵高等学校	福岡県立春日高等学校	福岡県立朝倉東高等学校

●令和6年度福岡県体育研究所（事務局、編集委員等）

所長	末富 寿典			
次長	末竹 知香			
主事補	江藤 美枝子			
総括指導主事	門司 栄一			
指導主事	小塩 淑恵	正木 篤志	大和 忠輔	
	石崎 幸太郎	山口 拓郎		
長期派遣研修員	松尾 聡一郎	一木 翔吾	隈本 華行	

令和5・6年度 福岡県体育研究所 調査研究報告書
体育の授業における学習評価の考え方・進め方

令和7年3月発行（非売品）

編集・発行 福岡県体育研究所

〒812-0852

福岡県福岡市博多区東平尾公園2丁目1番4号

（福岡県立スポーツ科学情報センター内）

TEL 092-611-0220

FAX 092-611-1747

E-mail: taiikukenyusho@pref.fukuoka.lg.jp

印刷所 株式会社 ビー・ピー・シー

福岡県行政資料	
分類番号 IA	所属コード 2124100
登録年度 6	登録番号 0001



体育研究所HP



体育研究所Instagram

